



Vezei

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

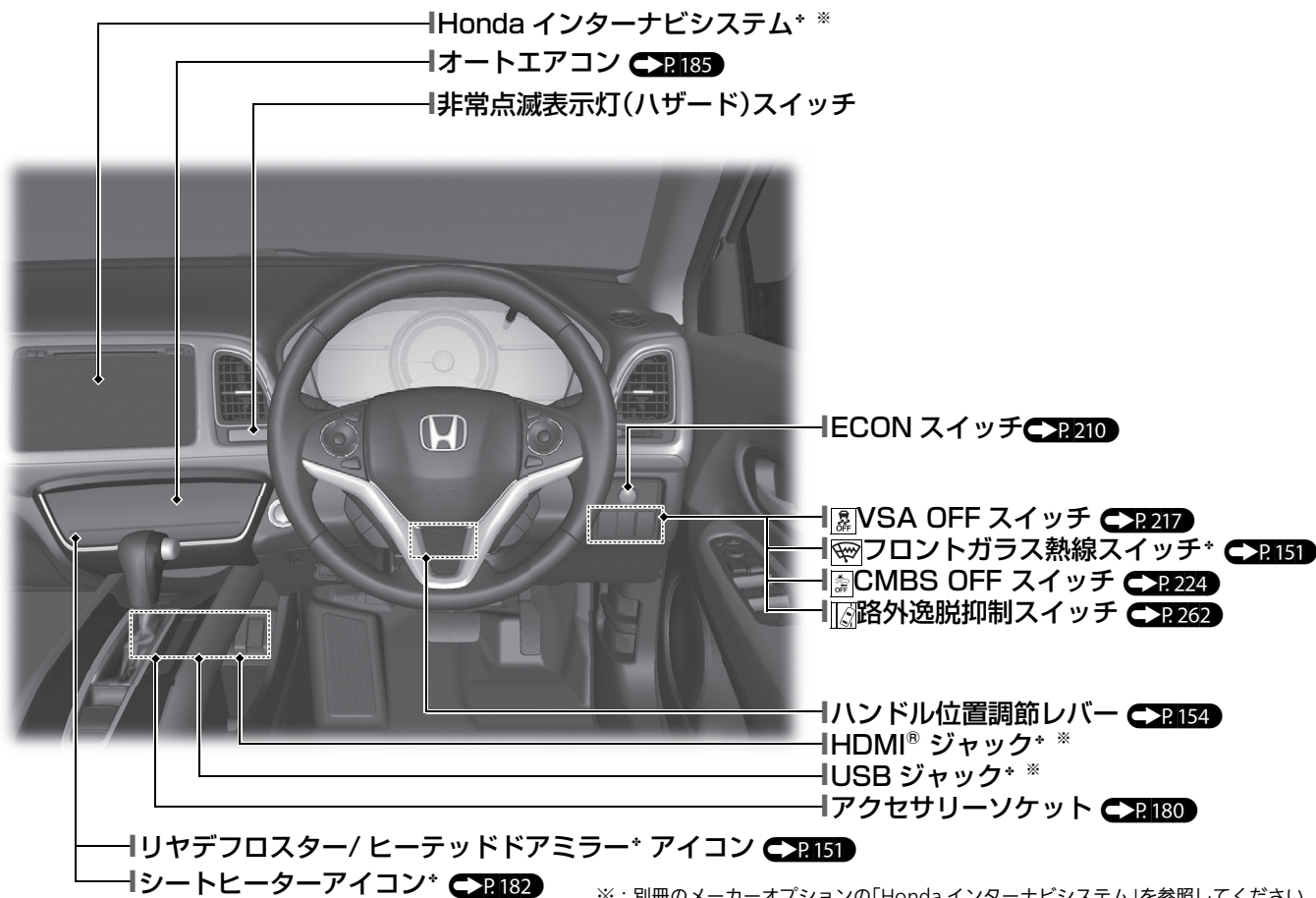
メンテナンス

万一の場合には

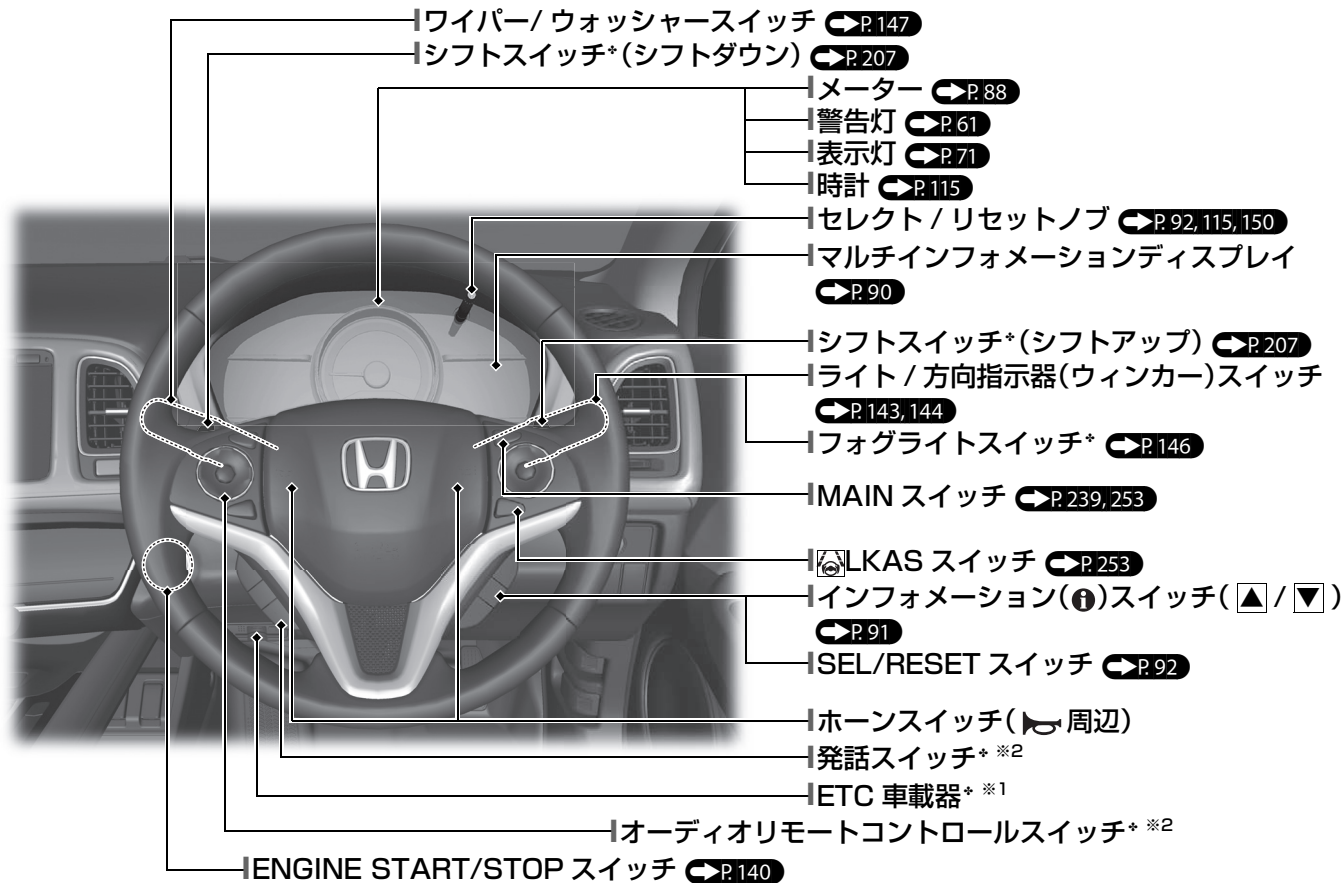
資料

索引

ビジュアル目次



※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

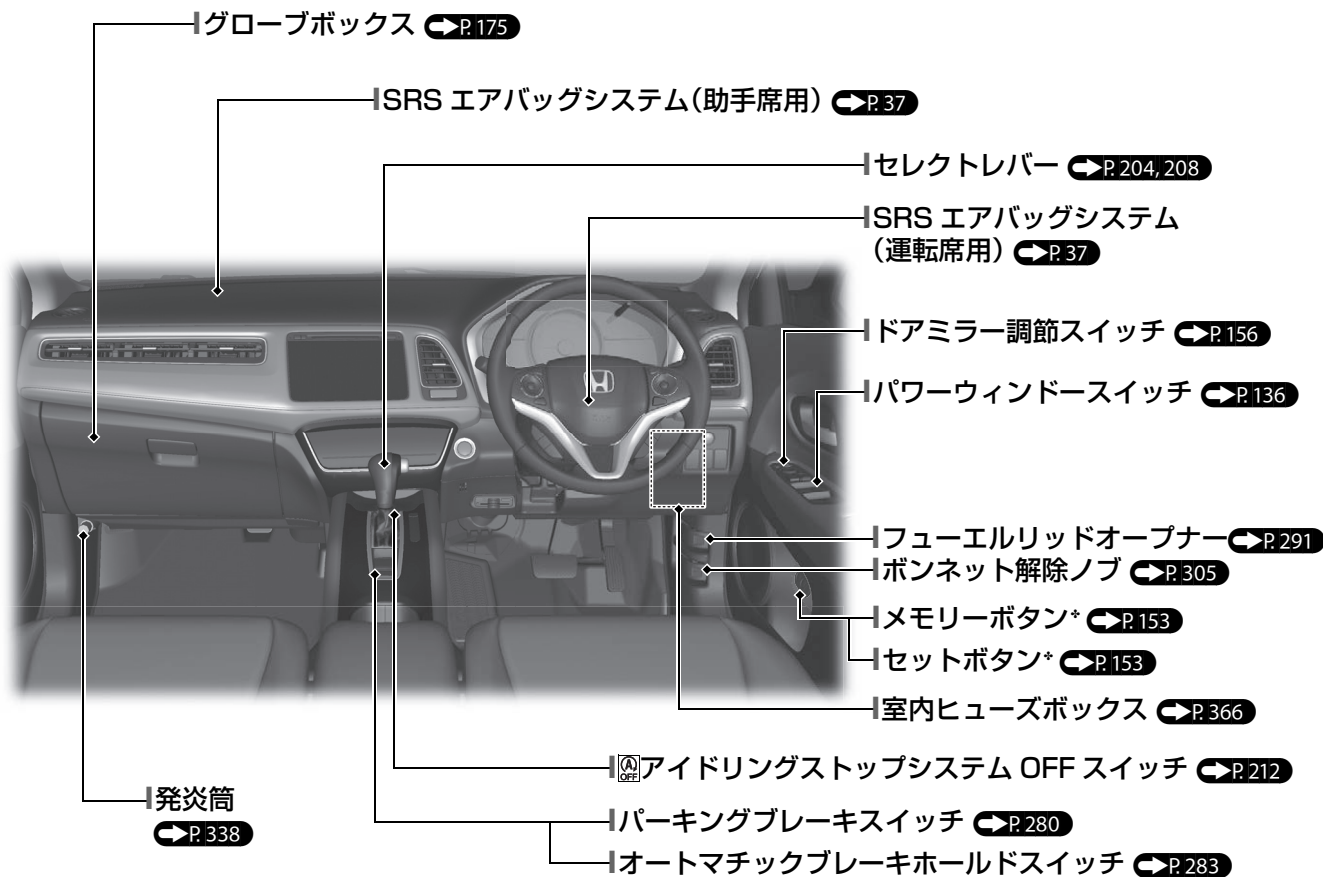


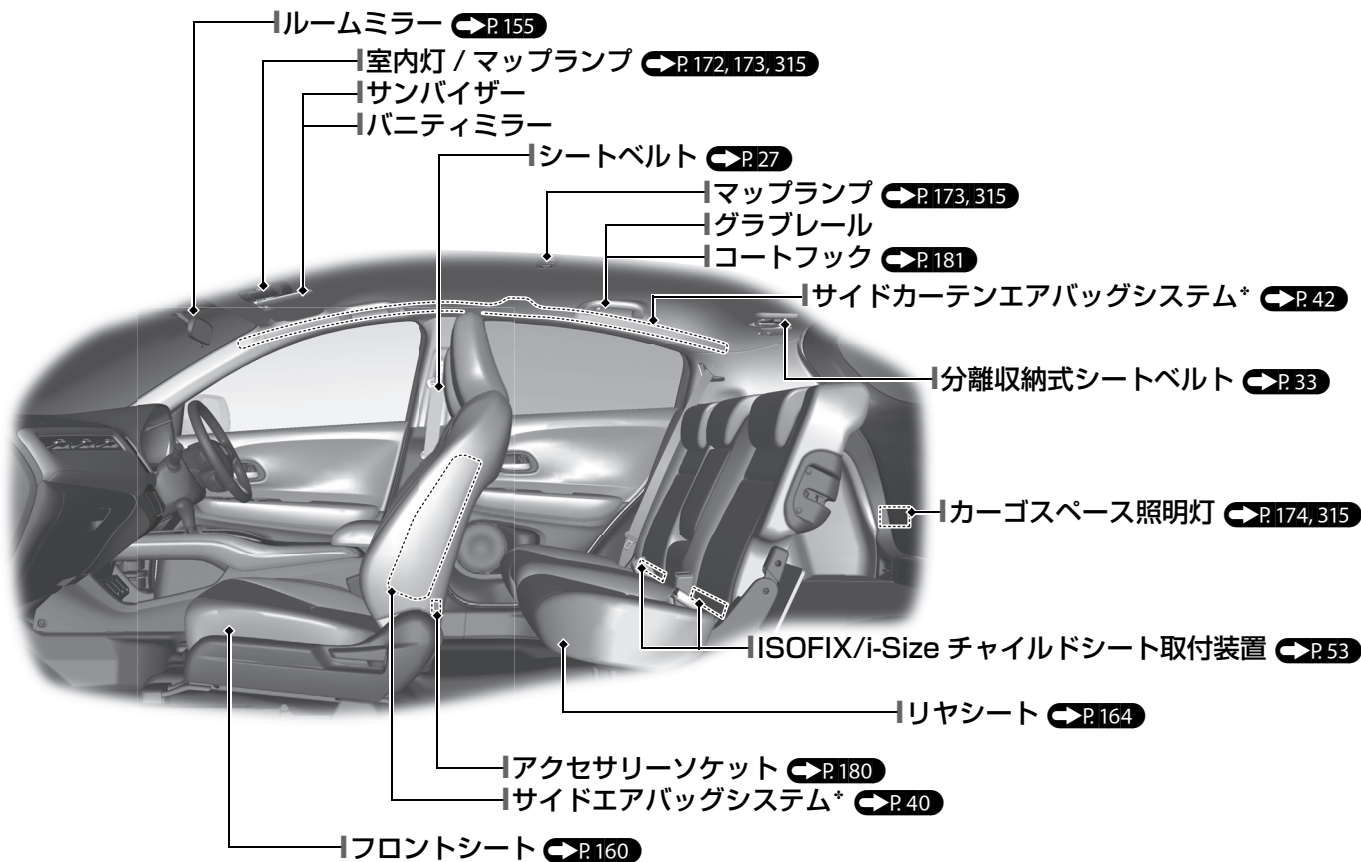
※1：別冊「ETC 車載器」を参照してください。

※2：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

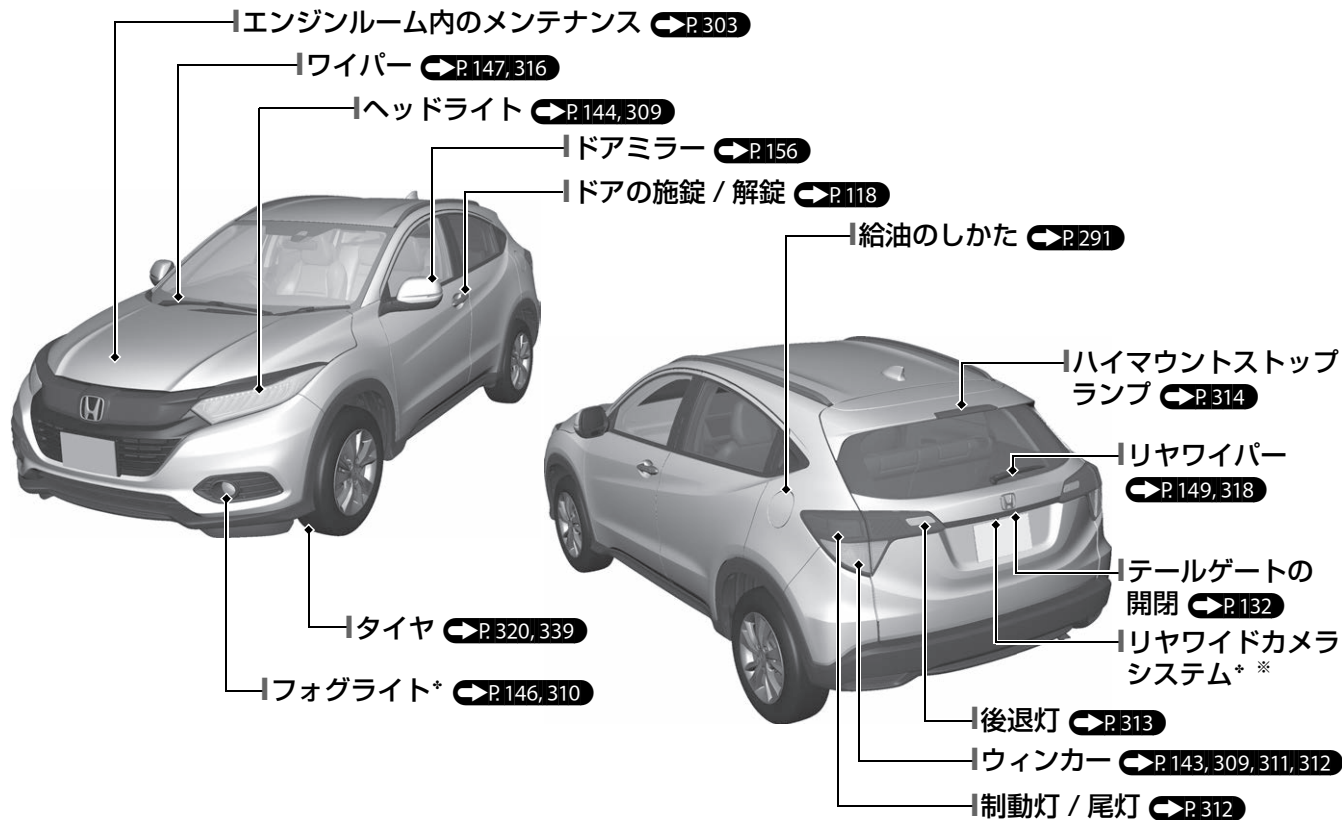
ビジュアル目次





この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

エコアシストシステム

ECON スイッチを押すと、メッセージを数秒間表示します。



アンビエントメーター

- 運転状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

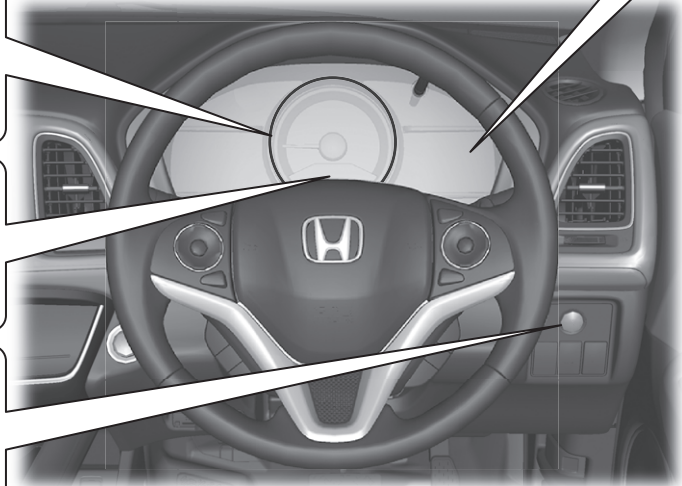
ECON 表示灯

- ECON モードが ON のときに点灯します。



ECON スイッチ

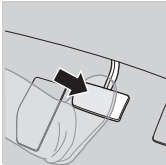
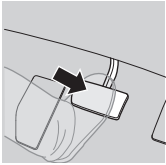
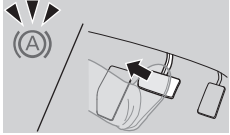
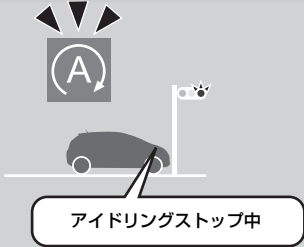
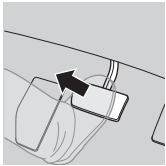
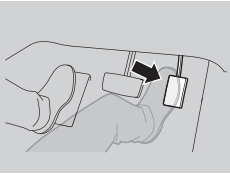
- スイッチを押すと、ECON モードが ON になり、運転の状況に応じて省燃費制御します。



アイドリングストップシステム

燃費向上のために、下記の手順によりアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。

アイドリングストップしているときは、メーター内のアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯します。▶P.211

走行状態	操作		操作後のエンジンの状態
減速 ↓	停車してブレーキペダルを踏む。 		 エンジン作動中
停車 ↓	ブレーキペダルを踏み続ける。 	オートマチックブレーキホールドシステムがONの場合、メーター内のアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯しているのを確認してブレーキペダルから足を離す。 	 アイドリングストップ中
発進 ↓	ブレーキペダルを離す。 	オートマチックブレーキホールドによりブレーキを保持した場合はアクセルペダルを踏む。 	 エンジンが自動的に再始動

安全なドライブ

➡P.24

運転を始める前の確認

➡P.25

- 運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト*、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

シートベルト

➡P.27

排気ガスについて

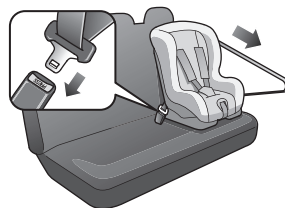
➡P.59

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

お子さまの安全

➡P.46

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ

➡P.37

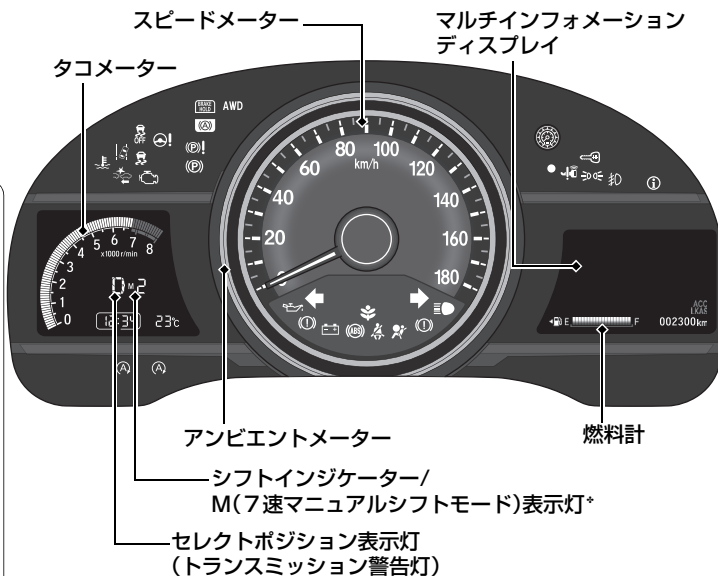
- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた ➡P.60

警告灯 ➡P.61 表示灯 ➡P.71 メーター ➡P.88
 マルチインフォメーションディスプレイ ➡P.90

警告灯 / 表示灯

-  EPS システム警告灯
-  セキュリティアラームシステム作動表示灯
-  Honda スマートキーシステム警告灯
-  VSA OFF 警告灯
-  VSA 警告灯
-  AWD システム警告灯*
-  オートマチックブレーキホールドシステム表示灯
-  オートマチックブレーキホールド表示灯
-  ECON 表示灯
-  PGM-FI 警告灯
-  低水温表示灯(ブルー)/高水温警告灯(レッド)
-  油圧警告灯
-  充電警告灯



ライト表示灯

-  ハイビーム表示灯
-  フォグライト点灯表示灯*
-  ライト点灯表示灯

警告灯 / 表示灯

-  アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)/
-  アイドリングストップ表示灯(グリーン)/
-  アイドリングストップシステム OFF 表示灯(オレンジ)

警告灯 / 表示灯

-  ACC 警告灯 / 表示灯
-  LKAS 警告灯 / 表示灯
-  路外逸脱抑制機能警告灯
-  インフォメーション表示灯
-  CMBS 警告灯
-  方向指示器 / 非常点滅表示灯
-  エアバッグシステム警告灯
-  イモビライザーシステム表示灯
-  シートベルト非着用警告灯
-  ABS 警告灯
-  ブレーキ警告灯(レッド)
-  ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
-  電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
-  電子制御パーキングブレーキ作動警告灯

各部の操作 P.114

時刻を合わせる P.115

Honda インターナビシステム非装備車

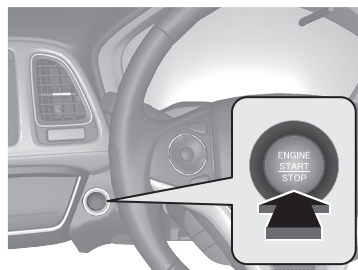


Honda インターナビシステム装備車

Honda インターナビシステム装備車の時計は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

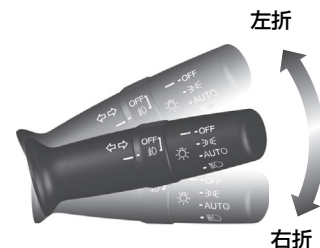
ENGINE START/STOP スイッチ P.140

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



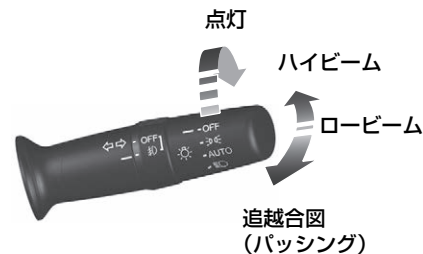
ウィンカー P.143

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



ライト P.144

ライトスイッチ



ワイパー ➡ P.147

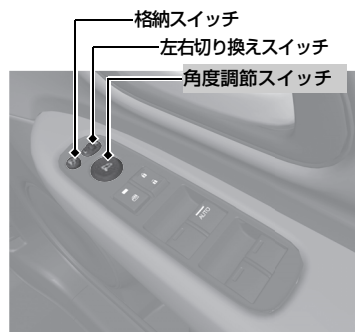
ワイパー/ウォッシャースイッチ



- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)*
- AUTO 自動作動*
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量の多いとき)

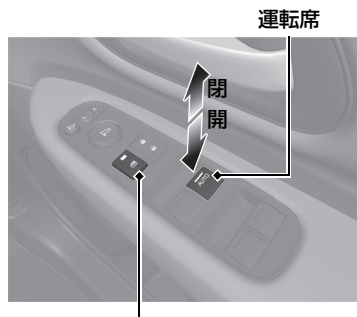
ドアミラー ➡ P.156

- パワーモードが ON モードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー ➡ P.136

- パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



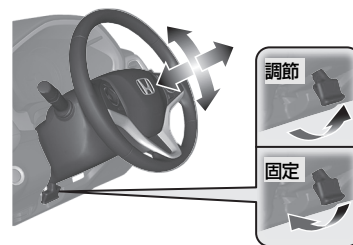
パワーウィンドーロックボタン

- ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF 全てのウィンドーが作動

ハンドル位置の調節

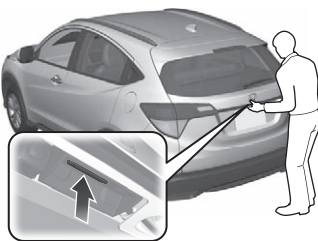
➡ P.154

- ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



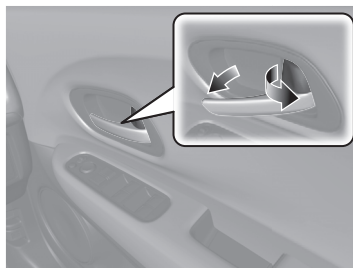
テールゲート ➡P.132

- テールゲートは、テールゲートオープンスイッチを押して開きます。



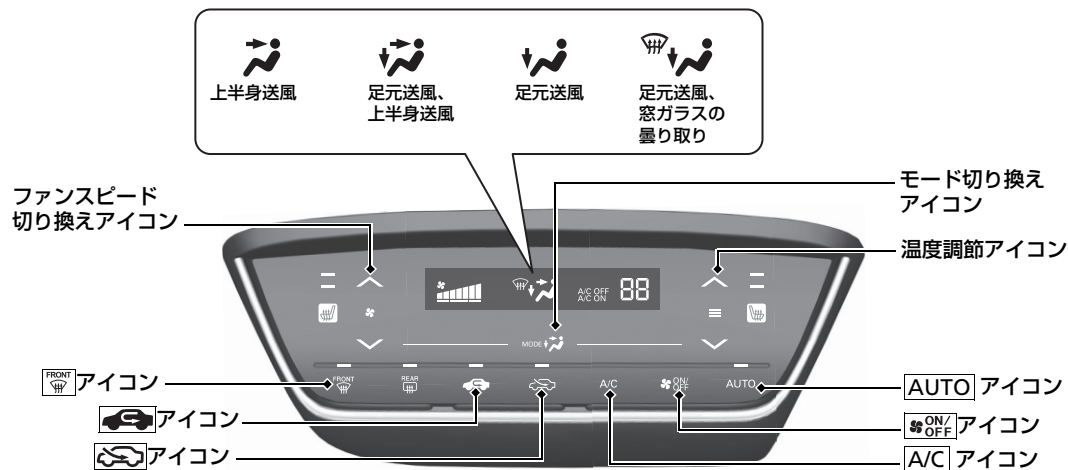
運転席ドアハンドルでの 解錠 ➡P.128

- 運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



エアコン

- **AUTO** を押すと、オートエアコンが作動します。
-  を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、 を押します。



運転 ➡ P 194

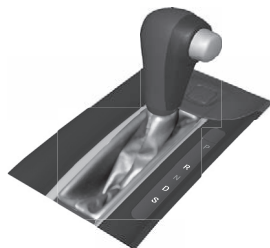
無段変速オートマチック車 ➡ P 203

- セレクトレバーを[P]に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

セレクトレバー

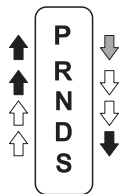
セレクトレバーの操作

- ↓ ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作
- ↓↑ ボタンを押して操作
- ↓↑ ボタンを押さずそのまま操作

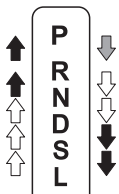


- | | |
|----------|---|
| P | パーキング
駐車またはエンジンの始動 |
| R | リバース
車を後退 |
| N | ニュートラル
アイドリング状態 |
| D | ドライブ
・通常走行
・一時的に7速マニュアルシフトモード*にするととき |
| S | ドライブ(S)
・上り坂や下り坂を走行するとき
・7速マニュアルシフトモード*にするととき |
| L | ロー*
強いエンジンブレーキが必要なとき |

7速マニュアルシフトモード 装備車

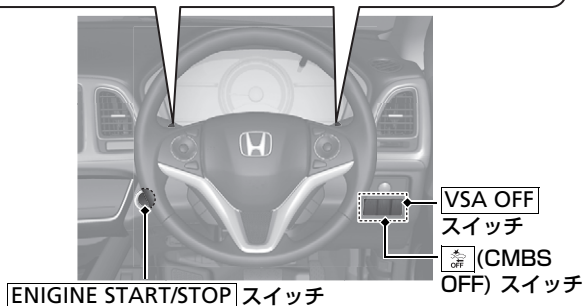


7速マニュアルシフトモード 非装備車



7速マニュアルシフトモード* ➡ P 206

- ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができます。
- セレクトレバーが[S]のとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードになります。M(7速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケータにギヤ位置が表示されます。
- セレクトレバーが[D]のとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に7速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケータにギヤ位置が表示されます。



この「※」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

CMBS の ON と OFF

➡P.224

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。
- エンジンを始動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)にするにはを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

VSA の ON と OFF

➡P.217

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

ガソリンを入れる ➡P.291

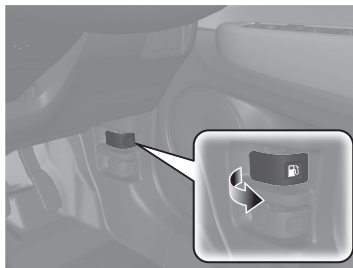
指定燃料： 無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

タンク容量：

ターボ非装備車 40 リットル

ターボ装備車 50 リットル

- 1 フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



- 2 ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。



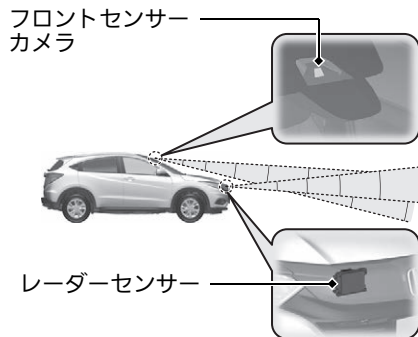
- 3 キャップをホルダーにかける。



ホンダセンシング

➡P.220

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウィンドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる2種類のセンサーで構成された運転支援システムです。



衝突軽減ブレーキ(CMBS)

➡P.221

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

誤発進抑制機能

➡P.228

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

歩行者事故低減ステアリング

➡P.230

歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

ACC(アダプティブクルーズコントロール)

➡P.237

先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

LKAS(車線維持支援システム)

➡P.250

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

路外逸脱抑制機能

➡P.260

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

先行車発進お知らせ機能

➡P.266

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能

➡P.270

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

メンテナンス ➡ P.295



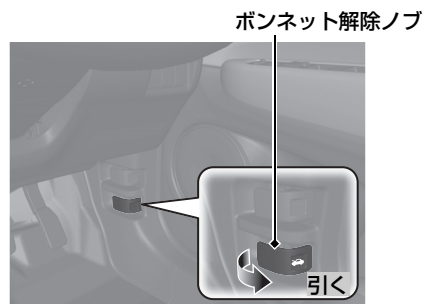
ワイパーブレード ➡ P.316

- 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードドラバーを交換します。

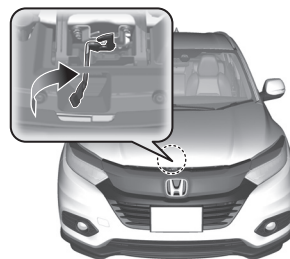
エンジンルーム ➡ P.303, 308, 357

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- バッテリーを点検します。

- 1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



- 2 レバーを押してボンネットを開ける。



タイヤ ➡ P.320

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト ➡ P.309, 335

- フォグライト・電球、後退灯電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 ➡ P.372

万一の場合には ➡P.337

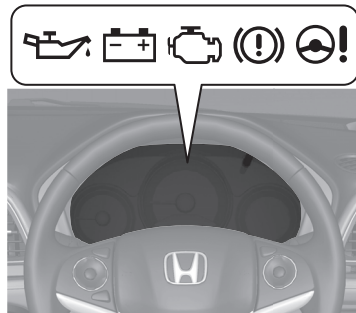
パンクした ➡P.339

- 安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した ➡P.359

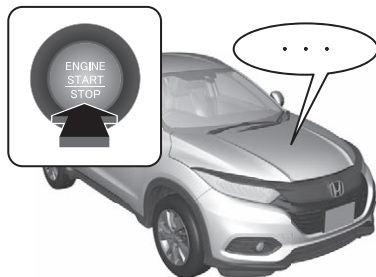
- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

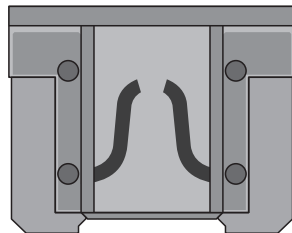
➡P.351

- バッテリーあがりと考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた ➡P.363

- 室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした ➡P.357

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

➡P.373

- 必ず専門業者に依頼してください。やむをえず四輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

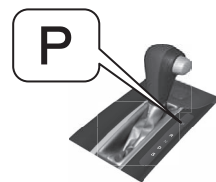
Q **ENGINE START/STOP** のパワーモードが OFF モードからアクセサリモードにならない

A • ハンドルがロックされていませんか？
ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。



Q **ENGINE START/STOP** のパワーモードが OFF モードにならない

A • セレクトレバーが **P** 以外の位置になっていませんか？

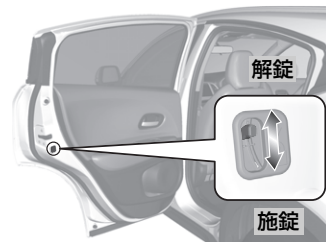


Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A • ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。
▶ ABS(アンチロックブレーキシステム) ➡ P.285

Q 後席ドアが車内から開けられない

A • チャイルドブルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドブルーフのツマミを解錠の位置にしてください。



Q キーレスエントリーシステム、または Honda スマートキーシステムでドアを解錠したはずなのに施錠されている

A ・キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A ・パワーモードを OFF モード以外にしていますか？
・ライトを消し忘れていませんか？
・アイドリングストップ中に運転席ドアを開けると「ピーッピーッピーッ…」と鳴ります。

Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A ・ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

❏ 施錠するには(降車時オートドアロック機能) ➡ P.124

Q 走行するとブザーが鳴る

A ・運転席および助手席シートベルトを着用していますか？

Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A ・ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

A ・運転席シートベルトを着用していますか？
・セレクトレバーが、**P**、**N** 以外になっていますか？



走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする



- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。



レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？



- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、車内の音声や映像が記録されることはありません。

データの開示について

Honda は、取得したデータを以下の場合を除き、開示、提供することはありません。

- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合
- Honda が訴訟で使用する場合

安全なドライブ P.24

安全なドライブのために 25 シートベルト 27 エアバッグ 37 お子さまの安全 46
排気ガスの危険性 59

計器の見かた P.60

警告灯と表示灯 61 メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 88

各部の操作 P.114

時刻の設定 115 ドアロック 118 テールゲート 132 セキュリティシステム 134
ウィンドー 136 ハンドルまわりのスイッチ 140 ミラー類 155 シート 160
室内灯 / 室内装備品 172 エアコン 184

オーディオ P.192

オーディオ装置* 193

運転 P.194

運転の前に 195 運転 197 ホンダセンシング 220 ブレーキ 280
駐停車 288 リヤワイドカメラシステム* 290 給油 291 ターボ車について* 294

メンテナンス P.295

メンテナンスの前に 296 オイルモニターシステム* 299 エンジンルーム内 303 電球 309
ワイパー 316 タイヤ 320 Honda スマートキー 326 エアコンのお手入れ 328
清掃 330 アクセサリーと改造 336

万ーの場合には P.337

工具、発炎筒 338 パンク 339 ジャッキ 349 エンジンが始動しない 351
12Vバッテリーがあがったとき 354 セレクトレパーが動かない 356
オーバーヒート 357 警告灯が点灯 / 点滅した 359 ヒューズ 363 けん引 373
テールゲートが開かない 376

資料 P.378

仕様 379

安全なドライブ P.24

計器の見かた P.60

各部の操作 P.114

オーディオ P.192

運転 P.194

メンテナンス P.295

万ーの場合には P.337

資料 P.378

索引 P.381

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 25

シートベルト

シートベルトについて 27

シートベルトの着用 30

シートベルトの点検 36

シートベルトのアンカーポイント 36

エアバッグ

エアバッグの種類 37

SRS エアバッグ 37

サイドエアバッグ* 40

サイドカーテンエアバッグ* 42

エアバッグシステム警告灯 44

エアバッグのお手入れ 45

お子さまの安全 46

乳幼児の安全 47

大きなお子さまの安全 57

排気ガスの危険性

一酸化炭素について 59

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
❑ 車内での施錠 / 解錠 P.128
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレスト*の調節をしてください。
❑ フロントシート P.160
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
❑ フロントシート P.160
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
❑ シートベルトの着用 P.30
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
❑ エアバッグ P.37
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
❑ お子さまの安全 P.46

❖安全のための確認事項

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

❑ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.77

- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを **P** にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
 - **シフト操作** P.204, 208
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
 - ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

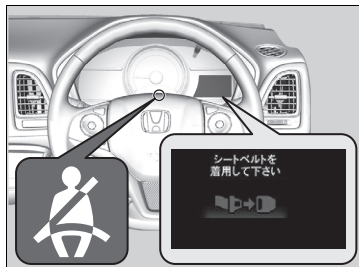
乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

※シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- セレクトレバーを **R** に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面* からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



※ シートベルトプリテンショナー



シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

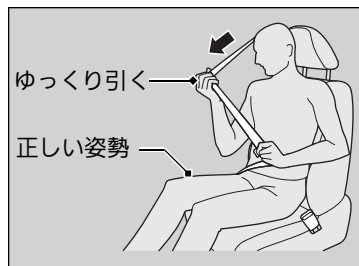
衝突したときは、Honda販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

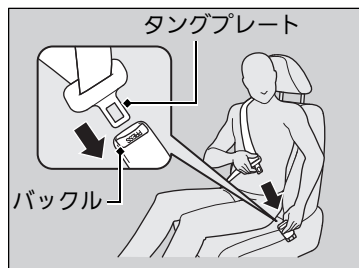
サイドカーテンエアバッグ装備車

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

※シートベルトの着用

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

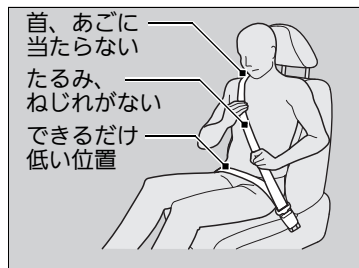
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをす
るおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

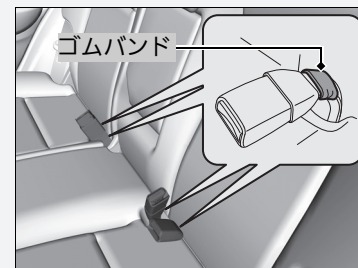


4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
 - ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
 - ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
 - ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

❏ シートベルトの着用

リヤシートのシートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。

シートアレンジなどのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。



シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかり引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

❏ シートベルトについて P.27

❏ シートベルトの点検 P.36

■ ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

※ ショルダーアンカーの高さ調節



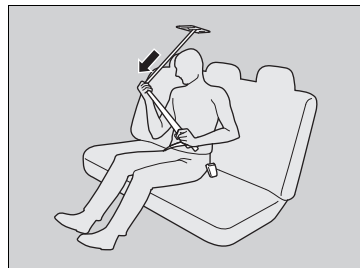
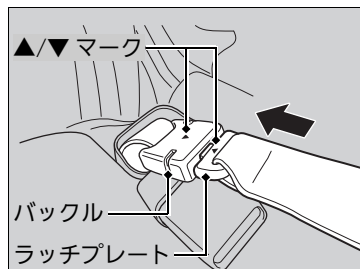
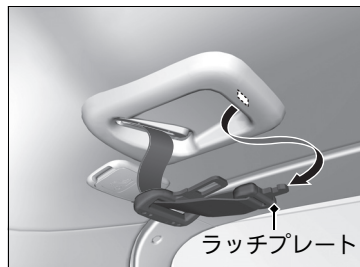
注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

分離収納式シートベルト



1. 天井の固定部からシートベルトのラッチプレートを外す。

2. ラッチプレートを引き出し、▲ マークがついているバックルに差し込む。

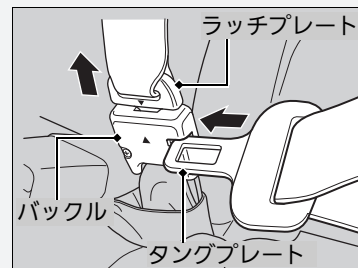
▶ ラッチプレートの ▼ マークとバックルの ▲ マークを合わせて差し込みます。

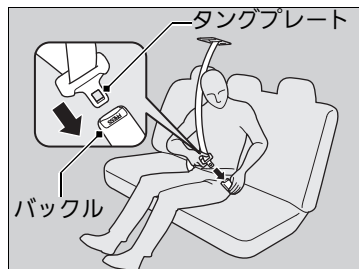
3. 正しい姿勢でシートにすわる。

4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

分離収納式シートベルト

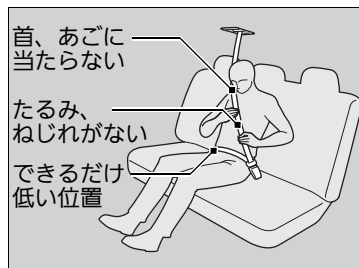
シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを ▲ マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。





5. タングプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

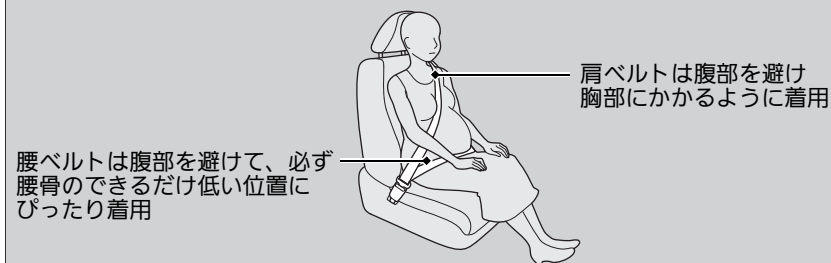


6. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるとに合わせる。

7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた



注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

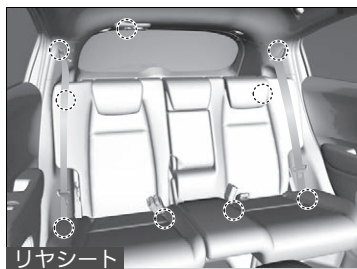
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグ

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ***：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ***：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

エアバッグの種類

警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

注意

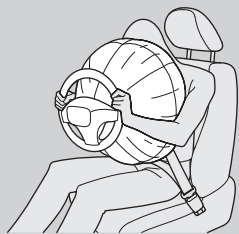
エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

※SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

注意

SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ*

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

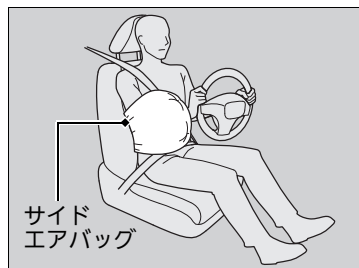
格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。

どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

※サイドエアバッグ*



注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がありません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

※サイドエアバッグ*

⚠ 注意

**ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。**

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

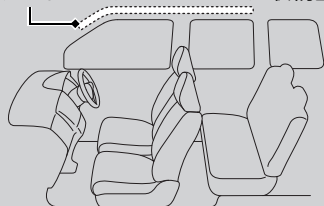
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ*

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所

サイドカーテンエアバッグ収納部



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

※サイドカーテンエアバッグ*

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

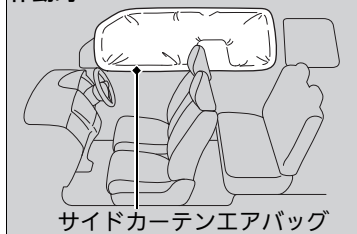
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■ 作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■ 作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

🔍 作動条件 P.41

■ 前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

🔍 サイドカーテンエアバッグ*

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

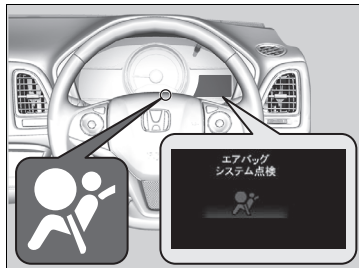
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■**パワーモードを ON モードにしたとき**
パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■**異常が発生したとき**
エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

⚠エアバッグシステム警告灯



エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

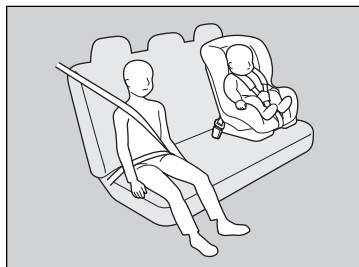
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

❏エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❗ お子さまの安全を守るために

⚠ 警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

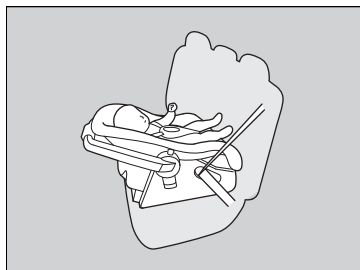
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

- ▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。
- ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

乳児のチャイルドシート



警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

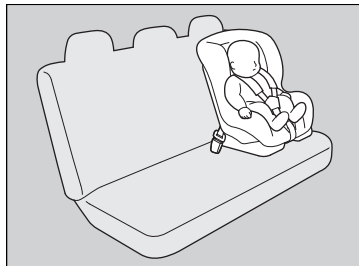
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 前向きのチャイルドシートの設置場所
リヤシートへの設置を推奨します。

※ 幼児のチャイルドシート



警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること

UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

チャイルドシートの規格

UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

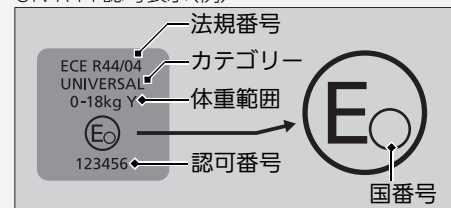
チャイルドシートの選びかた

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。

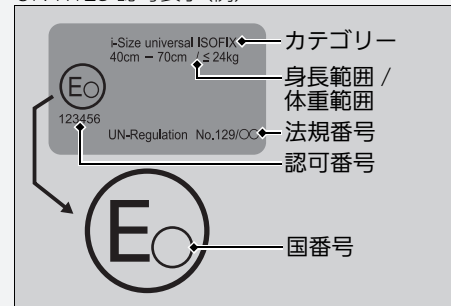
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示(例)



UN R129 認可表示(例)



	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用 (ユニバーサル) チャイルドシート に適している。
	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付ける汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートに適している。
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している。
	前向きチャイルドシートのみに適している。
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止。
	トップテザー取付金具を装備している座席。

50

シート位置番号	シートの位置			
	① 助手席※1	② 後席 (左側)	③ 後席 (中央)	④ 後席 (右側)
ベルト固定の汎用(ユニバーサル) チャイルドシートが搭載可能な着座 位置(有/無)	有 前向き 搭載のみ	有	有	有
i-Size チャイルドシートが搭載可能 な着座位置(有/無)	無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な 着座位置(有/無)	有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート 固定具(L1/L2)	無	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルド シート固定具(R1/R2X/R2/R3)	無	R3	無	R3
搭載可能な最大の前向きチャイルド シート固定具(F2X/F2/F3)	無	F3	無	F3
搭載可能な最大の前向きジュニア シート固定具(B2/B3)	B3	B3	B3	B3

※1 : チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節しシートバックを最も前のロック位置に調節すること。
サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能では無い着座位置にも取り付けることができます。

シート位置別チャイルドシート情報



警告

シートベルトは必ず正しく着用する

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをとお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■推奨チャイルドシート

UN R44 適合チャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0～9ヶ月)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
0 + 13kg 未満 (0～2歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(後向き)
I 9～18kg (9ヶ月～4歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(前向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定(前向き)
II、III 15～36kg (4～12歳)	Honda ジュニアシート	汎用シートベルト固定

UN R129 適合チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size ユニバーサル ISOFIX (後向き)
身長 71cm 以上かつ 月齢 15ヶ月以上～身長 100cm 以下		i-Size ユニバーサル ISOFIX (前向き)

■推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。
2. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。
☒ 背もたれの調節 P.164
3. ノブを押しながら、ヘッドレストを一番下まで下げる。
4. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。
▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

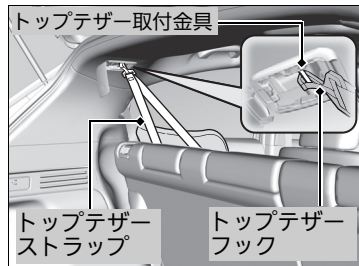
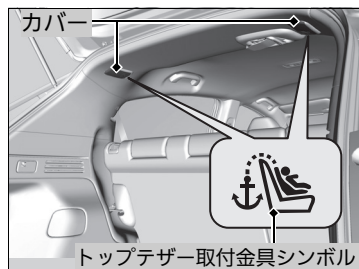
下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



トップテザーストラップ付きチャイルドシート

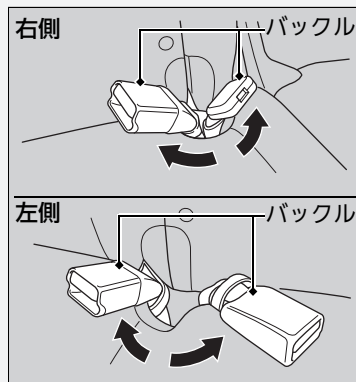
5. カバーを開ける。
6. トップテザーフックをトップテザー取付金具に引っ掛け、ストラップを締める。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

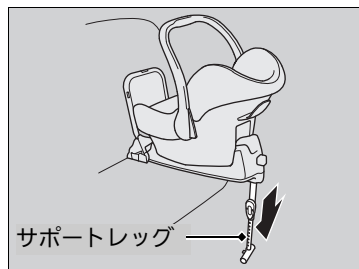
※ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

チャイルドシートを取り付けるときは、シートベルトのバックルを図のように動かしてください。

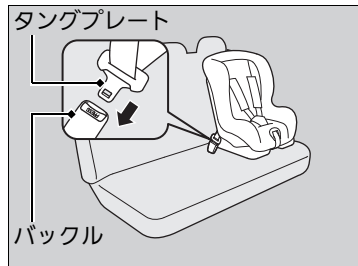




サポートレッグ付きチャイルドシート

5. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。
 - ▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。
 - ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

■シートベルトでの取り付け



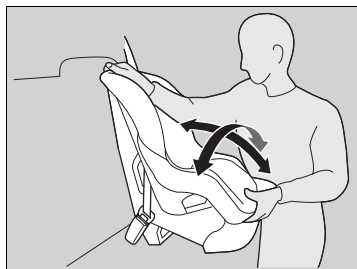
1. リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

■ 背もたれの調節 P.164

2. チャイルドシートを座席に置く。
3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。

4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。



■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

※シートベルトでの取り付け



注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

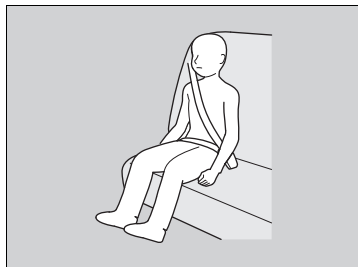
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■ シートの使用について

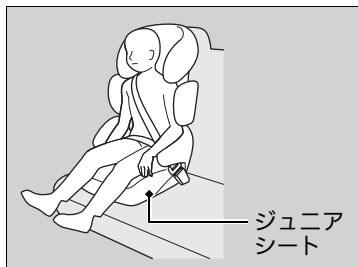
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■ 確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ ジュニアシートについて



ジュニアシート

三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

※ 大きなお子さまの安全



お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

※ ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

☒一酸化炭素について



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯

警告灯 61

表示灯 71

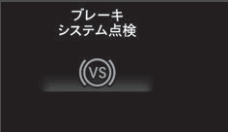
マルチインフォメーションディスプレイ
のメッセージ 76

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

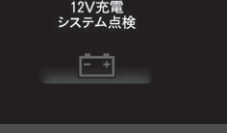
メーター 88

マルチインフォメーションディスプレイ 90

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯(レッド)	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ブレーキフルード量が低下したときに点灯 - ブレーキシステムが異常のときに点灯	- 走行中に点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 - ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ■ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.360	 
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯 - オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	走行中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	  

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	電子制御パーキングブレーキ作動警告灯	パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯)	電子制御パーキングブレーキが異常のとき、電子制御パーキングブレーキシステム警告灯の点灯と同時に点滅することがあります。この場合、パーキングブレーキが作動しないことがあります。	—
		走行中、パーキングブレーキスイッチを引き続けたとき	パーキングブレーキを解除してください。 電子制御パーキングブレーキ P.280	
		ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押したとき	ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 電子制御パーキングブレーキ P.280	
		- パワーモードがOFFモードのとき、パーキングブレーキスイッチを引くと約 15 秒間点灯し消灯 - パーキングブレーキがかかっていると、パワーモードをOFFモードにしたとき、約 15 秒間点灯し消灯	—	—

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	電子制御パーキングブレーキシステム警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯	点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した P.362	
	油圧警告灯	- パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 油圧警告灯が点灯した P.359	
	PGM-FI 警告灯	- パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 - エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 - エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.360	
	充電警告灯	- パワーモードをONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - バッテリーが充電されていないと点灯	走行中に点灯＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどをOFFにし、対処してください。 充電警告灯が点灯した P.359	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	トランスミッションが異常のときに点滅	運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	シートベルト非着用警告灯	- 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 - パワーモードを ON モードにしたときや走行中、運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	- シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 - シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ▶ シートベルトリマインダー P.28	 
	Honda スマートキーシステム警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	- 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 - 運転中に点灯した - エンジン始動後も消灯しない - パワーモードが OFF モードのときに数秒間点灯した - パワーモードを OFF モードにしたときに数秒間点灯した	

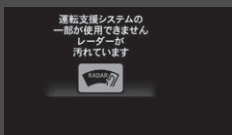
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ABS (アンチロックブレーキシステム) 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ABS が異常のときに点灯	点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ ABS (アンチロックブレーキシステム) P.285	
	エアバッグシステム警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - 下記の異常を検知すると点灯 - エアバッグシステムの異常 - プリテンショナーシステム異常	常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	VSA (ビークルスタビリティアシスト) 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - VSA が作動しているときは点滅 - ブレーキアシストシステム、ヒルスタートアシストシステム、発進補助ブレーキ機能、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯	運転中に点灯した時は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ▶ VSA (ビークルスタビリティアシスト) P.216	 
	VSA OFF 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - VSA を OFF にすると点灯	▶ VSA (ビークルスタビリティアシスト) P.216	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EPS (電 動 パ ワーステアリン グ) シ ス テ ム警告灯	・ パワーモードを ON モードにする と点灯し、エンジン始動で消灯 ・ EPS システムの機能に異常があると 点灯	・ 常時点灯、あるいは全く点灯し ない場合は、ただちに Honda 販 売店で点検を受けてください。 ☑ EPS(電動パワーステアリング)シ ステム警告灯が点灯した P.361	
	高水温警告灯 (レッド)	・ パワーモードを ON モードにすると 数秒点灯したあと、消灯 ・ エンジンの冷却水の温度が上がると 点滅し、さらに上がると点灯	・ エンジン冷却水の温度が低いと きは、消灯後ブルーで点灯しま す。 ・ 走行中に点滅＝ゆっくり走行し てください。 ・ 走行中に点灯＝ただちに安全な 場所に車を停車し、エンジンを 冷やしてください。 ☑ オーバーヒート P.357	 
	アイドリング ストップシス テム 警 告 灯 (オレンジ)	・ パワーモードを ON モードにすると 数秒点灯したあと、消灯 ・ アイドリングストップシステムに異 常があるときに点滅	・ 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてく ださい。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
AWD	AWD (オールホイールドライビング) システム警告灯*	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - AWD システムが異常のときに点灯 - AWD システムがオーバーヒートしたとき点滅	走行中に点灯＝前輪駆動での走行になります。急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅＝前輪駆動での走行になります。安全な場所に車を停めて、セレクトレバーを [P] にして、アイドリング運転を行い、消灯するまでお待ちください。消灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ REAL TIME AWD (オールホイールドライビング) システム* P.219	 
ACC	ACC (アダプティブ・クルーズ・コントロール) 警告灯 (オレンジ)	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ACC システムが異常のときに点灯	運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
LKAS	LKAS (車線維持支援システム) 警告灯 (オレンジ)	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - LKAS が異常のときに点灯	常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

計器の見かた

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS (衝突軽減ブレーキ) 警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ☑ 衝突軽減ブレーキ (CMBS) P.221	 
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	

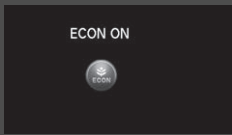
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS (衝突軽減ブレーキ) 警告灯	- フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	- 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 - 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 - 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ▶ フロントセンサーカメラ P.277 ▶ 衝突軽減ブレーキ (CMBS) P.221	
		フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	- 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 - 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 - 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ▶ 衝突軽減ブレーキ (CMBS) P.221 ▶ レーダーセンサー P.279	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制機能に異常があるとき点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	- 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 - 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	- 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 電球の交換 P.309, 311, 312 エマージェンシーストップシグナル P.287	—
	ハイビーム表示灯	ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯 (AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯)	ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト点灯表示灯*	フォグライトを点灯させると点灯	—	—
	低水温表示灯 (ブルー)	エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	- パワーモードを ON モードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 - イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	- 一瞬の点灯は異常ではありません。 - 点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 - パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 - 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 ENGINE START/STOP スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—
 表示灯	セキュリティアラームシステム作動表示灯	セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	■ セキュリティアラームシステム P.134	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ECON 表示灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ECON スイッチを押して、ECON を ON にすると点灯	 ECON スイッチ P.210	
	セレクトポジション表示灯	現在のポジションを表示	外気温が低い場合には、セレクトポジションの表示が遅れます。  セレクトレバーの操作 P.205, 209	
	シフトインジケータ/M (7 速マニュアルシフトモード) 表示灯*	- セレクトレバーが S で、7 速マニュアルシフトモードのとき M 表示灯が点灯 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示	 セレクトレバーの操作 P.205	

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	アイドリングストップ表示灯 (グリーン)	アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	アイドリングストップシステム P.211	
	アイドリングストップシステム OFF 表示灯 (オレンジ)	アイドリングストップシステム OFF スイッチでシステムを OFF にすると点灯	アイドリングストップシステムの ON/OFF P.212	
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - オートマチックブレーキホールドシステムが ON のとき点灯	オートマチックブレーキホールド P.283	
	オートマチックブレーキホールド表示灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	オートマチックブレーキホールド P.283	

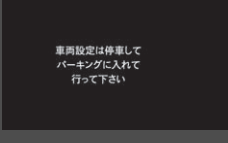
表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ACC	ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)表示灯(グリーン)	MAIN スイッチを押して、ACC を ON にすると点灯	▶ ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.237	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン)	MAIN スイッチを押して、LKAS を ON にすると点灯	▶ LKAS(車線維持支援システム) P.250	—
	インフォメーション表示灯	異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	- メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 - メッセージは警告が解除されるか、インフォメーション()スイッチ(/)を押すまで通常表示に戻りません。 - 点灯しているときにインフォメーション()スイッチ(/)を押すと、メッセージを再表示させることができます。	—

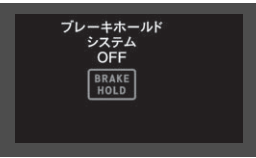
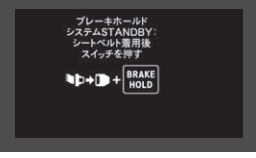
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

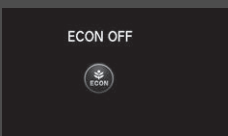
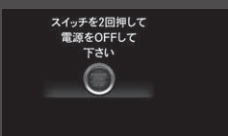
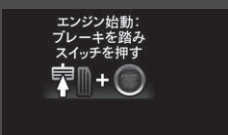
下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	パワーモードがONモードのときに、外気温が3℃以下になると1回のみ表示	—
	シートベルトを着用しないで、パワーモードをONモードにすると表示	運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
	スターターシステムが異常のときに表示	ブレーキを踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまでおよそ 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

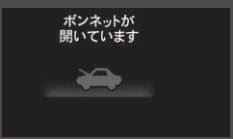
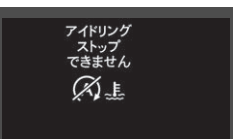
メッセージ	表示される状況	アドバイス
給油して下さい 	- 燃料の残量が少なくなると表示 - 表示するのは、タンクに残っている残量がおよそ 5.3 リットル(ターボ非装備車)、または7.0リットル(ターボ装備車)になったときです	- 表示されたときは、早めに給油してください。 - 燃料計の燃料残量警告が表示されます。 ■ 燃料計 P.93
燃料センサ点検 	燃料計に異常があるときに表示	表示されたときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
ドアが 開いています 	- ドアが完全に閉まっていないときに表示 - 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告メッセージが表示	ドアを完全に閉めると、表示が消えます。
テールゲートが 開いています 	テールゲートが完全に閉まっていないときに表示	テールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
ドアと テールゲートが 開いています 	ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示	ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 キーが 見つかりません	パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると、警告が解除されます。  Honda スマートキー持ち去り警告 P.142
 キー電池残量 低下	Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	 電池交換のしかた P.327
 ヘッドライト点検	ヘッドライトの機能に異常があると表示	運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
 オートライト システム点検	オートライトコントロールシステムに異常があると表示	運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。  ライトスイッチ P.144
 車両設定は停車して パーキングに入れて 行って下さい	セレクトレバーが [P] 以外のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をすと表示	 カスタマイズのしかた P.99

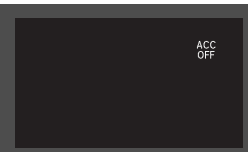
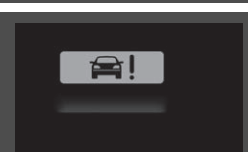
メッセージ	表示される状況	アドバイス
 ブレーキホールドシステムOFF BRAKE HOLD	オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムを OFF にすると表示	➡ オートマチックブレーキホールド P.283
 ブレーキホールドシステムSTANDBY: シートベルト着用後 スイッチを押す BRAKE HOLD	運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	運転席のシートベルトを着用してください。 ➡ オートマチックブレーキホールド P.283
 ブレーキホールドシステムOFF: ブレーキを踏み スイッチを押す BRAKE HOLD	オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➡ オートマチックブレーキホールド P.283
 ブレーキペダルを踏んで下さい	オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示	ただちにブレーキペダルを踏んでください。
 パーキングブレーキシステムが作動しました (P)	オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	➡ オートマチックブレーキホールド P.283 ➡ 電子制御パーキングブレーキ P.280

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	ECON スイッチを押して、ECON モードを OFF にすると表示	➡ ECON スイッチ P.210
	メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車 ルート案内の際に、交差点案内表示が表示	➡ メーカーオプションの Honda インターナビシステム
	パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	パワーモードを OFF モードにしてください。 ➡ ENGINE START/STOP スイッチ P.140
	パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに表示	➡ エンジンの始動 P.197
	- アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動しないときに表示 - ボンネットが開いている - アイドリングストップを続けることができないシステムの異常	エンジンを再始動してください。 ➡ エンジンの始動 P.197

メッセージ	表示される状況	アドバイス
キーでスイッチに 触れて下さい 	Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに ENGINE START/STOP スイッチを押すと、警告音と同時に表示	🔊 Honda スマートキーの電池が切れたとき P.352
アクセサリ モードです 	パワーモードがアクセサリモードのときに表示	—
パーキングに 入れて下さい 	パワーモードが ON モードでセレクトレバーが P 以外のとき、 ENGINE START/STOP を押すと表示	パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。
充電システム 点検 	充電システム関連の機能に異常があると表示	ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	ボンネットが完全に閉まっていないときに表示	ボンネットを完全に閉めてください。
	- 何らかの理由により、アイドリングストップできないときに表示 - エンジンが自動的に再始動したときに表示 - バッテリーの内部温度が 5℃ 以下のときに表示	🔌 アイドリングストップシステム P.211
	バッテリーの充電量が少ない状態でアイドリングストップできないときに表示	🔌 アイドリングストップシステム P.211
	エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくて、アイドリングストップできないときに表示	🔌 アイドリングストップシステム P.211
	エンジン冷却水の水温が低いとき、または高くてアイドリングストップできないときに表示	🔌 アイドリングストップシステム P.211

メッセージ	表示される状況	アドバイス
ブレーキペダルを さらに 踏んで下さい 	ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに表示	ブレーキペダルを踏み込んでください。
セレクトレバーを パーキングに して下さい 	- セレクトレバーが P 以外のときにエンジンが停止して、自動的に再始動しないときに表示 - アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると表示	- パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にしてください。 - エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ■ エンジンの始動 P.197
まもなく 再始動します 	- アイドリングストップ中に、以下の状態となったときに表示 - バッテリーの充電量が少なくなったとき - バッテリーの内部温度が 5℃ 以下になったとき	数秒後にエンジンが自動的に再始動します。
まもなく 再始動します 	- アイドリングストップ中に、以下の状態となったときに表示 - エアコンを使用中で、設定温度と車内の温度差が大きい - 車内の湿度が高い	数秒後にエンジンが自動的に再始動します。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	ハンドルのロックが解除されていないときに表示	ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。
	走行中に ENGINE START/STOP を押したときに表示	❏ 緊急時のエンジン停止方法 P.353
	ACC の作動が自動的に解除されたとき	- ACC が自動解除になった原因が解決された場合、RES/+ を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ❏ ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.237
	衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	❏ ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.237 ❏ 衝突軽減ブレーキ (CMBS) P.221

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	フロントグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、ACC、CMBS、先行車発進お知らせ機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	- 安全な場所でフロントグリルの遮蔽物を拭き取ってください。 - 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ■ レーダーセンサー P.279
	車線を越えそうなときに表示	ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ■ LKAS(車線維持支援システム) P.250 ■ 路外逸脱抑制機能 P.260
	ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行し、車線を越えそうになると、警告音と同時に表示	ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ■ LKAS(車線維持支援システム) P.250
	ハンドル操作をしないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	- そのまま走行を続けると、長い警告音が1回鳴り、LKASの作動が解除されます。 - ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ■ 路外逸脱抑制機能 P.260

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 路外逸脱抑制機能作動中	車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と同時に表示	ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 📖 路外逸脱抑制機能 P.260
 LKAS(レーンキープアシストシステム)が使用できません LKAS OFF	LKAS システムに異常が起こり LKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 📖 LKAS(車線維持支援システム) P.250
 運転支援システムの 一部が使用できません カメラが高温です	フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、CMBS、LKAS、路外逸脱抑制機能、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 📖 フロントセンサーカメラ P.277
 運転支援システムの 一部が使用できません フロントウインドウが汚れています	フロントガラスに遮蔽物があるとき、CMBS、LKAS、路外逸脱抑制機能、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 📖 フロントセンサーカメラ P.277

ETC 車載器装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	ETC が利用できないときに表示	ETC 車載器の詳細は、別冊のメーカーオプション「ETC 車載器」取扱説明書をお読みください。

ターボ装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	メンテナンス時期が近づくと表示	メンテナンスの必要な装備、時期にしたがってメッセージの表示は変化します。 ■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとオイルモニターシステム情報 P.300

メーター

メーターには、スピードメーターなどの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■メーター照明色を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能でメーター色の変更ができます。

▶ カスタマイズ機能 P.97

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

▶ タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

セレクトレバーが **[R]** のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

時計

時刻を表示します。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

📖 時刻の設定 P.115

外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3℃の範囲で補正することができます。

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

📖 カスタマイズ機能 P.97

📖 時計

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

カスタマイズの詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

📖 外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

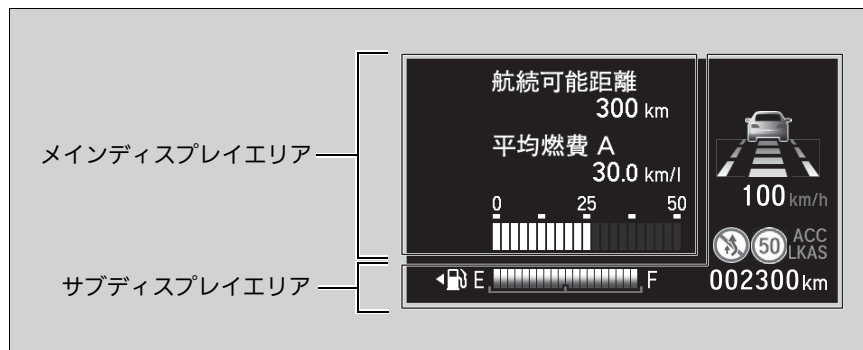
パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3℃以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、燃料計、燃費情報などが表示されます。

また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

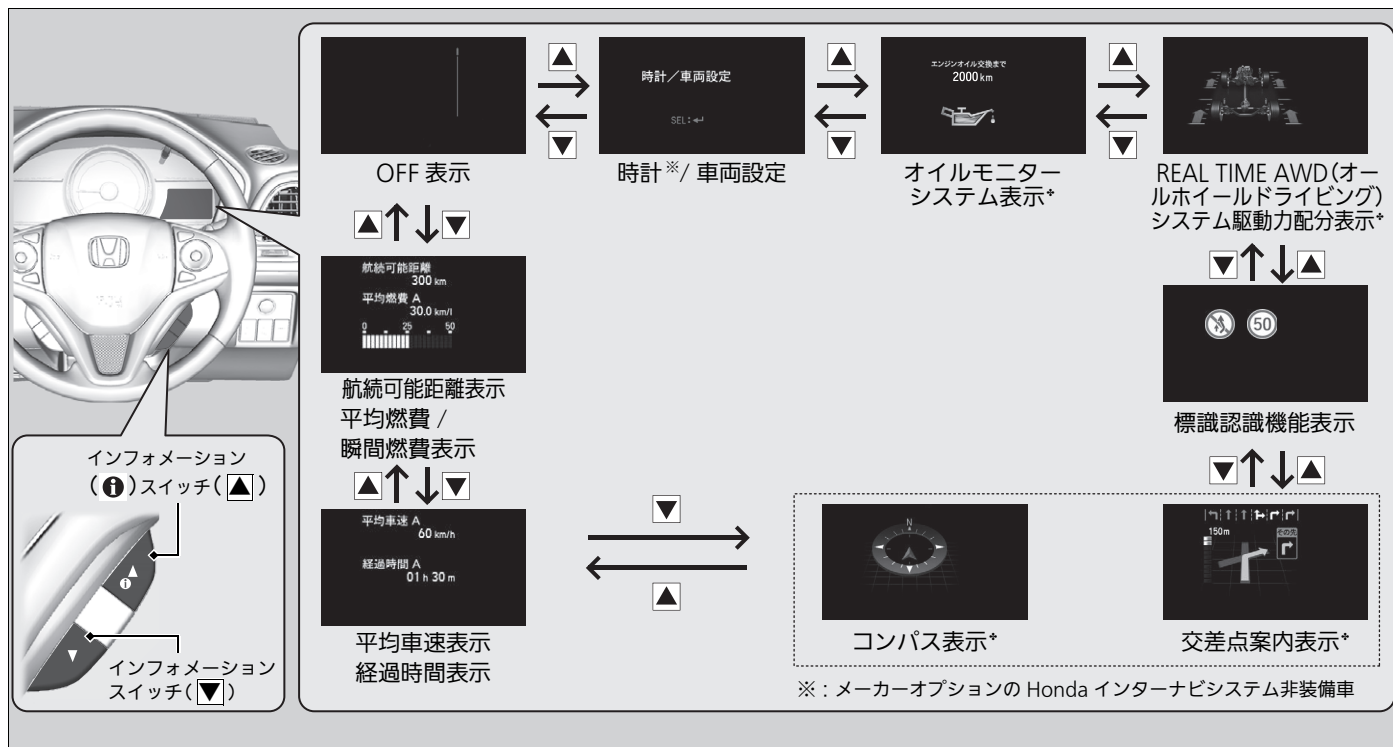
計器の
見かた



表示の切り換えかた

メインディスプレイエリア

インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を操作すると、表示が下記のように切り換わります。

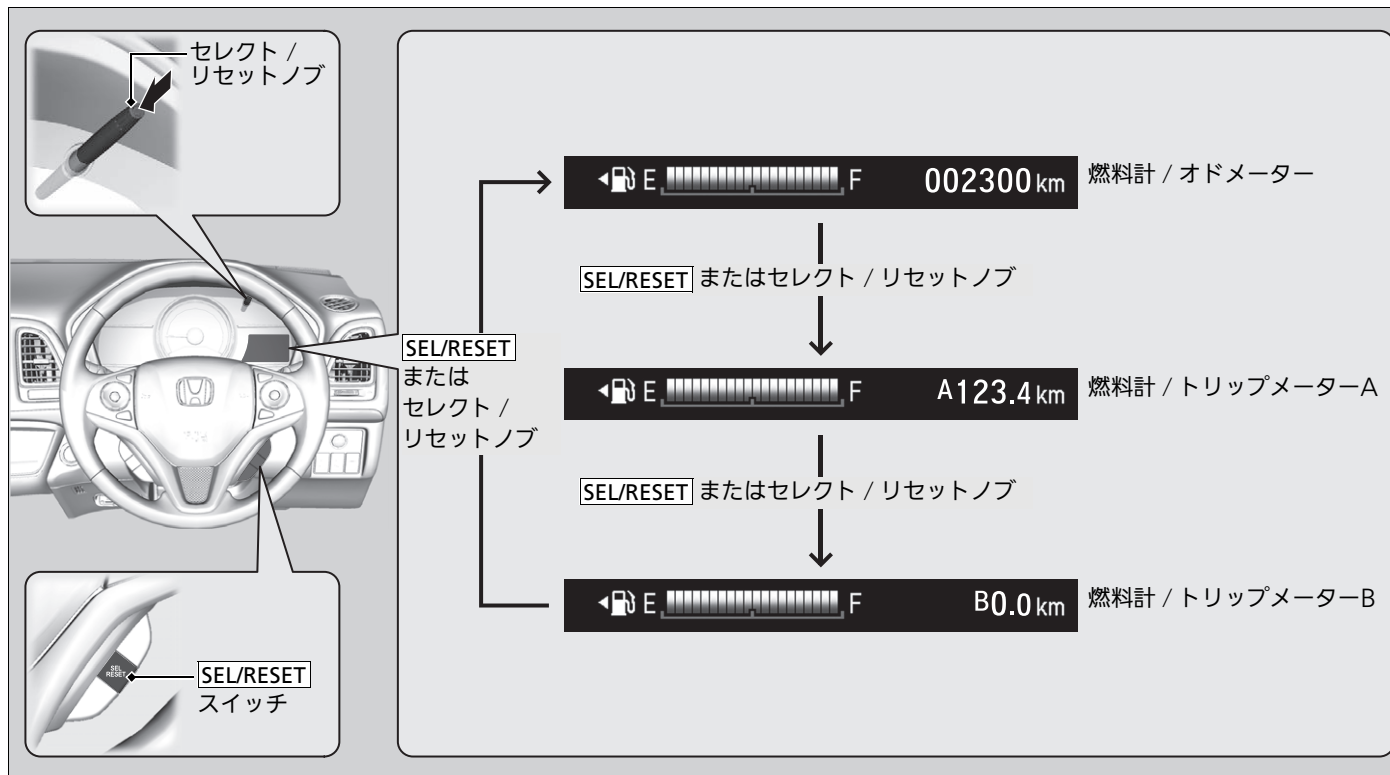


計器の見かた

サブディスプレイエリア

SEL/RESET または、セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。

計器の見た



■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。

トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、**SEL/RESET** を押し続けてください。
トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■ 燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

パワーモードが ON モードのとき表示されます。



■ 燃料残量警告

燃料の残量が少なくなると表示がオレンジ色になります。表示がオレンジ色になったら早めに給油してください。

燃料計に異常があるときは、燃料残量警告アイコンが点滅します。

❏ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.77

❏ トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

❏ 燃料計

アドバイス

燃料計が **E** に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

■ 平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■ 平均燃費

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■ 瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■ 航続可能距離表示

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

■ 経過時間表示

トリップメーターA、B と連動し、エンジンを始動してから停止するまでの時間を表示します。

■ 平均車速表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれのトリップメーターをリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

▶▶ 平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▶ カスタマイズ機能 P.97

▶▶ 航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

▶▶ 経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

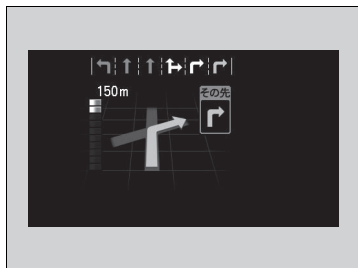
▶ カスタマイズ機能 P.97

▶▶ 平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▶ カスタマイズ機能 P.97

■ 交差点案内表示 / コンパス表示*



ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

❏ 別冊のメーカーオプションのHondaインターナビシステム取扱説明書

❏ 交差点案内表示 / コンパス表示*

交差点案内表示を選択しているとき、案内する項目がない場合はコンパスが表示されません。

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

❏ カスタマイズ機能 P.97

■ ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)/LKAS 表示

ACC/LKAS の現在の状態を表示します。

❏ ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.237

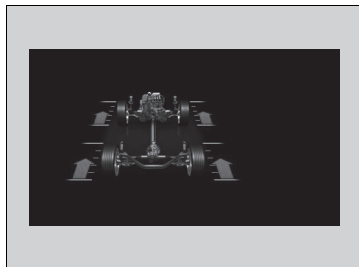
❏ LKAS(車線維持支援システム) P.250

■ 標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

❏ 標識認識機能 P.270

■ REAL TIME AWD(オールホイールドライビング)システム駆動力配分表示*



前輪と後輪の各トルク配分量を表示します。

▶ REAL TIME AWD(オールホイールドライビング)システム* P.219

■ オイルモニターシステム表示*

エンジンオイルの交換時期の目安を表示します。

▶ オイルモニターシステム* P.299

カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
時計設定*	時刻調整	時間(1 ~ 12 [※] /0 ~ 23)、分(00 ~ 59)
	時計表示	24h、12h [※] 、非表示
	運転支援システム設定	CMBS 警報距離
		Far、Normal [※] 、Near
		ACC 先行車検知音
		有り、無し [※]
		先行車発進お知らせ設定
		標準 [※] 、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定	アシストタイミング早め、アシストタイミング標準 [※] 、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	レーンキープアシストシステム制御解除	ON、OFF [※]
メーター設定	警報音	
	標識認識機能	常駐表示 ON [※] 、常駐表示 OFF
	外気温表示補正	-3℃ ~ ±0℃ [※] ~ +3℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ [※]
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ [※]
	アンビエントメーター照明色設定	ホワイト [※] 、ブルー、バイオレット、ピンク、レッド、アンバー、イエロー、乗るたびに変わる
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON [※] 、OFF
	アイドリングストップ [†] 状態表示	ON [※] 、OFF
ドライビングポジション設定*	交差点案内表示 [*]	ON [※] 、OFF
	メモリーシート連動	連動 [※] 、非連動

※：工場出荷時の設定

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

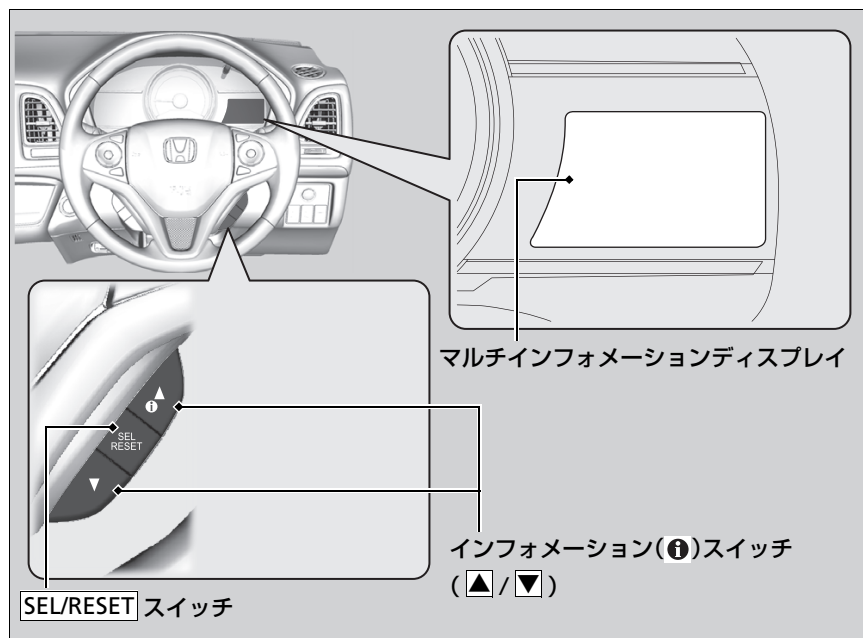
次ページに続く

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	オートライト感度	MAX、HIGH、MID※、LOW、MIN
ドア設定	自動ドアロック連動機能	車速連動※、シフト連動、非連動
	自動ドアアンロック連動機能	シフト連動※、IGN OFF 連動、非連動
	降車時オートドアロック	作動、非作動※
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティ機能	作動※、非作動
	オートリトラミラー格納	キーレス連動※、手動のみ
メンテナンス設定*		キャンセル、リセット
初期化設定		中止、実行

※：工場出荷時の設定

カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードで、セレクトレバーが **P** のときに、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して「時計*/ 車両設定」を選択します。そして **SEL/RESET** を操作すると、カスタマイズを行なうことのできる「グループ」画面に切り換わります。

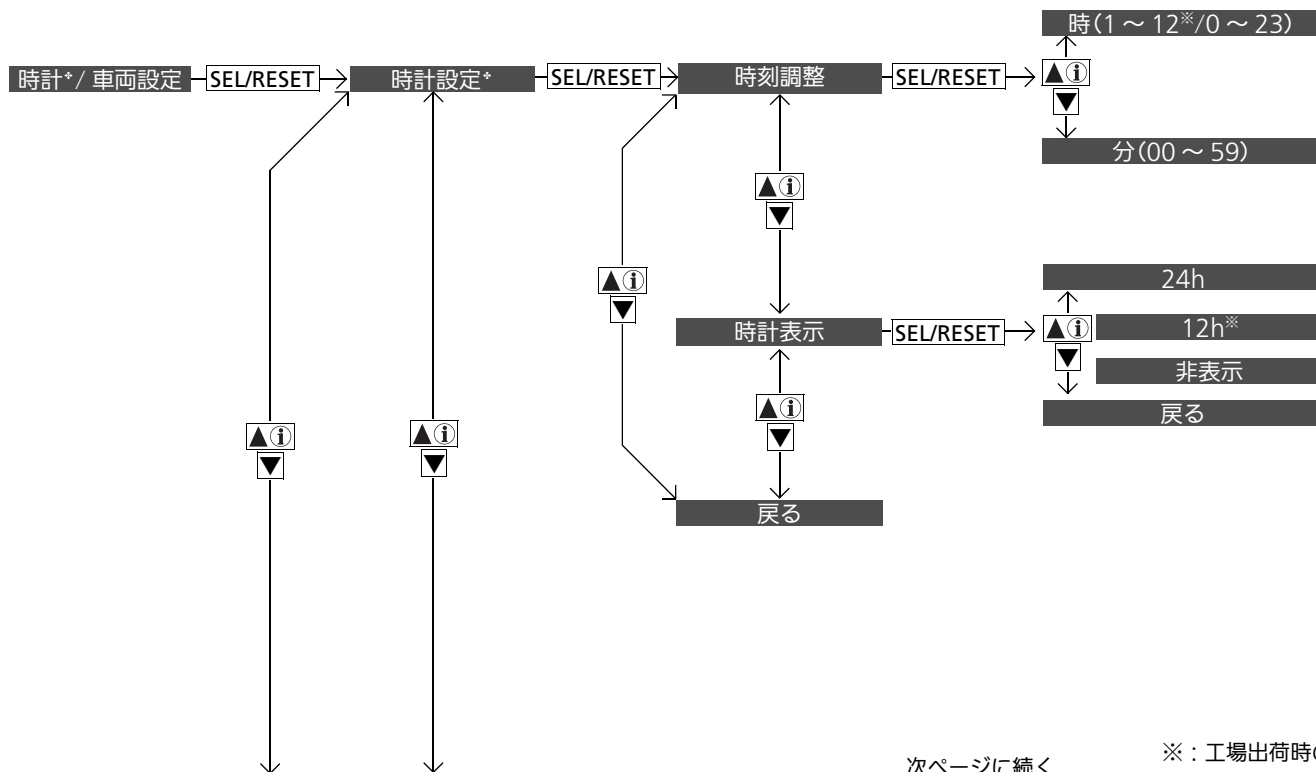


カスタマイズのしかた

- ❑ カスタマイズ操作一覧 P.100
- ❑ カスタマイズ設定の例 P.111

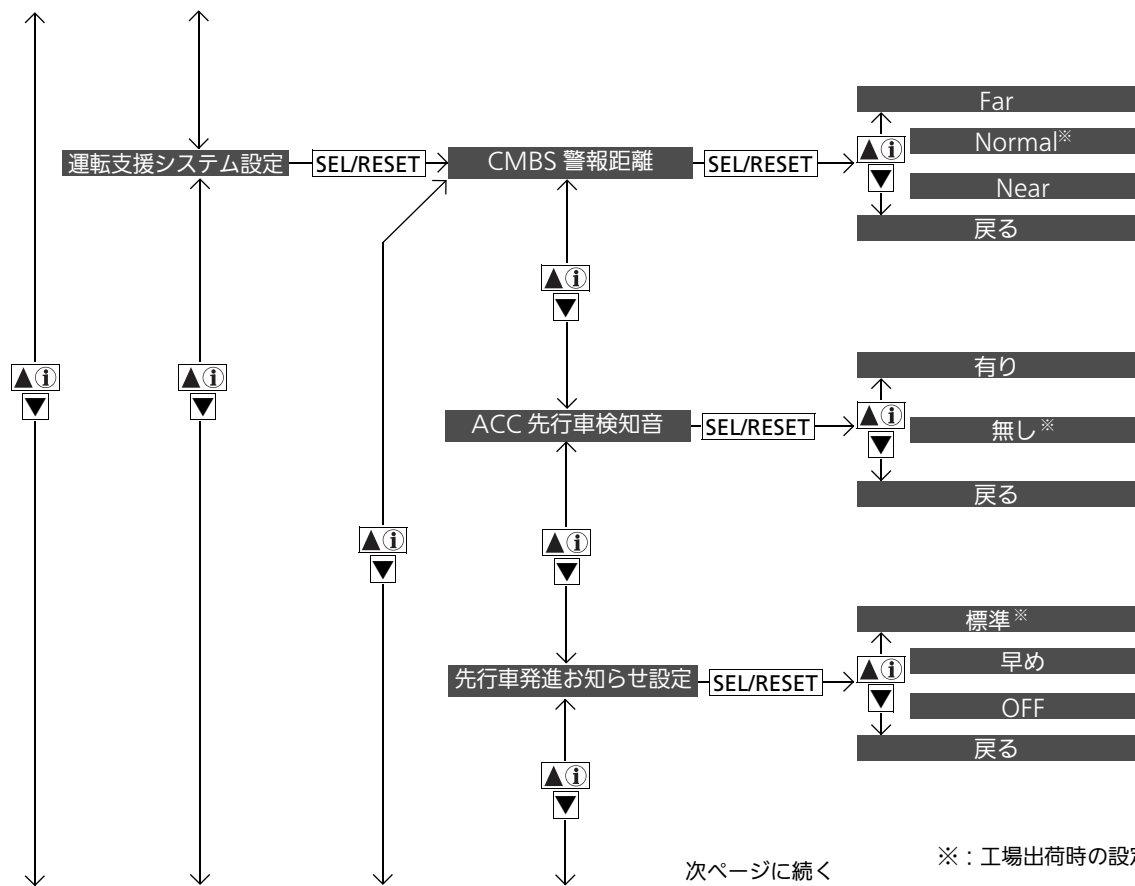
■カスタマイズ操作一覧

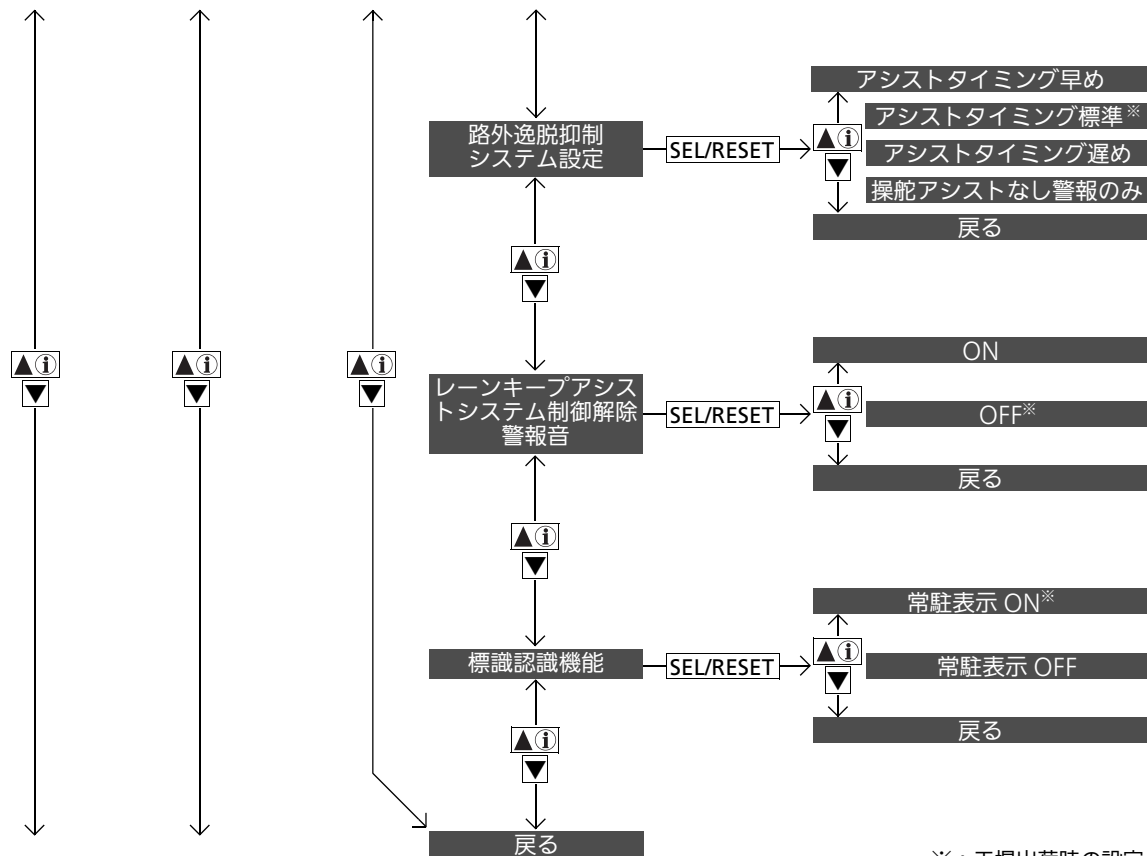
インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、**SEL/RESET**スイッチで決定します。



次ページに続く

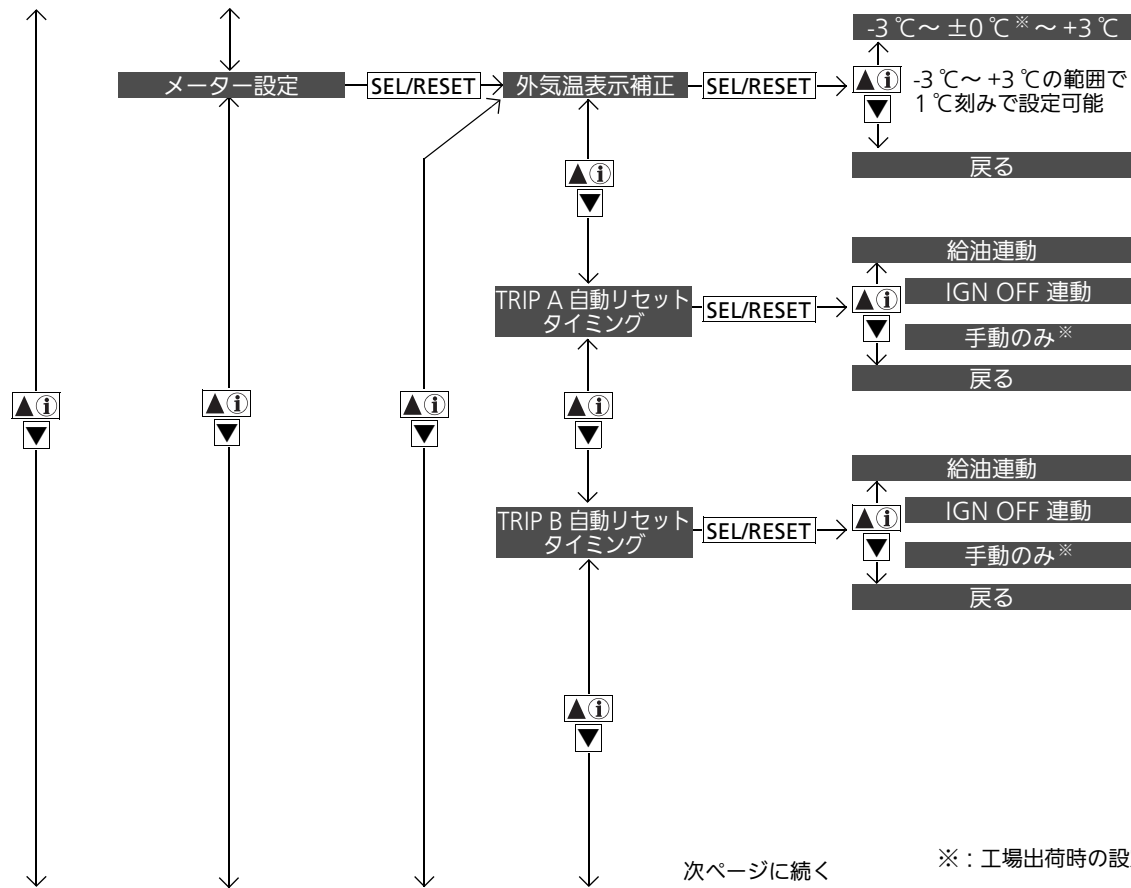
※：工場出荷時の設定

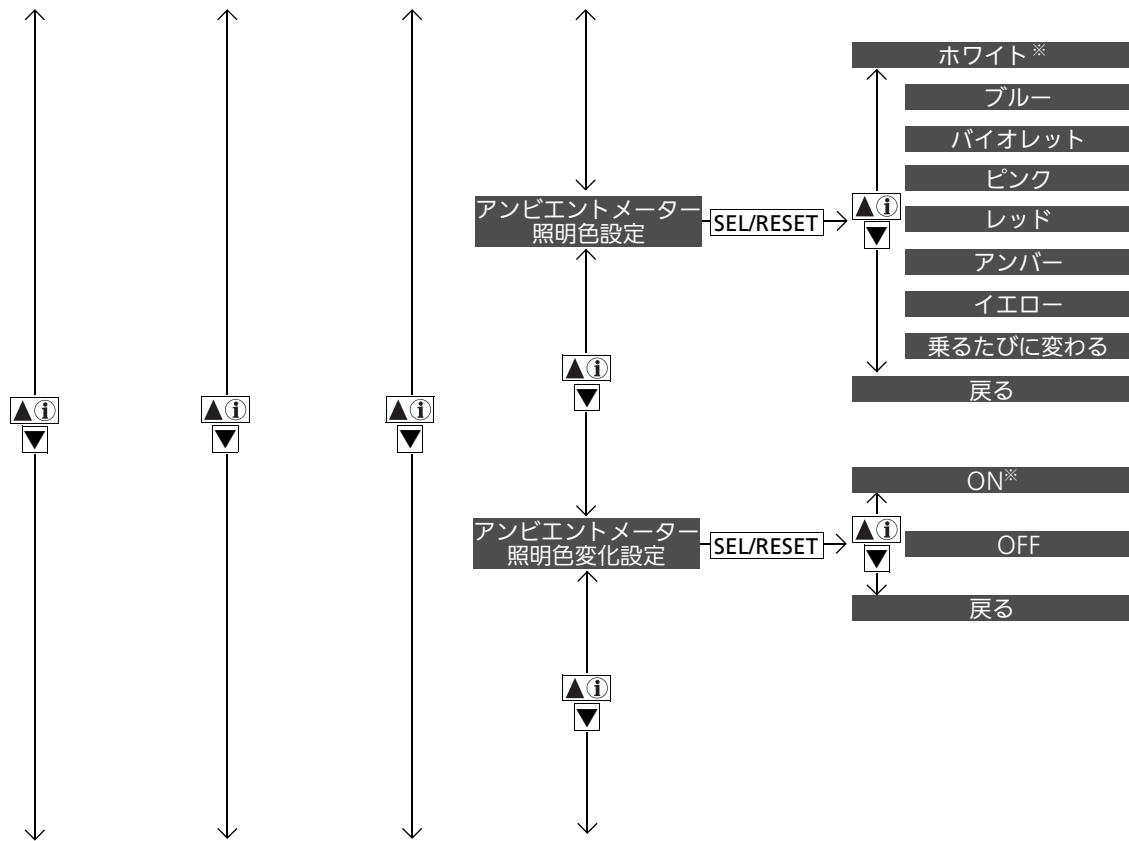




※：工場出荷時の設定

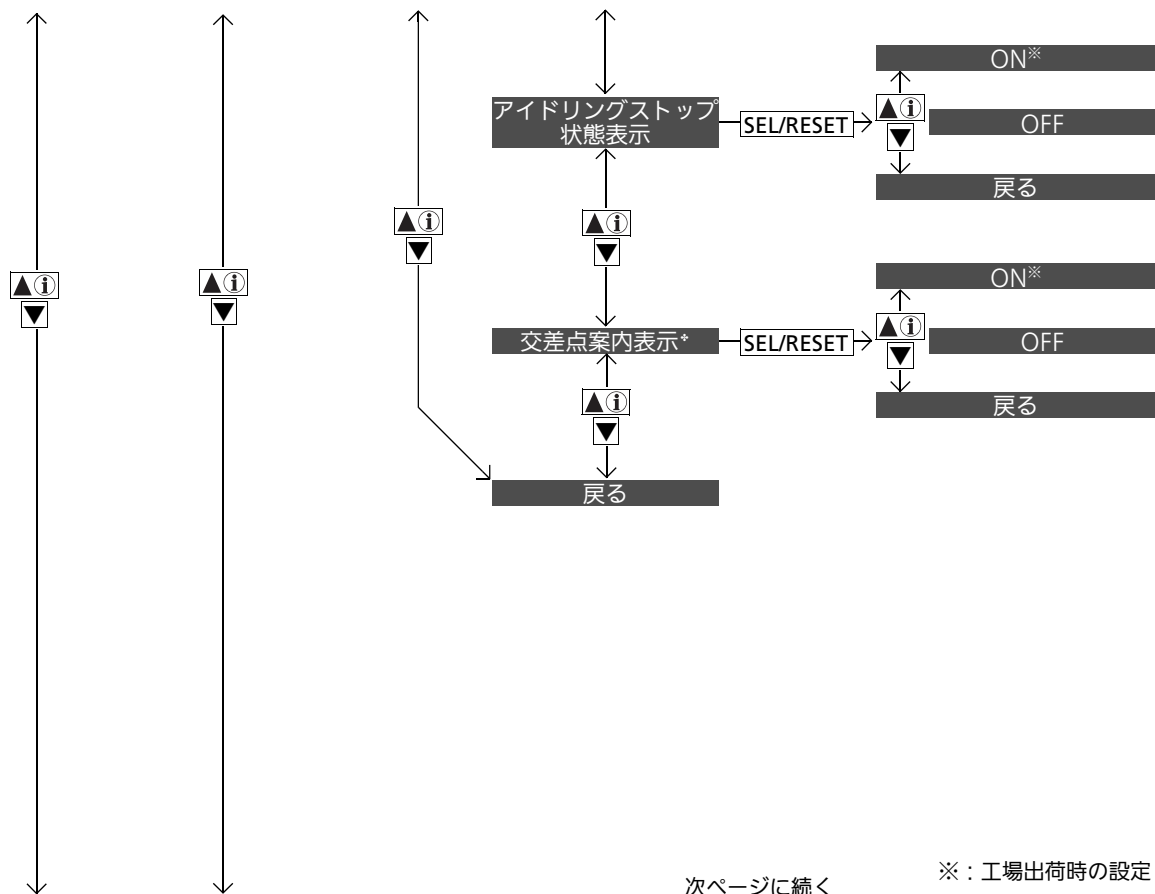
次ページに続く





次ページに続く

※：工場出荷時の設定

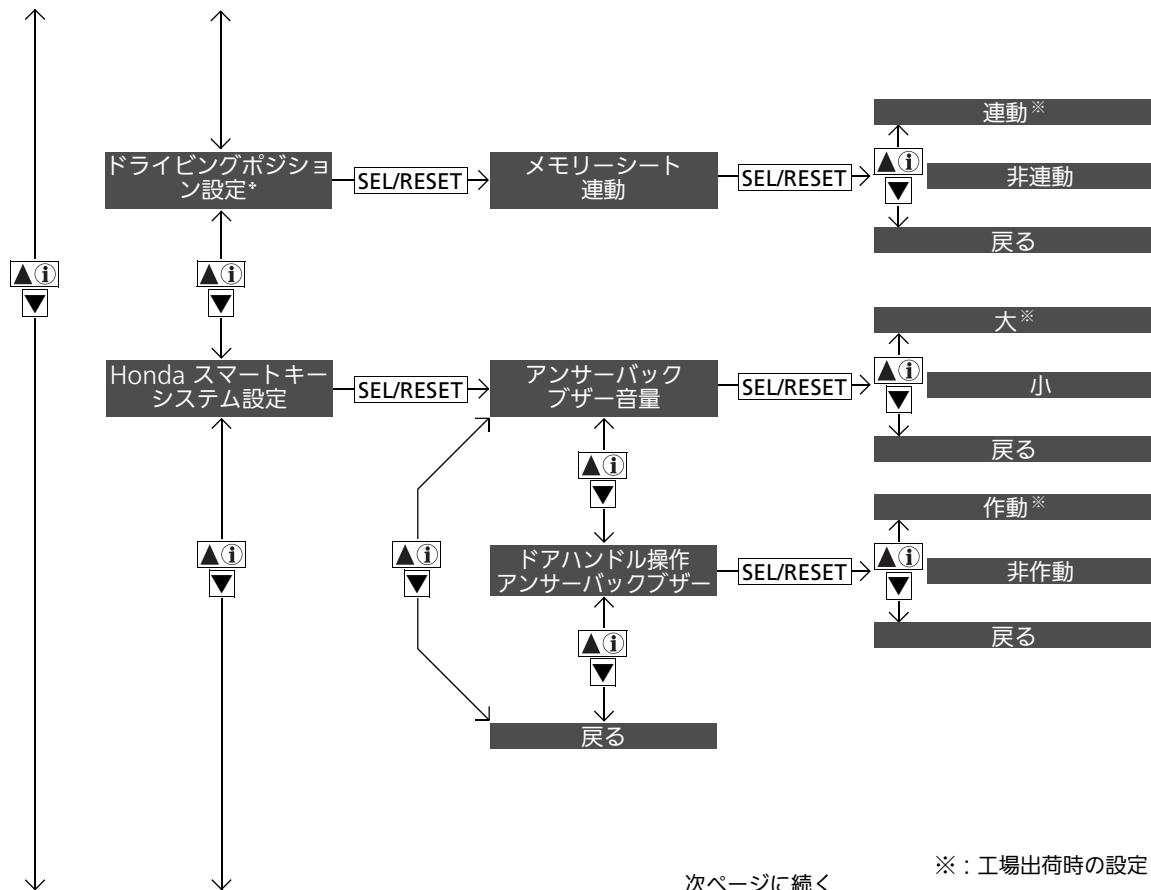


※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

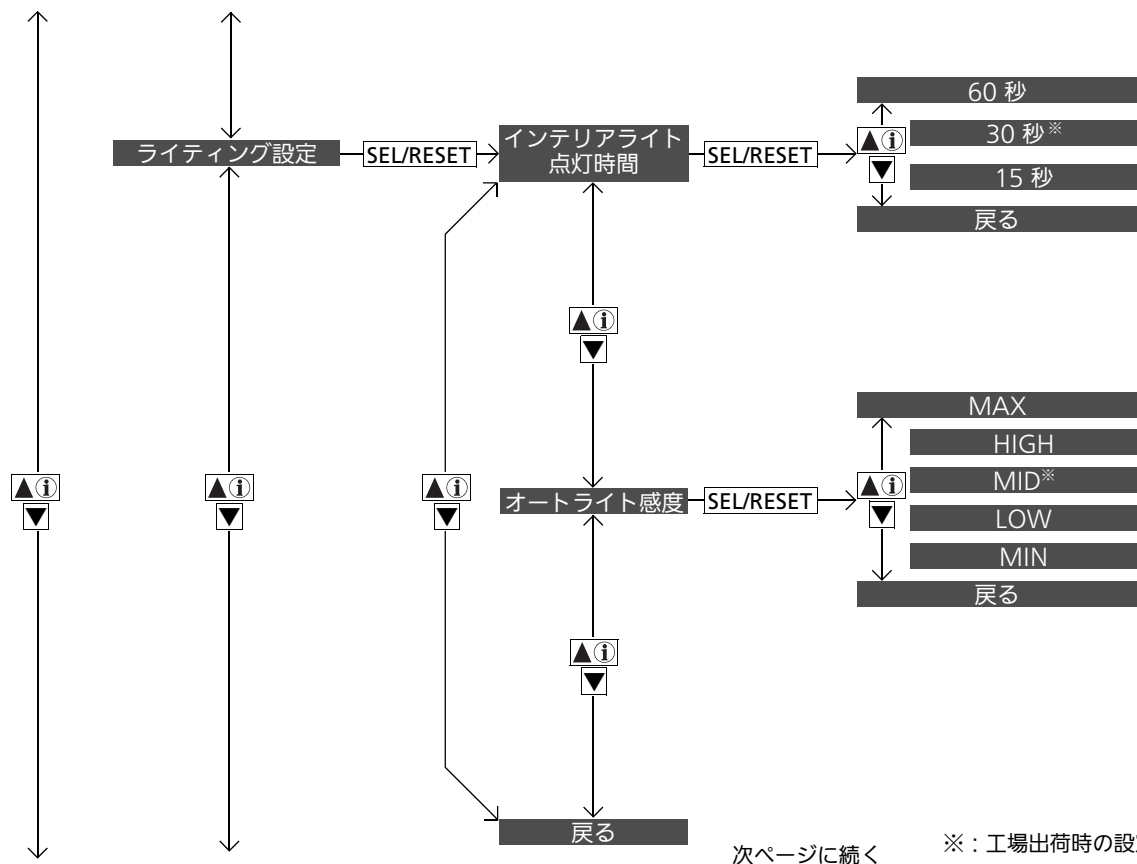
※：工場出荷時の設定

次ページに続く



次ページに続く

※：工場出荷時の設定

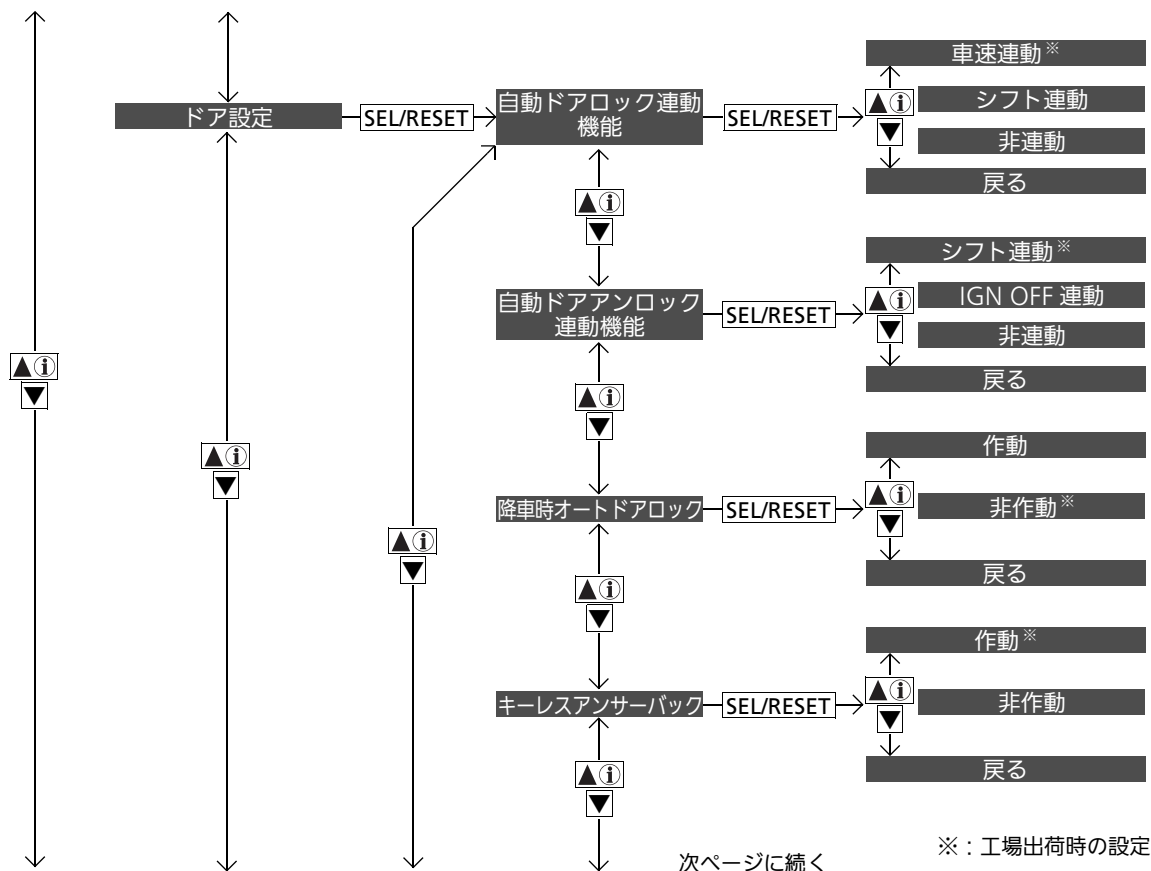


次ページに続く

※：工場出荷時の設定

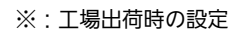
次ページに続く

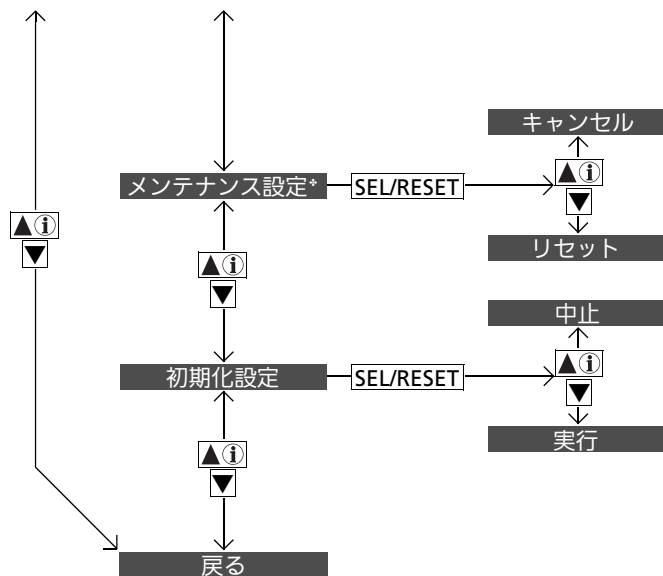
計器の見かた



次ページに続く

※：工場出荷時の設定



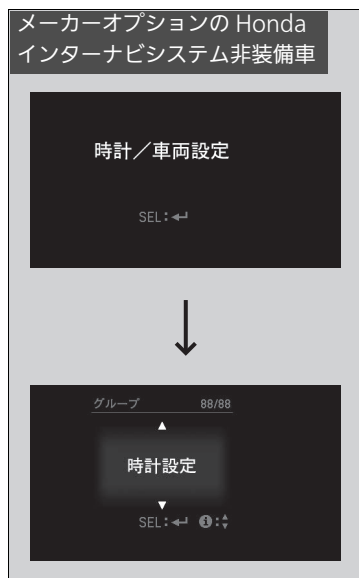


※：工場出荷時の設定

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計*/ 車両設定」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

- ▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。

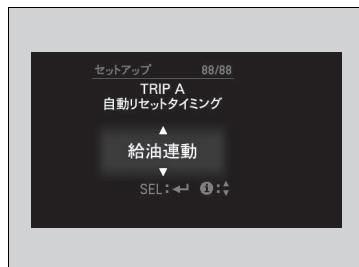
メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

- ▶「グループ」画面に切り換わり、「運転支援システム設定」が表示されます。

※カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにする
- セレクトレバーを **P** 以外にする



2. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を表示する。
3. **SEL/RESET** を操作する。
▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。
4. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「TRIP A自動リセットタイミング」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「手動のみ」が表示されます。
5. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「給油連動」を表示する。
6. 「給油連動」が選択されていることを確認し、**SEL/RESET** を操作する。
▶「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。



7. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
8. 手順7の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定.....	115
ドアの施錠と解錠	
キーの種類と機能.....	118
車外でのドアの施錠 / 解錠.....	121
車内での施錠 / 解錠.....	128
チャイルドプルーフ.....	130
オートドアロック / オートドアアンロック.....	131
テールゲートの開閉.....	132
セキュリティシステム	
イモビライザーシステム.....	134
セキュリティアラームシステム.....	134
ウィンドーの開閉.....	136

ハンドルまわりのスイッチ操作	
ENGINE START/STOP スイッチ.....	140
方向指示器(ウィンカースイッチ).....	143
ライトスイッチ.....	144
フォグライト*.....	146
ワイパー/ ウォッシャー.....	147
イルミネーションコントロール.....	150
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* アイコン.....	151
フロントガラス熱線スイッチ*.....	151
ドライビングポジションシステム*.....	152
ハンドルの調節.....	154

ミラー類の調節.....	155
プリズムアンダーミラー.....	159
シートの調節.....	160
ヘッドレスト.....	169
アームレスト.....	171
室内灯 / 室内装備品.....	172
エアコン	
エアコンの吹き出し口.....	184
オートエアコンの使いかた.....	185
オートエアコンのセンサー.....	191

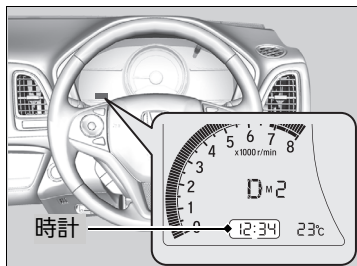
※: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時刻の設定

Honda インターナビシステム非装備車

時計の時刻を合わせる

時計はメーターに表示されます。



時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h/ 非表示)を切り替えたり時刻調整をすることができます。

1. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。



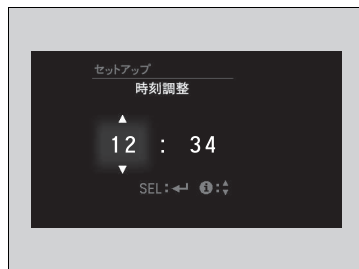
2. **SEL/RESET** を操作する。
▶「メニュー」画面に切り換わり、「時刻調整」が表示されます。

※時計の時刻を合わせる

Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。
メーターに表示されている時計もナビシステムの時計表示に連動します。

カスタマイズの詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。



3. **SEL/RESET** を操作する。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。
4. インフォメーション(**i**)スイッチ(**▲**/**▼**)を押し、希望の数値が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. インフォメーション(**i**)スイッチ(**▲**/**▼**)を押し、希望の数値が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶「分」が設定され、通常画面に戻ります。

■時間表示の選択

1. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計表示」を表示する。



2. **SEL/RESET** を操作する。

▶ 「セットアップ」画面に切り換わり時計表示設定ができます。

3. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押す。

▶ 24 h / 12 h / 非表示に切り換えることができます。

▶ 「12h」または「24h」を選択すると時計の時間表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。

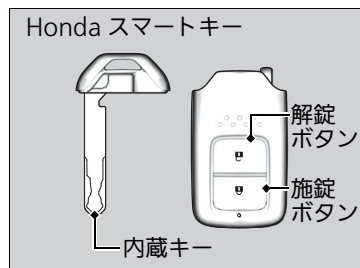
▶ 「非表示」を選択すると時計が非表示となります。

4. **SEL/RESET** を操作する。

▶ 時計表示設定が完了し、通常画面に戻ります。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。

キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

■キーの種類と機能

キーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

■イモビライザーシステム P.134

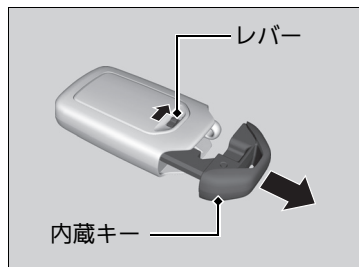
キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

内蔵キー



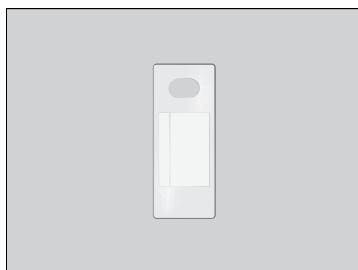
Hondaスマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、カチッと音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

内蔵キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

■ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.352

キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

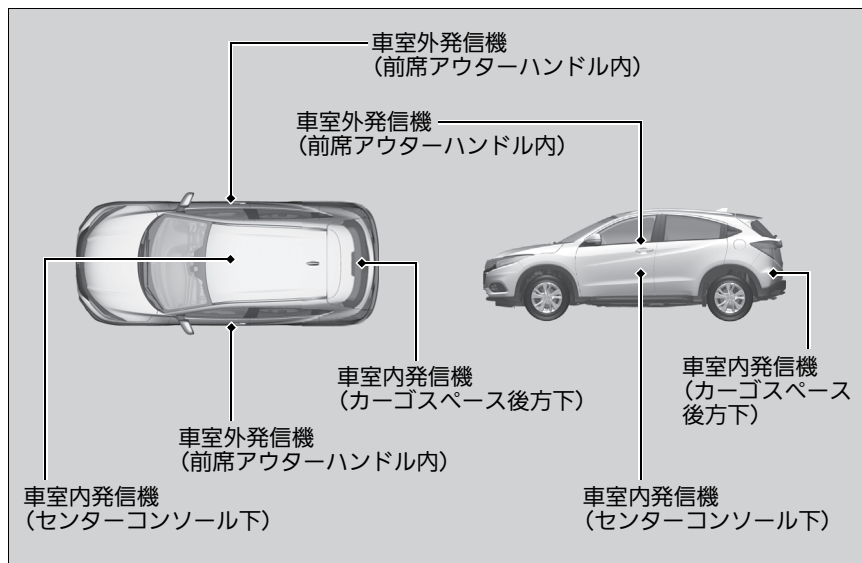
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠Honda スマートキーの微弱電波

⚠ 注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から22cm以内に近づかない。

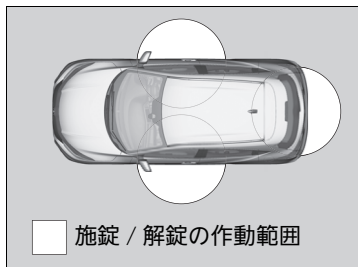
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約2年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



□ 施錠 / 解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠を操作します。

ドア、テールゲートの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

※車外でのドアの施錠 / 解錠

ドア、テールゲートを解錠すると、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドア、テールゲートを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。

■ 室内灯 P.172

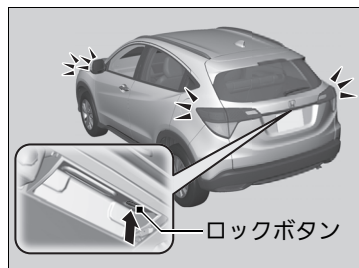
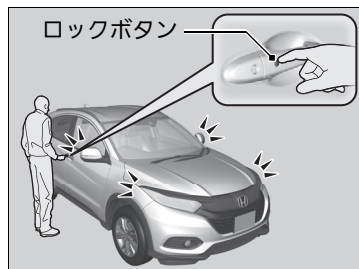
※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

30秒以内にドア、テールゲートを開けてください。

Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードがOFFモード以外のときはHonda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。



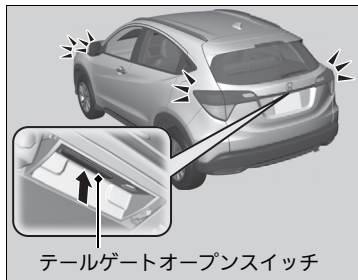
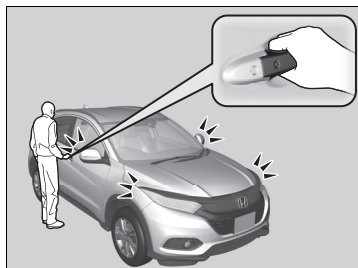
■施錠するには

運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートのロックボタンを押します。

- ▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。



テールゲートオープンスイッチ

■解錠するには

運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

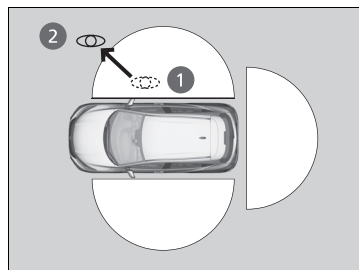
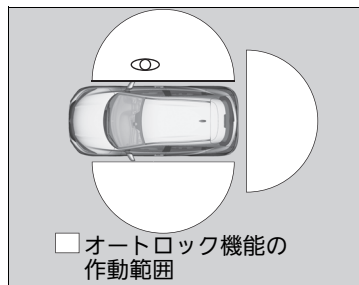
❏Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- ドアハンドルまたはテールゲートオープンスイッチより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

❏ カスタマイズ機能 P.97



■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。

このオートロック機能は、すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。
2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

※施錠するには(降車時オートドアロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。

ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。

▶ カスタマイズ機能 P.97

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されますが、再度ドアを閉めるとオートロック機能は再開されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。

- Honda スマートキーが車内にあるとき
▶ ブザーは鳴りません
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
▶ ブザーが鳴ります

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. マスタードアロックスイッチを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

❖ 施錠するには(降車時オートドアロック機能)

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

- Honda スマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内になくるとき

オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。

- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

Honda スマートキーが作動範囲にない場合、ドア、テールゲートを閉めた時にオートロック機能は起動せず、オートロック作動中止ブザーが鳴ります。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

インジケーター



Honda スマートキー



施錠ボタン



解錠ボタン

■施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

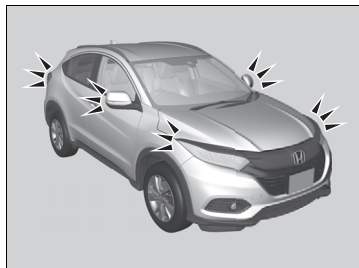
キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

🔋 電池交換のしかた P.327



■キーを差し込んでの施錠 / 解錠



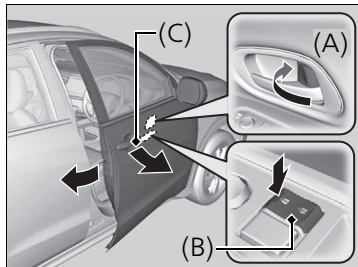
Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

❏ 電池交換のしかた P.327

キーを確実に差し込んで、回します。

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ (A) を押し込むか、マスタートアロックスイッチ (B) を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル (C) を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

❏キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアに内蔵キーを差し込んで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

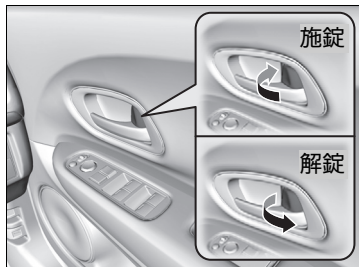
❏キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠

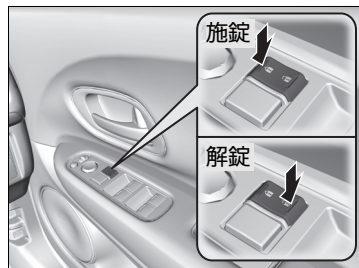


運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

※ ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠の
ほうに押します。

☒ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

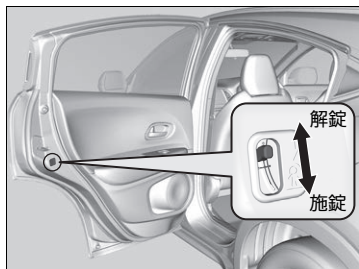
運転席ドアのマスタードアロックスイッチで
施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テー
ルゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドブルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグ装備車の場合で、サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

※チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

※衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック(車速連動)

オートドアロックとは、車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、テールゲートが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック(セレクトレバー連動)

ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを **P** に入れると、すべてのドア、テールゲートが自動的に解錠される機能です。

※オートドアロック / オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

■ カスタマイズ機能 P.97

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉するときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
 - 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
 - テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- 一酸化炭素について P.59

ⓘ テールゲート開閉時の注意

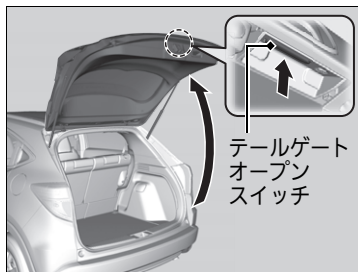
注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

テールゲートを開ける



解錠されているときに、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げます。

※テールゲートを開ける

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠 P.121

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。**ENGINE START/STOP**を押すときは、下記の点に注意してください。

- **ENGINE START/STOP** の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

※イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

※セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを
停止させるまで、約 5 分間作動します。

ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。

状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

※セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

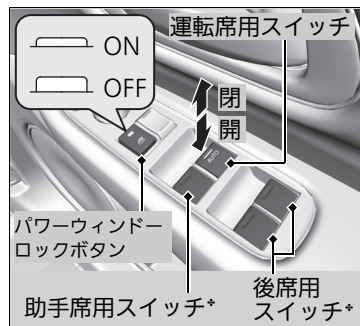
運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFFにしてから行います。

パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、スイッチにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンをON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンをONにしておいてください。

各部の操作

自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ/下げします。

⌘パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

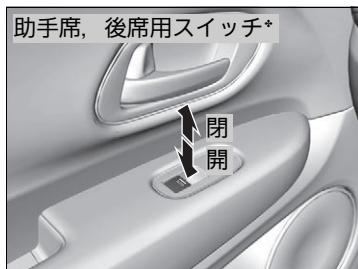
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワーモードをOFFモードにしても、約10分間はキーオフオペレーションにより自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

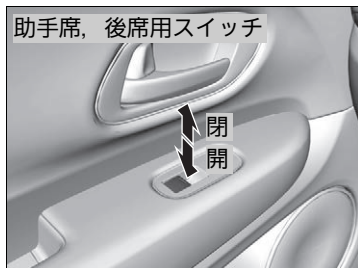


▶▶ パワーウィンドーの開閉

お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

自動開閉機能なしのウィンドーの開閉*



開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■キーレスエントリーシステムでのウィンドーの開閉*



 施錠ボタン

 解錠ボタン

キーレスエントリーシステムを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

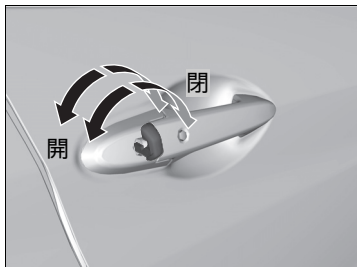
開けるとき：キーレスエントリーシステムで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき：キーレスエントリーシステムで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

■ キーシリンダーでのウィンドーの開閉*



運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき：運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっぽうに内蔵キーを回したままにする

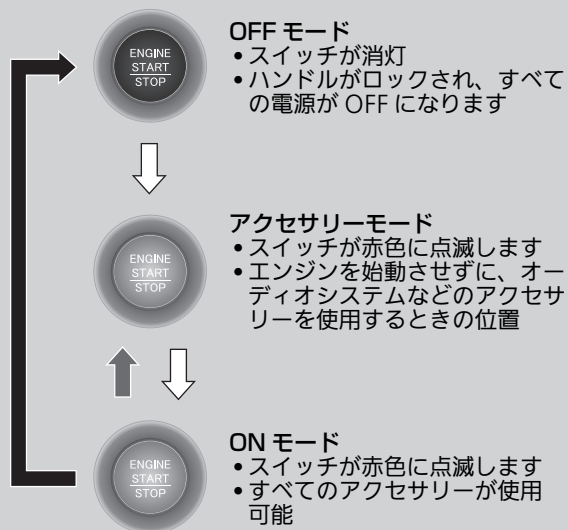
閉めるとき：運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、施錠側いっぽうに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

ENGINE START/STOP スイッチ

■ パワーモードの切り換えかた



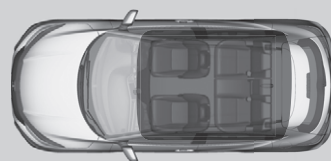
(ブレーキペダルを踏んでいない状態)

- ➡ スイッチを押す
- ➡ セレクトレバーが **P** 以外のときに、スイッチを押す
- ➡ セレクトレバーが **P** のときに、スイッチを押す

※ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードを ON モードにできます。

Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードのON機能が作動しないことがあります。



■ エンジン始動の作動範囲

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、エンジンの始動ができることがあります。

■ パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが **P** でパワーモードがアクセサリモードのときに 30 分～60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードと同様になります。

このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。

ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■ パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリモードのとき

❖ ENGINE START/STOP スイッチ

パワーモードが OFF モードからアクセサリモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、

ENGINE START/STOP を押してください。ハンドルロックが解除されます。

Honda スマートキーの電池が消耗した状態で **ENGINE START/STOP** を押してもエンジンがかからない場合があります。そのときは、下記ページを参照ください。

❖ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.352

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。

警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

■ Honda スマートキー持ち去り警告

エンジン始動の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

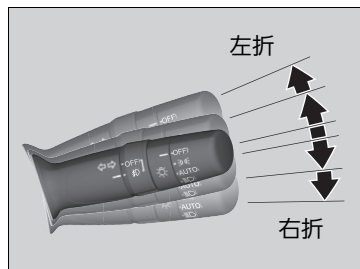
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

故障ではありませんので、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

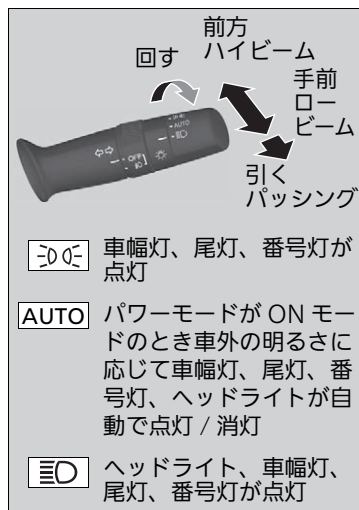


パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3 回点滅します。

ライトスイッチ



スイッチを回すとパワーモードに関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

※ライトスイッチ

ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

▶表示灯 P.71

エンジンが止まっているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

次の条件が揃ったとき、アクセサリライトが点灯します。

- パワーモードが ON モードのとき
- ライトスイッチが **AUTO** で周囲が明るいとき

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

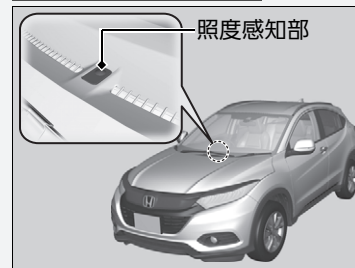
▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを **AUTO** にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

※ライトスイッチ

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。

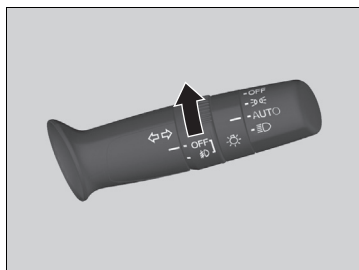
オートワイパー非装備車



オートワイパー装備車



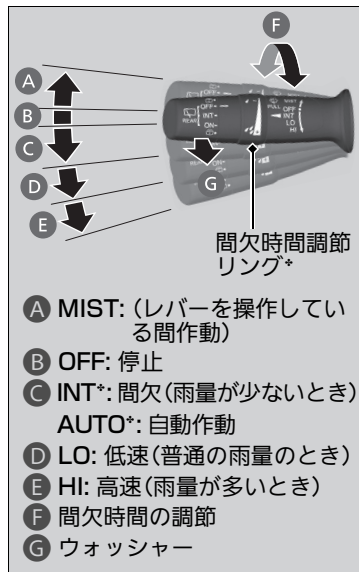
フォグライト*



ライトスイッチが **OFF** 以外するとき(ライトスイッチを **AUTO** にしているときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

ワイパー / ウォッシャー

■ フロントワイパー / ウォッシャー



パワーモードがON モードのときに使用できます。

■ MIST

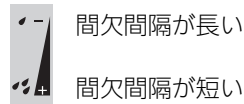
レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ ワイパースイッチ(OFF、INT*、AUTO*、LO、HI)

雨量により適切な位置を選択して使用します。

■ 間欠時間の調節*

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



■ ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ ワイパー / ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線* でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

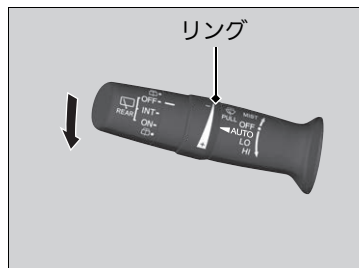
アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

■ 間欠時間調節リング装備車

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。
間欠時間を短いほうにいっぱい回している状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

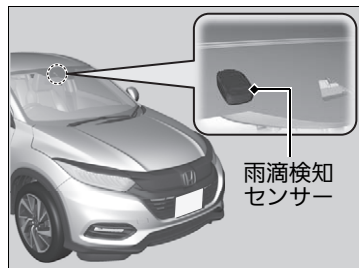
■オートワイパー*



レバーを **AUTO** の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。

レバーをOFFの位置にすると、ワイパーを停止することができます。



■センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。



低感度：雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

高感度：雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

※ワイパー / ウォッシャー

オートワイパー装備車

⚠ 注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。

パワーモードが ON モードでレバーが **AUTO** のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

■ リヤワイパー / ウォッシャー



パワーモードがON モードのときに使用できません。

■ リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り替えて使用します。

■ ウォッシャースイッチ

スイッチを $\left[\text{washer symbol} \right]$ まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーを $\left[R \right]$ に入れるとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード リヤワイパーの作動モード

INT* (間欠)	間欠作動
AUTO* (自動作動)	
LO (低速)	連続作動
HI (高速)	

❖ ワイパー / ウォッシャー

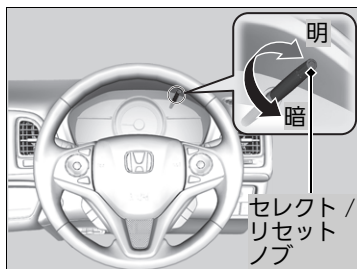
ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたはOFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

イルミネーションコントロール



パワーモードがONモードのとき、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

暗くする：ノブを左に回す

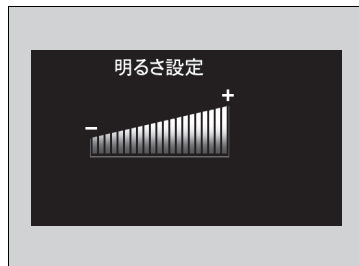
明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。

また、明るさの調節後、数秒経過するとディスプレイが元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。

目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。



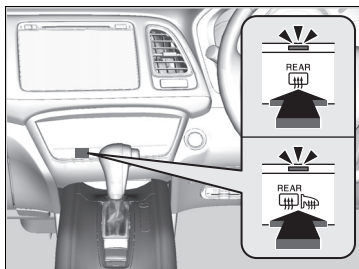
※イルミネーションコントロール

ライトスイッチが **OFF** 以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

インストルメントパネル照明が減光しているときとしていないときで、それぞれ明るさが調節できます。

- インストルメントパネル照明が減光しているときに目盛が全て表示されるまでセレクト / リセットノブを右に回すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。
- 車幅灯が消灯しているときに目盛が全て表示されなくなるまでセレクト / リセットノブを左に回すと、明るさが最小になります。このとき走行したり、車幅灯を点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。

リヤデフロスター/ヒートッドアミラー* アイコン



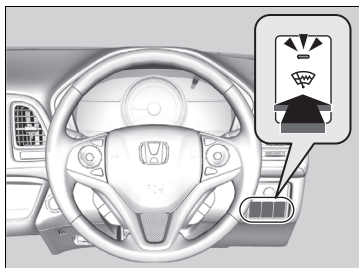
パワーモードがONモードのときに  /  アイコンを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖めて、曇りをとることができます。外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が0℃以下のときは自動的に停止しません。

❖ リヤデフロスター/ヒートッドアミラー* アイコン

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

フロントガラス熱線スイッチ*



パワーモードがONモードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

スイッチを押すと、フロントガラス熱線が ON になります。

約 15 分経過後、自動的に停止します。

❖ フロントガラス熱線スイッチ*

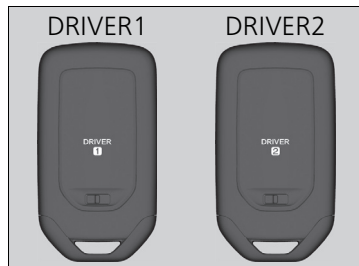
この装置は消費電力が大きいので、霜が取れたら OFF にしてください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

ドライビングポジションシステム*

シートの位置を2種類記憶させ、それぞれの位置に自動で調節させることができます。

Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーと DRIVER2 のキーを判別して、記憶したシート位置に自動で調節されます。



DRIVER1 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン¹で記憶したシート位置に自動調節

DRIVER2 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン²で記憶したシート位置に自動調節

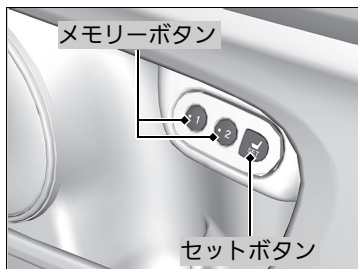
☒ ドライビングポジションシステム*

カスタマイズ機能について

マルチインフォメーションディスプレイを使って解錠時のシート連動機能を解除することができます。

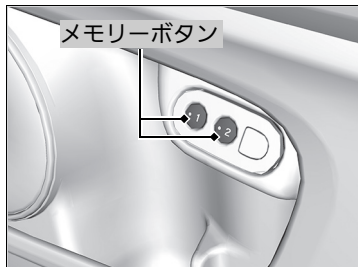
☒ カスタマイズ機能 P.97

記憶のさせかた



1. 運転席シートを希望の位置に調節し、パワーモードを ON モードにする。
2. セットボタンを押す。
▶ 「ピッ」と音が鳴り、メモリーボタンの表示灯が点滅します。
3. セットボタンを押してから5秒以内にメモリーボタンの「1」か「2」を「ピッピッ」と音が鳴るまで押す。
▶ 記憶されると押したボタンの表示灯が点灯します。

記憶の呼び出しかた



1. シフトポジションを「P」にする。
2. メモリーボタン（「1」または「2」）を押す。
▶ 「ピッ」と音が鳴り、表示灯が点滅します。

記憶させた位置までシートが自動的に移動し、移動が完了すると「ピッピッ」と音が鳴り、表示灯が点灯します。

記憶のさせかた

セットボタンを押した後、以下のような状況になったときは記憶操作がキャンセルされます。

- 5 秒経過してもメモリーボタンを押さなかったとき
- シート位置を調節したとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

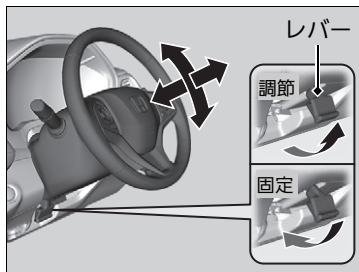
記憶の呼び出しかた

自動でシートが移動しているときに、以下のような操作を行うとシートの移動が止まります。

- セットボタン、またはメモリーボタン（「1」または「2」）を押したとき
- シート位置を調節したとき
- シフトポジションを「P」以外にしたとき

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

▶▶ ハンドルの調節

⚠ 注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

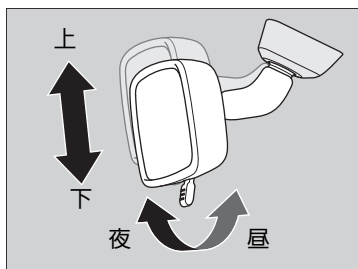
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ミラー類の調節

ルームミラー

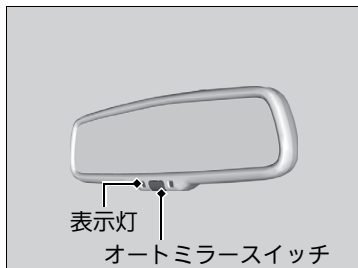
ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■手動式防眩ミラー*



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

■自動式防眩ミラー*



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

パワーモードがONモードで、オートミラースイッチがONのときに作動します。スイッチを押すごとにON、OFFが切り換わります。ONにすると表示灯が点灯します。

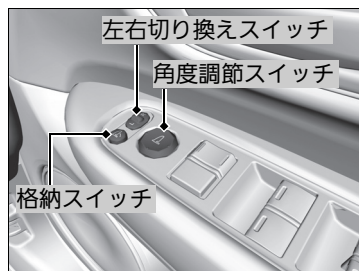
※ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

※自動式防眩ミラー*

セレクトレバーを **R** に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

■ リバース連動ドアミラー*

後退時、車両の左側面の視界をよりよく確保するため、セレクトレバーの **R** と連動して助手席側ドアミラーが自動的に下向きになります。



パワーモードが ON モードで、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側にあることを確認します。

セレクトレバーを **R** の位置にすると、助手席側ドアミラーが下向きになります。

セレクトレバーを **R** 以外の位置にすると元の位置に戻ります。

▣ リバース連動ドアミラー*

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。

- 左右切り換えスイッチを左側以外の位置にしたとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側以外の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左側にしてください。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルやテールゲートのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押す。
- パワーモードを ON モードにする。

☒オートリトラミラー

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

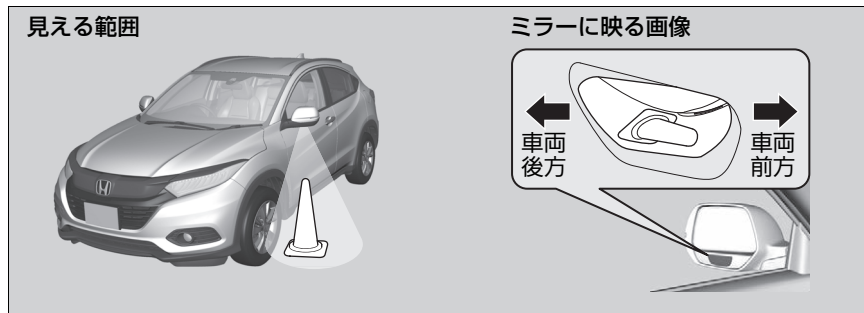
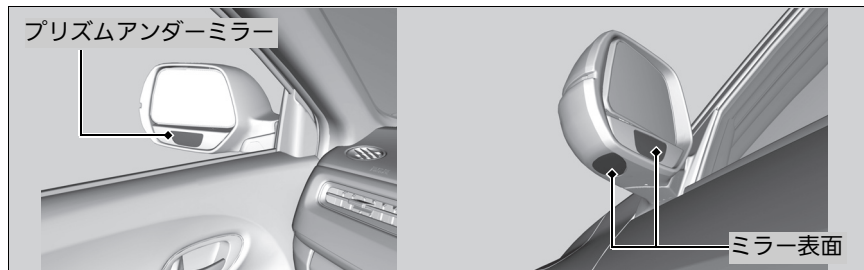
マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートリトラミラーの設定を変更することができます。

☒ **カスタマイズ機能** P.97

プリズムアンダーミラー

助手席側ドアミラーの下部に付いています。

停車時や発進時に車両左側助手席付近を確認するときに役立ちます。



※プリズムアンダーミラー

ミラー表面の傷付きや曇りによる視界の妨げを防止するために次のことをお願いします。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- ミラー表面が凍結しているときは解凍剤やプラスチックの板を使用せずに、温水や水道水を使って溶かす
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

車両後方の確認は直接目視で確認するか、ルームミラー、ドアミラーなどで十分に行ってください。

プリズムアンダーミラーの角度調節はできません。

汚れや水滴を拭き取るときはきれいな布で拭き取ってください。

水洗いでミラーの汚れが落ちない場合や、誤ってワックスなどを塗布してしまった場合は、家庭用中性洗剤を使って柔らかい布でミラー表面を拭き取ってください。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくブレーキペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

※フロントシート



注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

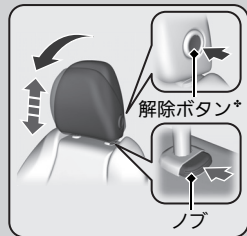
同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

シートの動かし方

■フロントマニュアルシート*

■ヘッドレストの調節*

- 高くする：引き上げる
- 低くする：ノブを押しながら下げる
- 前に傾ける*：後ろから前へ押す
- 後ろに傾ける*：解除ボタンを押す



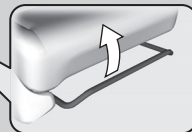
■背もたれの角度調節 レバーを引き上げながら調節



■高さの調節（運転席） レバーを繰り返し引き上げ／引き下げし、高さを調節



■前後位置の調節 レバーを引き上げながら、前後位置を調節



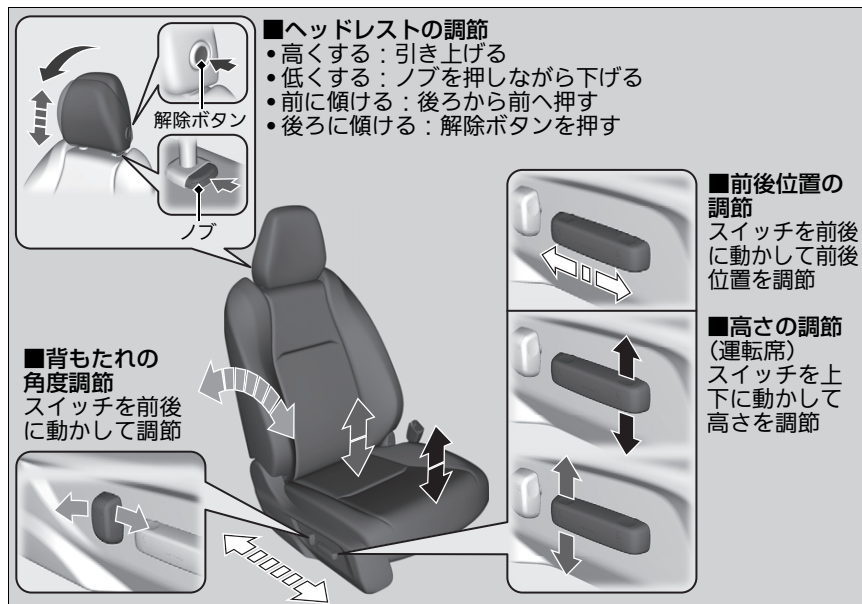
※フロントマニュアルシート*

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

■フロントパワーシート*



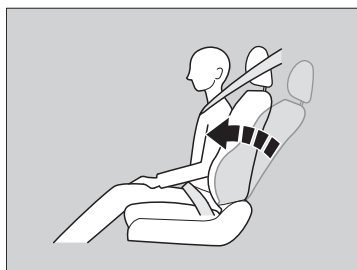
▶▶ フロントパワーシート*

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

■ フロントシートの調節



■ シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

▶▶ フロントシートの調節



警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。



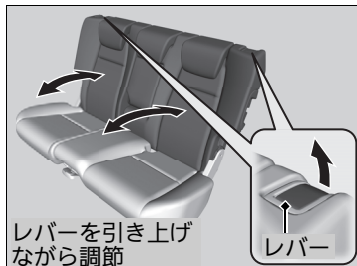
注意

背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

■ 背もたれの調節



背もたれは、左右別々に操作することができます。レバーを引いて、背もたれの角度を調節します。

※ リヤシート

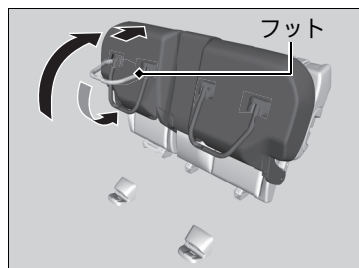
⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

座面をはね上げて固定する(チップアップ)



座面は、左右別々にはね上げることができます。

■座面のはね上げかた

左側

1. アームレストを収納する。

共通

2. 座面を引き上げる。

3. 座面を背もたれに押しつけながらフットを格納して、固定する。

座面をはね上げて固定する(チップアップ)

⚠ 注意

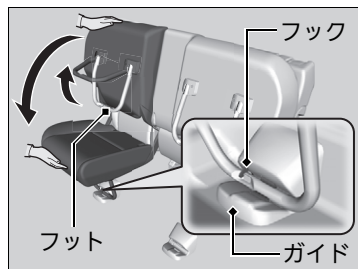
座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆすって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

座面を戻すときは、以下のことを確認する。

- ガイド周辺に異物がないか
- フロアマットがズレて、ガイドに乗り上げていないか
- 座面の下にもものやシートベルトを置いていないか

異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんとしていないと座面が確実に固定されず、走行中に座面がはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。



■戻しかた

1. 座面を押さえながら、フットをいっぱい
に開く。
▶ 座面が前に倒れ込むので必ず手を添え
て操作してください。
2. 座面を静かに前方に倒して、フットをガ
イドに入れる。
▶ ガイドからフックが出ていることを確
認してください。

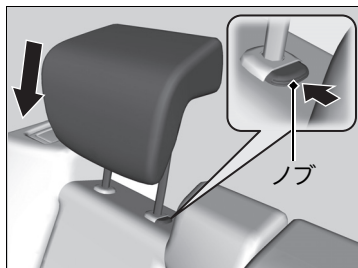
※座面をはね上げて固定する(チップアップ)

フットを格納した状態で座面を倒さないでく
ださい。

アドバイス

座席を戻すときは、シートベルトやバックル
をはさみ込まないように注意してください。
はさまれると正しく着用できません。
シートベルトやバックルが破損することがあ
ります。

■ 背もたれの倒しかた



リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。

片側ずつ独立して行えます。

■ 倒しかた

1. 中央の三点式シートベルトを分離・収納する。

■ 分離収納式シートベルト P.33

2. ヘッドレストを下げ、アームレストを収納する。

■ 背もたれの倒しかた

⚠ 注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

以下のような場合、ヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。

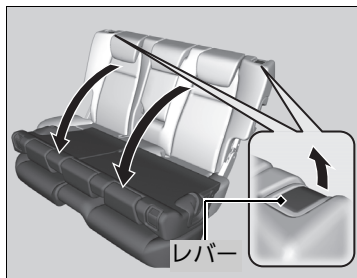
- フロントシートの背もたれを後ろに倒したとき
- シートバックポケットにものが入ったままりヤシートを格納するとき

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にもものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。

シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。



■戻しかた

背もたれを起こして固定します。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

3. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

※背もたれの倒しかた

背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。

急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

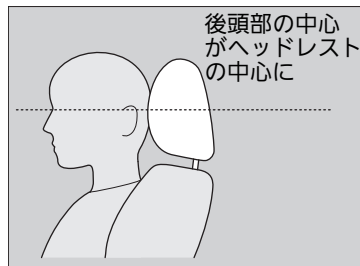
シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

はさまれると正しく着用できません。
シートベルトが破損することがあります。

ヘッドレスト

■ フロントシートヘッドレストの調節*

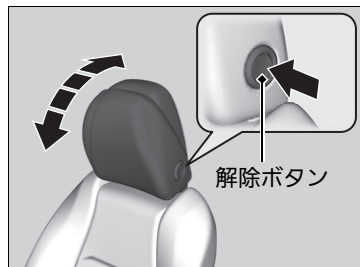


後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる

低くするとき：ノブを押しながら下げる

■ ヘッドレストの傾き調節*



フロントシートのヘッドレストは、姿勢に合わせ傾きを調節してください。

前方へ調節するとき：ヘッドレストを後ろから前へ押します。

後方へ調節するとき：ヘッドレストの後ろを手で支えながら解除ボタンを押します。

■ ヘッドレスト



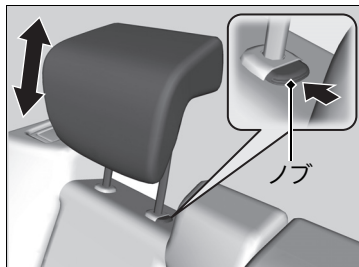
ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■リヤシートヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる
低くするとき：ノブを押しながら下げる

■ヘッドレストの取り外しと取り付け*

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

※リヤシートヘッドレストの位置変更

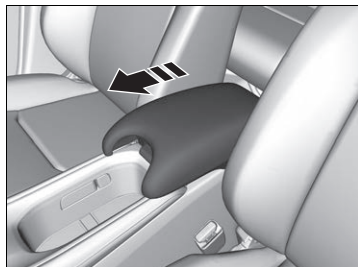


警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

アームレスト

■ フロントシートアームレスト



センターコンソールボックス上部を前に動かして使うことができます。

■ リヤシートアームレストの操作



前に倒して使います。

※アームレスト

⚠ 注意

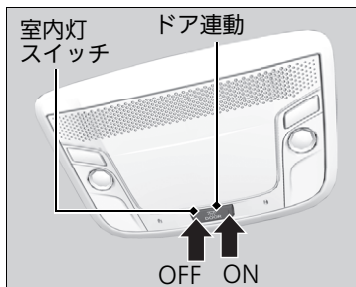
シートベルト着用時にアームレストに引っ掛けない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

室内灯スイッチ



■ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。

- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の点灯時間を変更することができません。

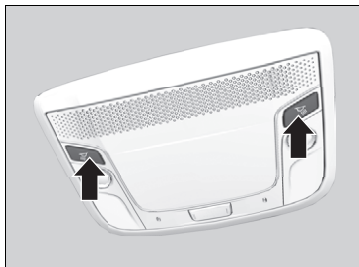
カスタマイズ機能 P.97

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

■ マップランプ



■ フロントシート用マップランプ

夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



■ リヤシート用マップランプ

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

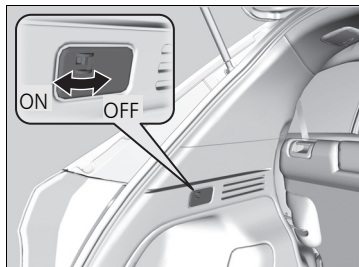
※ マップランプ

■ リヤシート用マップランプ

以下のときスイッチを押しても消灯できません。

- 室内灯スイッチが ON のとき
- 室内灯スイッチがドア連動でドアが開いているとき

■カーゴスペース照明灯



■ON

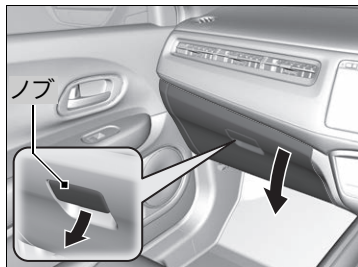
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

■OFF

テールゲートの開閉に関係なく消灯。

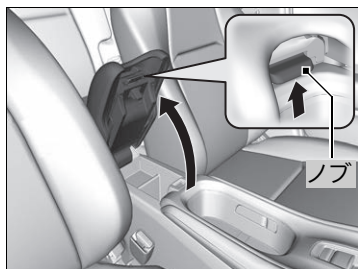
室内装備品

■ グローブボックス



ノブを引くと開きます。

■ センターコンソールボックス



ノブを引くと開きます。

※ グローブボックス



警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

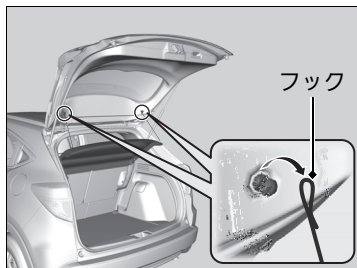
※ センターコンソールボックス



警告

走行中は必ずセンターコンソールボックスを閉める。
センターコンソールボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■リヤシェルフ*



■外しかた

1. テールゲートの裏側から、フックを外す。
2. シェルフをロッドから外して取り出す。

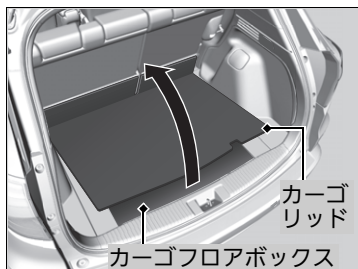


▣リヤシェルフ*

リヤシェルフの上に物を置かないでください。

後方視界をさまたげるばかりでなく、急ブレーキなどのときにとび出すおそれがあります。

カーゴフロアボックス



カーゴリッドを開けます。

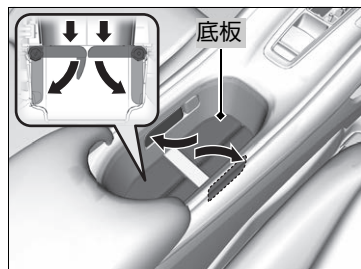
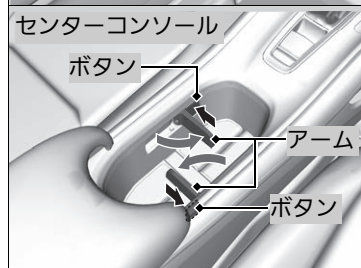
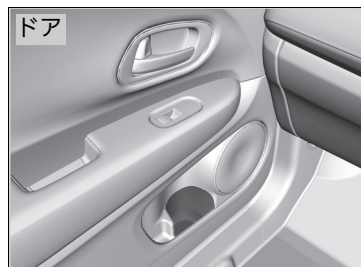
カーゴフロアボックス

⚠ 注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■フロントシート用ドリンクホルダー



■ホルダーを浅くする

ボタンを押すと、底板が閉じ、アームが開きます。

■ホルダーを深くする

アームを閉じ、底板を押し込む。

※フロントシート用ドリンクホルダー



注意

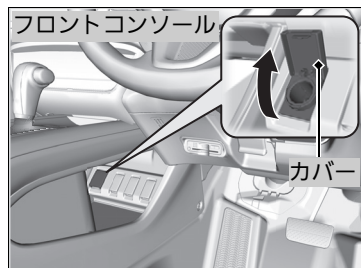
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

リヤシート用ドリンクホルダー



■アクセサリソケット



パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに使用できます。

■フロントコンソールのアクセサリソケット

カバーを開けて使います。

センターコンソールボックス後部



■センターコンソールボックス後部のアクセサリソケット

カバーを開けて使います。

※アクセサリソケット

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリに、直流 12V の電源を供給します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

■ コートフック



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

※ コートフック

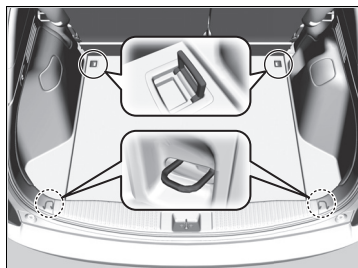
⚠ 注意

グラブレールにもものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

※ カーゴフック

■ カーゴフック



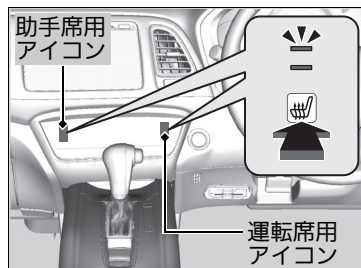
荷物を固定するときに使います。

⚠ 注意

走行中は荷物の出し入れはしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ シートヒーター*



パワーモードがONモードのときに使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

アイコンを押します。

- 1回 - HI (高温): インジケーターが2個点灯
- 2回 - LO (低温): インジケーターが1個点灯
- 3回 - OFF: インジケーターが消灯

※ シートヒーター*

⚠ 注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

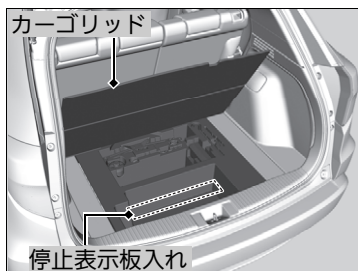
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱い人
- 疲労の激しい人

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、エンジンが停止しているときは長時間使わないでください。

バッテリーの容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

■ 停止表示板入れ



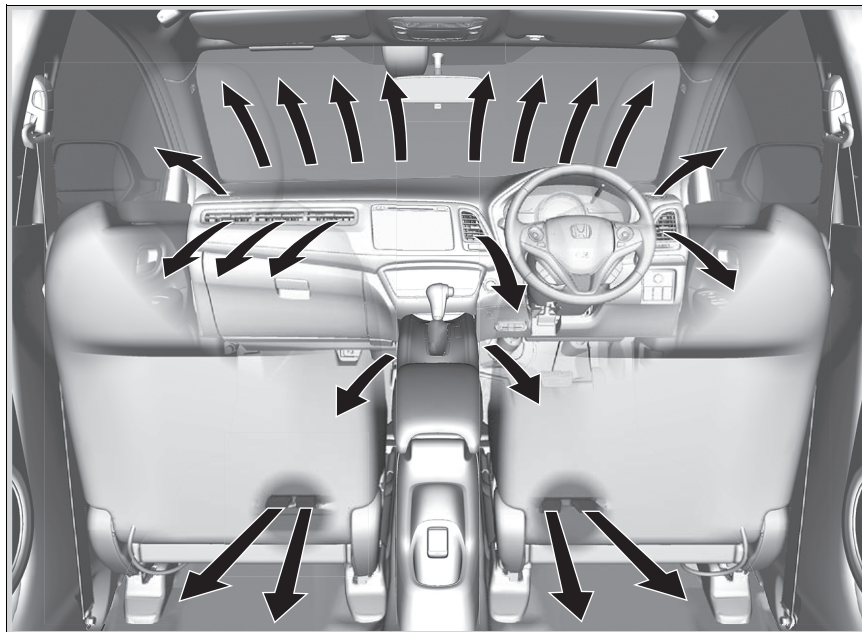
カーゴリッドの下に停止表示板入れがあります。

☒ 停止表示板入れ

収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ ...427mm 以下
- 高さ ...116mm 以下
- 幅 ...48mm 以下

エアコンの吹き出し口

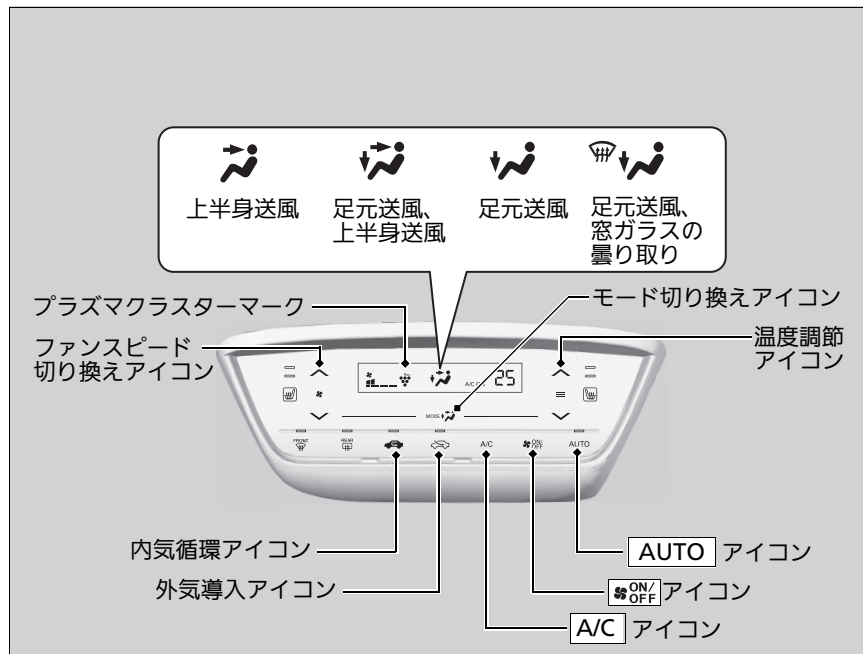


※エアコン

Honda インターナビシステム装備車

音声操作の詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 温度調節アイコン(∧/∨)を押して温度を調節する。
3. 停止するときは、**ON/OFF** を押す。

※オートエアコンの使いかた

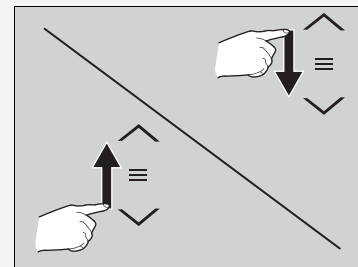
オート(AUTO)で使用中いずれかのアイコンを押すと、そのアイコンの機能が優先されます。このとき**AUTO**の表示灯は消灯しますが、選択したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO**を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

温度調節アイコンやファンスピード切り換えアイコン部分を指でスライドさせると、調節できます。



■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて 、 を押して、内気 / 外気を切り換えます。

-  内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
-  外気(表示灯点灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に  を押すと、除湿暖房となります。

※オートエアコンの使いかた

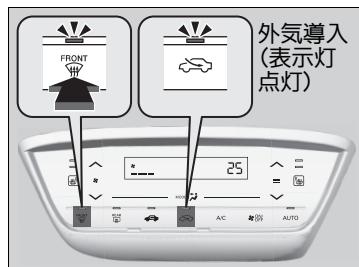
 を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

アイドリングストップ中は冷暖房機能が停止し、送風機能のみが作動します。

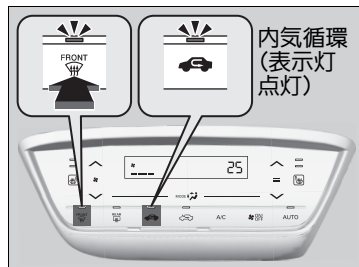
冷暖房機能を停止させたくないときは、 を押してアイドリングストップ機能を OFF にしてください。

急な上り坂などでは、走行性能を優先させるため、エアコンが作動しないことがあります。

前面・側面ガラスの曇り止め（デフロスター）の使いかた



外気導入
(表示灯
点灯)



内気循環
(表示灯
点灯)

FRONT を押しとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONT をもう一度押しと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。

■急速に霜を取りたいとき

1. **FRONT** を押す。
2.  を押す。

前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。

冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

アイドリングストップ中に**FRONT**を押すと、エンジンが自動的に再始動します。

■ プラズマクラスター



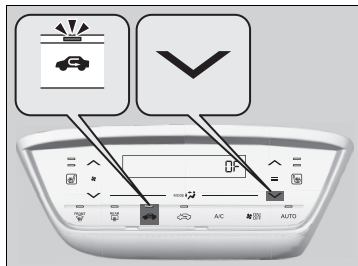
エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

▶▶ プラズマクラスター

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

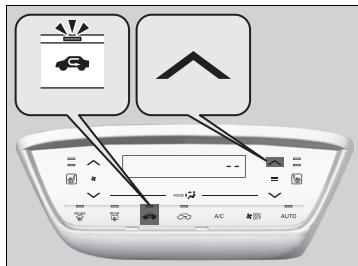
■ タッチパネル操作音の ON と OFF

エアコンのタッチパネルを操作すると、確認のため音が鳴ります。この音を OFF にしたい場合は、下記の手順で設定してください。



1. パワーモードを ON モードにする。
2.  を押したまま、温度下方調節アイコン(∨)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「-」が 5 回点滅した後、「OFF」が表示されたことを確認してから  を離す。

OFF から ON に戻す場合は、下記の手順で設定してください。



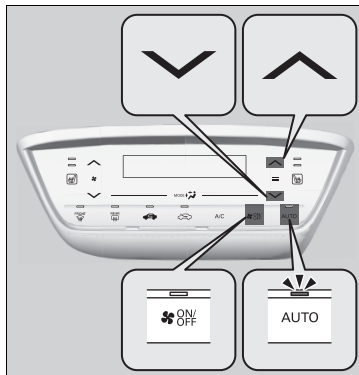
1. パワーモードを ON モードにする。
2.  を押したまま、温度上方調節アイコン(∧)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「OFF」が 5 回点滅した後、「-」が表示されたことを確認してから  を離す。

■ タッチパネル操作音の ON と OFF

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

■タッチパネル感度の設定

エアコンのタッチパネルの感度を、高め、普通、低めに設定することができます。



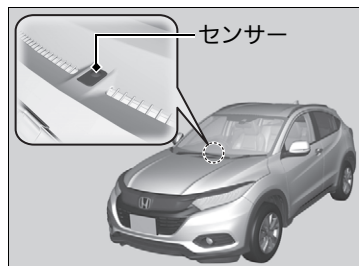
1. パワーモードを ON モードにする。
2. **AUTO** アイコンを押したまま、変更したい設定のアイコンを 5 回連続で押す。
 - 温度上方調節アイコン(↑)：高め※にしたいとき
▶ 表示部分が点滅し、設定が変更されると「Hi」が表示されます。
 - **ON/OFF**：普通にしたいとき
▶ 表示部分が点滅し、設定が変更されると「-」が表示されます。
 - 温度下方調節アイコン(↓)：低めにしたいとき
▶ 表示部分が点滅し、設定が変更されると「Lo」が表示されます。
3. **AUTO** アイコンを離す。

■タッチパネル感度の設定

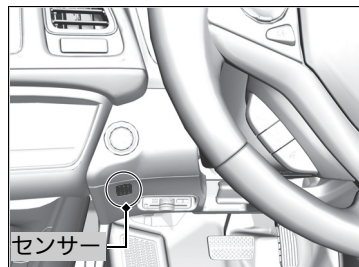
設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

※：工場出荷時の設定

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ

この章では、オーディオに関する情報を記載しています。

オーディオ装置* 193

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。



運転の前に.....	195
------------	-----

運転操作

エンジンの始動.....	197
走行時の注意点.....	200
無段変速オートマチックについて.....	203
シフト操作.....	204, 208
ECON スイッチ.....	210
アイドリングストップシステム.....	211
VSA(ビークルスタビリティアシスト) ..	216
アジャイルハンドリングアシスト*.....	218
REAL TIME AWD(オールホイールドライビング) システム*.....	219

ホンダセンシング.....	220
---------------	-----

衝突軽減ブレーキ (CMBS).....	221
誤発進抑制機能.....	228
歩行者事故低減ステアリング.....	230
ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール).....	237
LKAS(車線維持支援システム).....	250
路外逸脱抑制機能.....	260
先行車発進お知らせ機能.....	266
標識認識機能.....	270
フロントセンサーカメラ.....	277
レーダーセンサー.....	279

ブレーキ操作

ブレーキシステム.....	280
ABS(アンチロックブレーキシステム) ..	285
電子制御ブレーキアシスト.....	286
エマージェンシーストップシグナル ..	287

駐停車操作

駐車する.....	288
-----------	-----

リヤワイドカメラシステム*

給油

指定燃料について.....	291
給油のしかた.....	291

ターボ車について*

取り扱い.....	294
-----------	-----

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
 - 氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
 - **タイヤの点検と整備** P.320
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？

※車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後には、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

※車内での確認項目

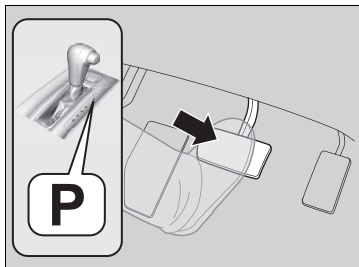
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
🔲 **シートの調節** P.160
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
🔲 **ミラー類の調節** P.155
🔲 **ハンドルの調節** P.154
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
🔲 **シートベルトの着用** P.30
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが確実に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
🔲 **車内での施錠 / 解錠** P.128
- エンジンのかけたとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
🔲 **警告灯** P.61

エンジンの始動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
▶ パーキングブレーキがかかっていると、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が約 15 秒間点灯します。
2. セレクトレバーが **P** であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
▶ **N** でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される **P** で行ってください。

❖エンジンの始動

⚠ 警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

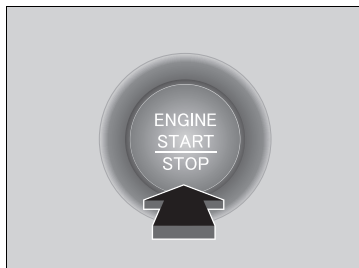
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリを OFF にしてから行います。

寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリをすべて OFF にしてから行ってください。



3. アクセルペダルを踏まずに、
ENGINE START/STOP を押す。

■ エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. セレクトレバーを **P** にする。
2. **ENGINE START/STOP** を押す。

❖ エンジンの始動

エンジンがかからない場合は、30 秒以上待つ
てから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気
ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃
料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシス
テムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでない
とエンジンの始動ができません。

❖ イモビライザーシステム P.134

ENGINE START/STOP はエンジンが始動する
まで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、
キーで **ENGINE START/STOP** に触れてくださ
い。

❖ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.352

発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを **[D]** にする。
▶ 後退する場合は **[R]** にします。
2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
■ 電子制御パーキングブレーキ P.280

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

❖発進時の操作



注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。

下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

❖ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを **[N] にしないでください。**

エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

下り坂を利用した移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

※雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

☒その他の注意点



注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

無段変速オートマチックについて

■ クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■ キックダウン

セレクトレバーが **D** **S** **L*** で走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

※ クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。

エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

※ キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。

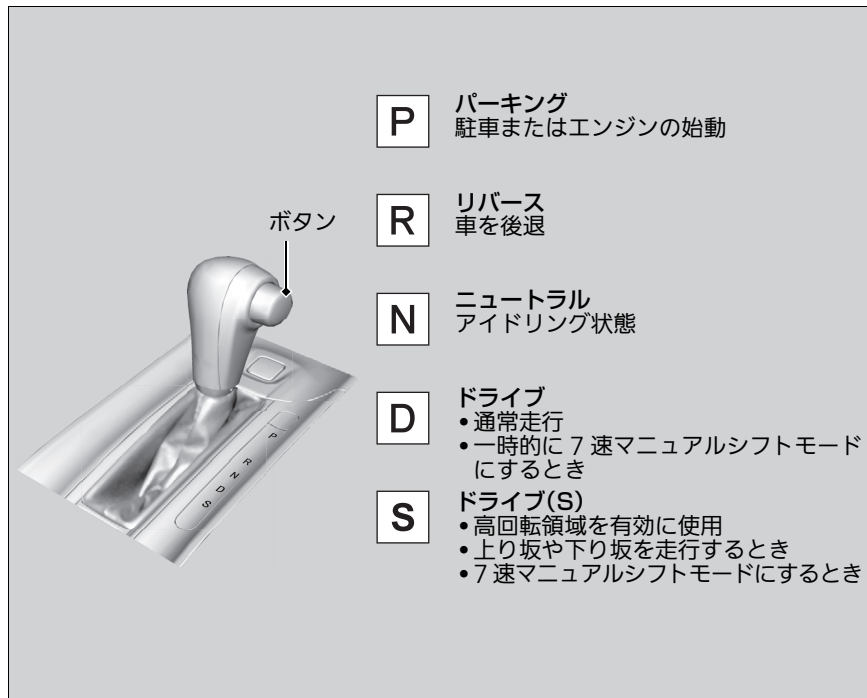
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

7 速マニュアルシフトモード装備車

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



※シフト操作

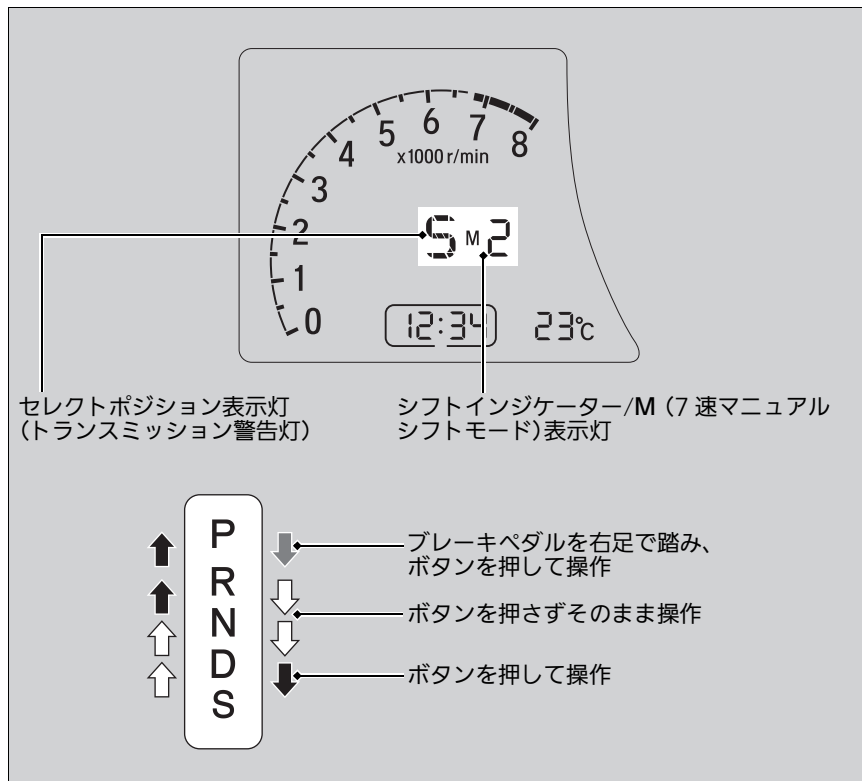
セレクトレバーが **P** 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが **R** に入っていることを知らせます。

N のときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



■セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い(マイナス30度以下)とき、セレクトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずセレクトポジションを確認してください。

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■セレクトポジションが[D]のとき

一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。

一定速走行や加速の状態になると、7 速マニュアルシフトモードは自動的に解除されます。また、**[+]**のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けることでも解除することができます。

カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■セレクトポジションが[S]のとき

7速マニュアルシフトモードとなり、**M**表示灯とシフトインジケーターが点灯します。

シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると1速にシフトダウンします。

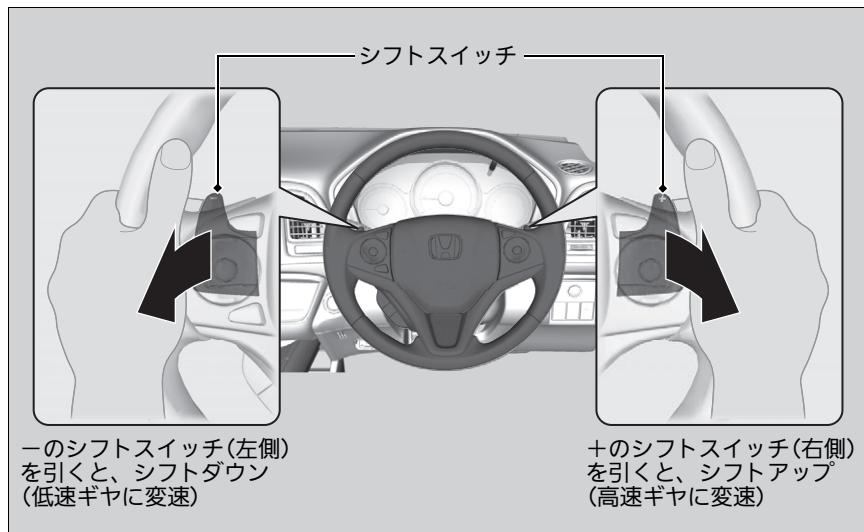
車速が上がリエンジン回転数が限界回転数(レッドゾーン)に近づくと、自動的に1段シフトアップします。

発進は1速でのみ行うことができます。

モードを解除する場合は、セレクトレバーを**[S]**から**[D]**に動かしてください。7速マニュアルシフトモードが解除され、**M**表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

1 回のシフトスイッチ操作で、ギヤは 1 段変速します。



■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

シフトスイッチを操作したとき、操作後のエンジン回転数が許容範囲外になる場合は、変速せず表示灯が点滅します。

エンジンを保護するために、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。

滑りやすい路面でシフトスイッチを操作したときに、タイヤがロックするような場合、7 速マニュアルシフトモードから通常走行に戻る場合があります。

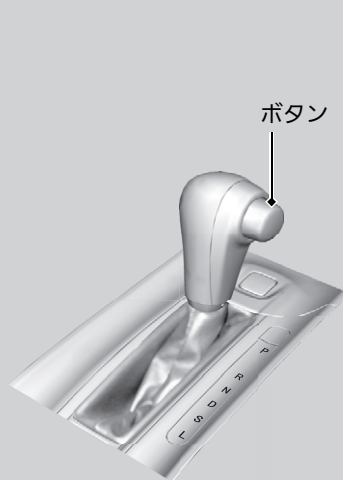
低速時にシフトスイッチを操作したとき、トランスミッションを保護するため、変速せずに表示灯が点滅することがあります。

7 速マニュアルシフトモード非装備車

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



- | | |
|----------|--|
| P | パーキング
駐車またはエンジンの始動 |
| R | リバース
車を後退 |
| N | ニュートラル
アイドリング状態 |
| D | ドライブ
通常走行 |
| S | ドライブ(S)
•高回転領域を有効に使用
•上り坂や下り坂を走行するとき |
| L | ロー
強いエンジンブレーキが必要なとき |

※シフト操作

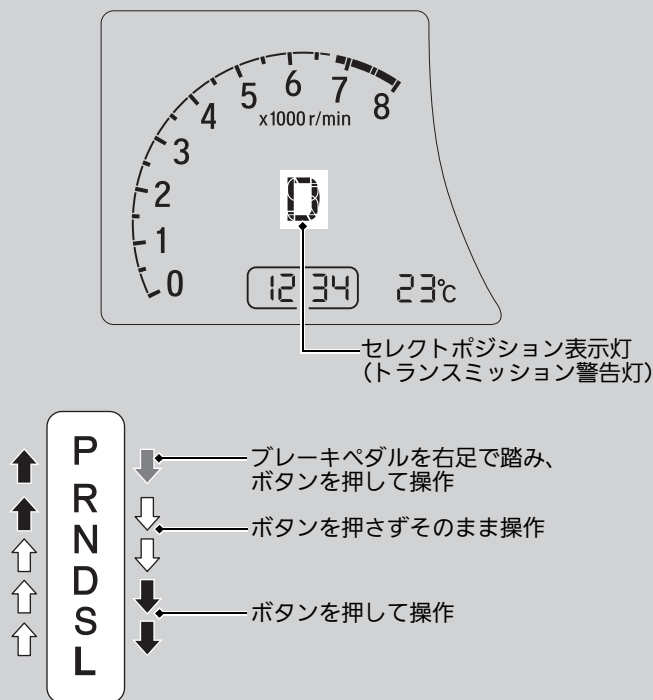
Rのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが**R**に入っていることを知らせます。

Nのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

セレクトレバーが**P**以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

■ セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



■ セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

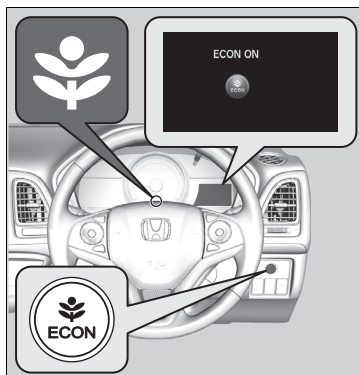
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い(マイナス30度以下)とき、セレクトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずセレクトポジションを確認してください。

ECON スイッチ



スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、オートエアコンの作動を制御して、省エネ運転をしやすいように制御します。

パワーモードがONモードのときにECONスイッチを押して、ECONモードのONとOFFを切り替えてください。

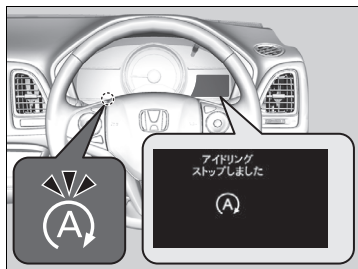
- ▶ ECONモードがONの時は、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

▶▶ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。



表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ状態のメッセージが表示されます。

🔍 警告灯 P.61

🔍 表示灯 P.71

🔍 カスタマイズ機能 P.97

🔍 アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。

指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は指定されたバッテリーを使用してください。

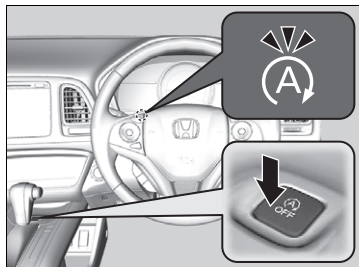
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

🔍 仕様 P.379

ECON スイッチを ON にしていると、エアコン使用中のアイドリングストップ時間が長くなります。

🔍 ECON スイッチ P.210

■アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止するには、を押してください。
メーター内のアイドリングストップシステムOFF表示灯(オレンジ)が点灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

前回の走行時に作動を停止した場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に作動可能状態になります。

▣アイドリングストップシステムの ON/OFF

アイドリングストップ中にを押すと、エンジンが再始動します。

■ アイドリングストップをする

停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。

■ アイドリングストップしない条件

- アイドリングストップシステム OFF スイッチを押してシステムを OFF にしたとき
- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
- セレクトレバーを **[D]** 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5℃ 以下のとき
- 外気温が -20℃ 以下または 40℃ 以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
-  が ON のとき

ターボ非装備車

- キャパシタ(短時間に大容量の電力の充放電ができる蓄電器)の状態が良好でないとき

※ アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。

ボンネットを開けたときは、セレクトレバーを **[P]** にして、**[ENGINE START/STOP]** でエンジンを再始動させてください。

▶ エンジンの始動 P.197

アイドリングストップ中に、

[ENGINE START/STOP] を押すとアクセサリモードになり自動で再始動しません。通常のエンジンの始動操作をしてください。

▶ エンジンの始動 P.197

■アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- エアコン風量が多いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高いとき

ターボ装備車

- 標高が高いとき

エンジンが自動的に再始動する

- ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。
- オートマチックブレーキホールドシステムがONで停止した場合はアクセルペダルを踏みます。

■ オートマチックブレーキホールド P.283

■ ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件※¹

- アイドリングストップシステム OFF スイッチを押してシステムを OFF にしたとき
- ハンドルを動かしたとき
- セレクトレバーを[R]、[L]*、[S]にしたとき、または[N]から[D]に操作したとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- を押したとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高くなったとき

発進補助ブレーキ機能

アイドリングストップからの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持し、坂道で車を下がりやすくします。

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

※ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件※¹

※1：オートマチックブレーキホールドによるブレーキ保持中は、アイドリングストップシステムが作動しているときにブレーキペダルを離すことができます。

ただし、オートマチックブレーキホールドシステムを OFF したとき、またはオートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したときにはエンジンが自動的に再始動しません。

■ オートマチックブレーキホールド P.283

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ■ P.285

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

■電子制御ブレーキアシスト P.286

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、**低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。**

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。

VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

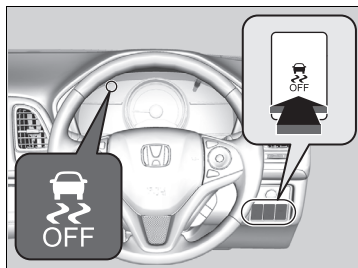
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止 (OFF) 状態にするには、 を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

再度使用 (ON) するには、 を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

※VSA (ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシスト*

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とするシステムです。

■アジャイルハンドリングアシスト*

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。

安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

アジャイルハンドリングアシストが作動中、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

REAL TIME AWD(オールホイールドライビング)システム*

AWD(オールホイールドライビング)システムは、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

※REAL TIME AWD(オールホイールドライビング)システム*

**種類やサイズの異なるタイヤが混在している
と、AWD が正常に機能しないことがあります。**

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類の
タイヤを指定空気圧で使用してください。

**AWD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシ
ステム内の油温が上がると、システム保護の
ためAWDから2WDに切り換わることがあり
ます。**

しばらくして油温が下がると、AWD に復帰し
ます。

フロントグリル内に設置されたレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置されたフロントセンサーカメラの、特性の異なる2種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ (CMBS) ➡ P.221
- 誤発進抑制機能 ➡ P.228
- 歩行者事故低減ステアリング ➡ P.230
- 路外逸脱抑制機能 ➡ P.260
- 先行車発進お知らせ機能 ➡ P.266
- 標識認識機能 ➡ P.270

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- ACC (アダプティブクルーズコントロール) ➡ P.237
- LKAS (車線維持支援システム) ➡ P.250

※ホンダセンシング



警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。

自動運転システムではありません。

あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。

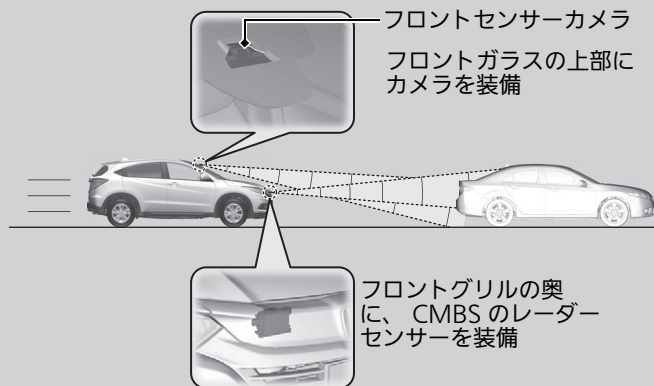
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけて走行してください。

衝突軽減ブレーキ (CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。さらに、約 30km/h ~ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が作動する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、システムは解除されます。

⚠ 衝突軽減ブレーキ (CMBS)



警告

衝突軽減ブレーキ (CMBS) は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

■ レーダーセンサー P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

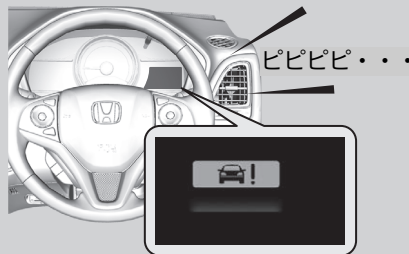
■ フロントセンサーカメラ P.277

フロントグリル周辺に強い衝撃を与えないようにしてください。

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーに加え、ステアリング振動による警告が発生します



CMBS の警報距離を Far・Normal・Near の 3 段階から選択することができます。

■ カスタマイズ機能 P.97

Far は Normal に対して遠くで警告します。Near は Normal に対して近くで警告します。

■ステアリング振動による警告について

対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

- ▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

■衝突軽減ブレーキ (CMBS)

EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。

■ EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯 P.66

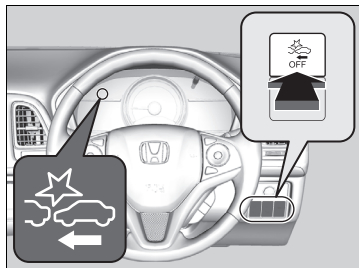
CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離	状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	ブレーキ
第1段階 	車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が2回点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 カスタマイズ機能 P.97	対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動が発生	—
第2段階 	衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	—	軽いブレーキ
第3段階 	回避が困難な状況			強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムのONとOFFを切り換えます。

CMBS がOFFに切り換わったときCMBS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにCMBS OFFとメッセージが表示されます。

CMBS をOFFにした状態でパワーモードをOFFにした場合でも、再度パワーモードをONにすると自動的にONになります。

※衝突軽減ブレーキ (CMBS)

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
 - パーキングブレーキをかけて走行したとき
 - 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
 - カメラの温度が高温になっているとき
 - フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
 - タイヤの異常を検出したとき
- CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときはCMBSをOFFにしてください。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シール等でカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 夜間やトンネル内等の暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

※衝突軽減ブレーキ (CMBS)

サスペンションの改造はしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物等によりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団になっているとき
- 暗がりでは前方の車両が無灯火のとき

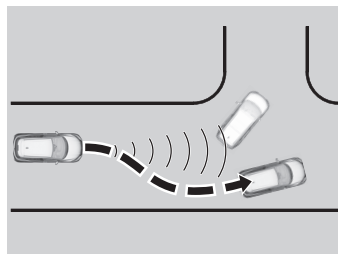
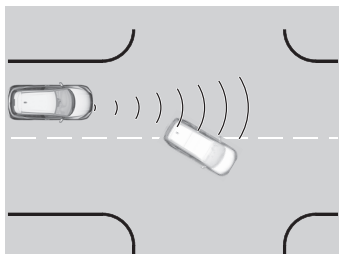
■その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

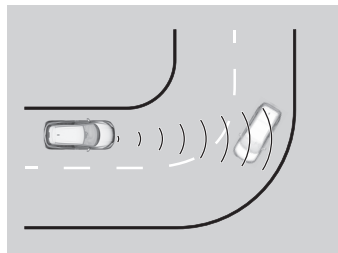
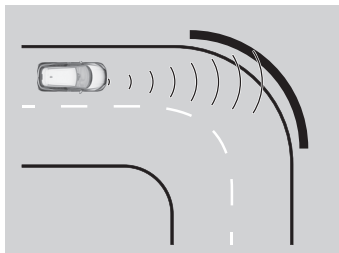
衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合



- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

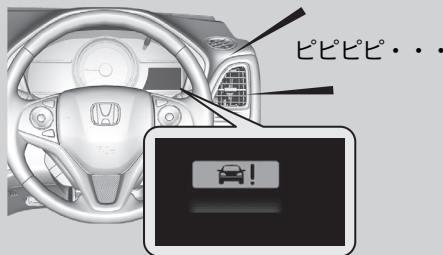
誤発進抑制機能

フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

なお、急な坂道やセレクトレバーが **P**、**R**、**N** のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー（ピピピ）がなり、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅すると同時に、アクセルペダルに元にもどそうとする力（断続的な反力）が発生します。



アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急な発進を防止
アクセルペダルの踏み込み量が
少ないときは作動しません。



アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキ
ペダルを踏んでください。

誤発進抑制機能



警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がセレクトレバーやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ レーダーセンサー P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ フロントセンサーカメラ P.277

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき
- CMBS を OFF にしたとき

❏誤発進抑制機能

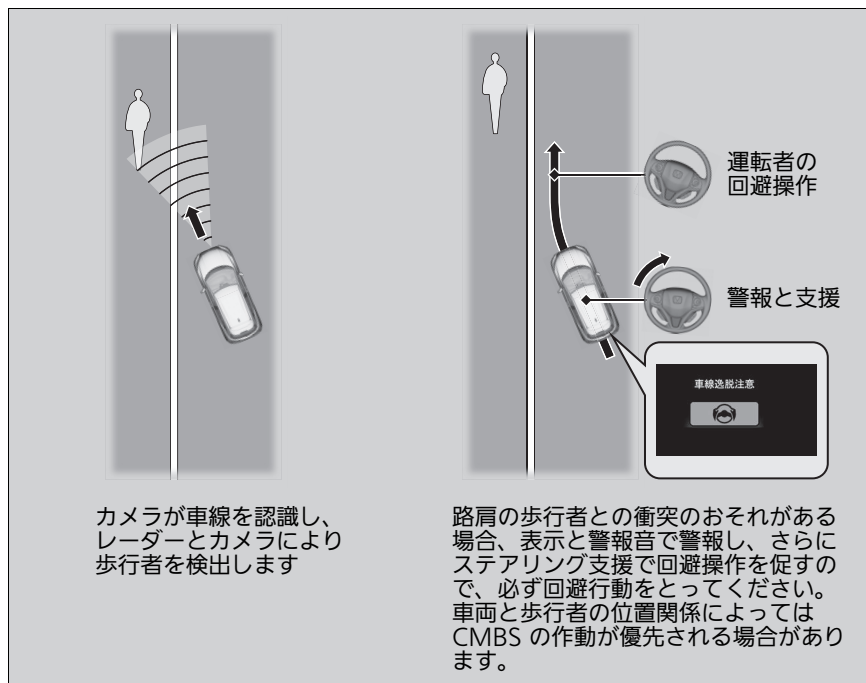
誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。その時は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのかけてください。

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



歩行者事故低減ステアリング

警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ レーダーセンサー P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ フロントセンサーカメラ P.277



繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限 P.233

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

■システムの作動条件

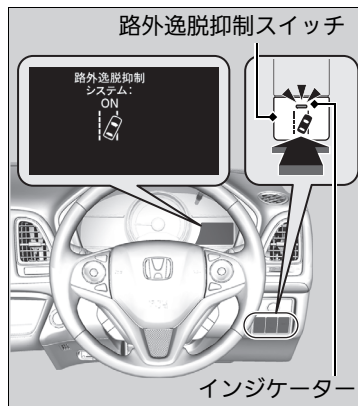
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

- ▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケータが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

■カスタマイズ機能 P.97

歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。

運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■ 自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■ 歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物等によりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

ACC は、フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

ACC を作動させるには：

ACC システムは、セレクトレバーが **[D]** **[S]** のときに使用することができます。

⚠ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)



警告

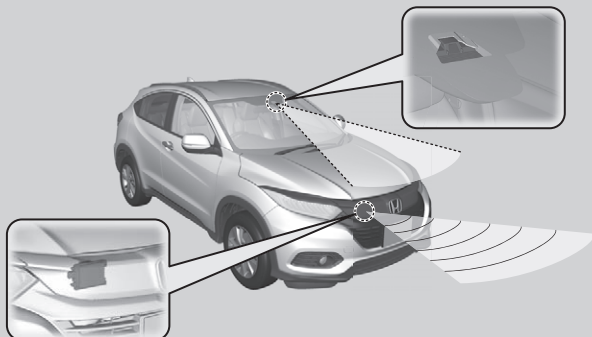
ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。

高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

■使用できるシフトポジション

D S のとき

フロントガラス上部にカメラを装備



フロントグリルの奥に、レーダーセンサーを装備

ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、ACC は作動しません。

悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

※ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

⚠警告

ACC は、補助システムとして使用してください。ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📺 フロントセンサーカメラ P.277

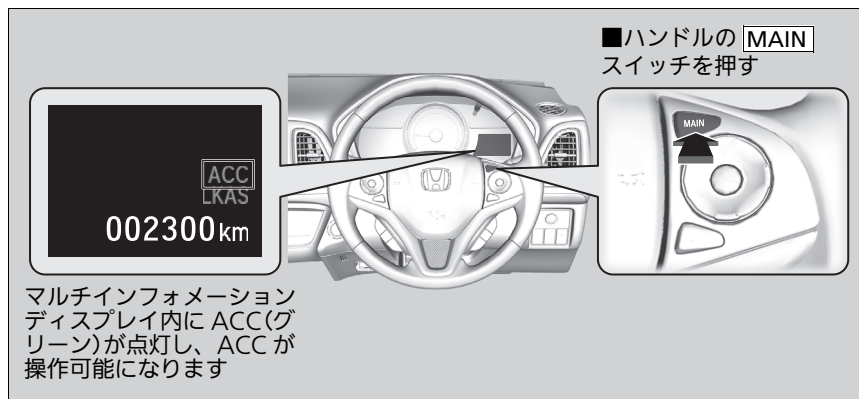
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

📺 レーダーセンサー P.279

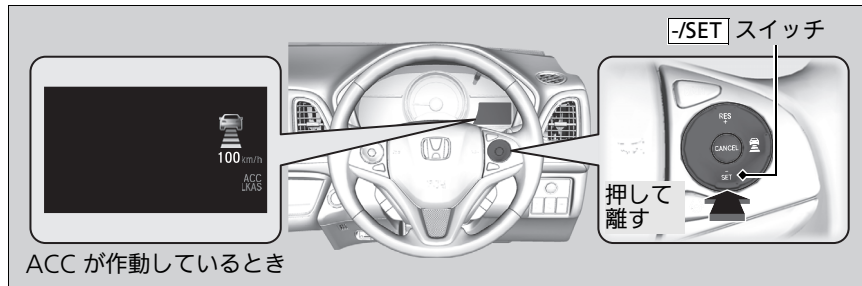
使用上の注意：

ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

■システムを作動させるには



車速をセットするには



車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに **-/SET** スイッチを押して離すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。



車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定した車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることでセットした車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

ACC の作動

■ 先行車がいるとき

ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。

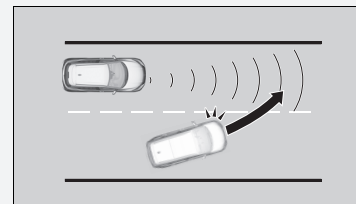


マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが表示されます

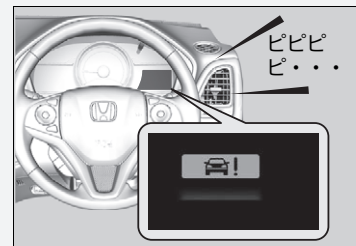
設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

マルチインフォメーションディスプレイを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

カスタマイズ機能 P.97

■先行車がないとき



マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが点線で表示されます。

先行車がない場合、設定した車速で定速走行します。

先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいっても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はできません。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

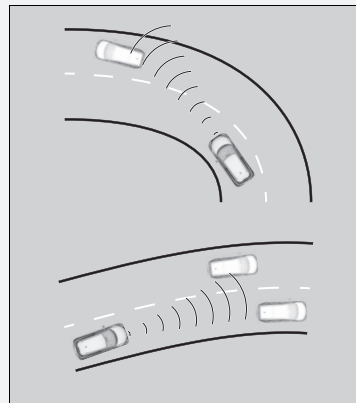
■ACC の作動

制限：

安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより ACC が適切に作動しないことがあります。

■ACC の条件と制限 P.243

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとんりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、ACC 警告灯が点灯する場合があります。
以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

📷 フロントセンサーカメラ P.277

■ 自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

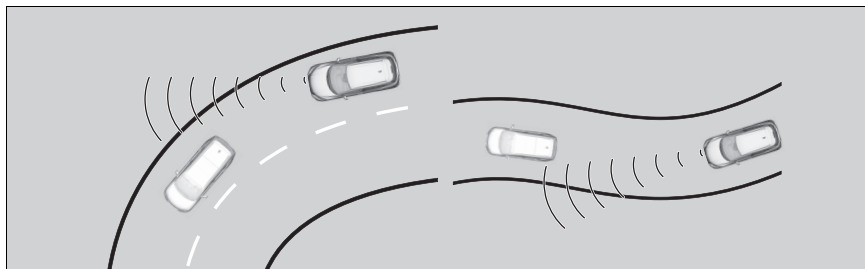
- フロントグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

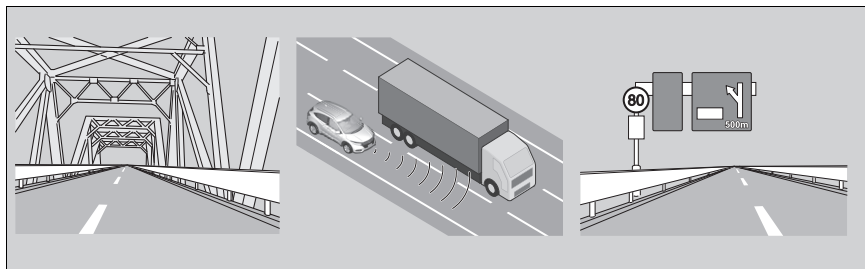
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の撒き上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

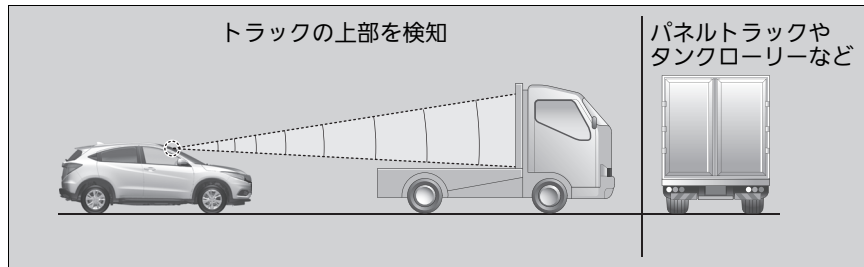


■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

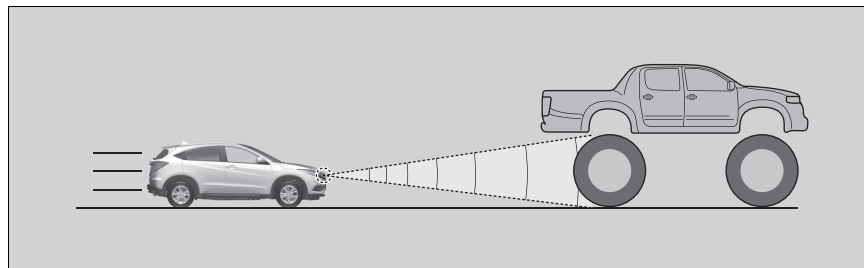
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき

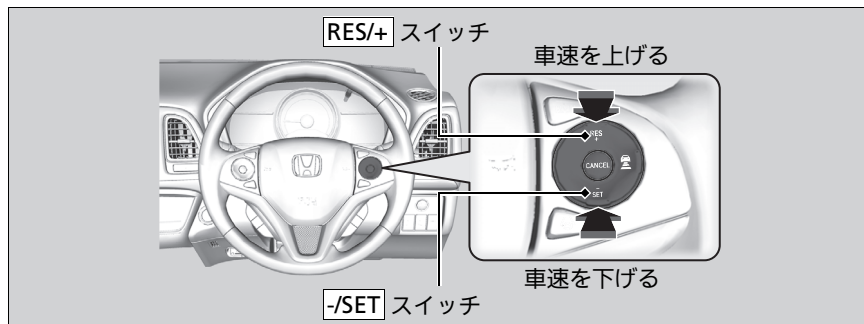


- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



■ 設定車速を調整するには

手元の **RES/+** スイッチと **-/SET** スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

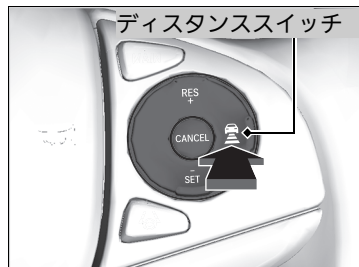
-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

⚠ 設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。

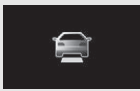
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。

ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。

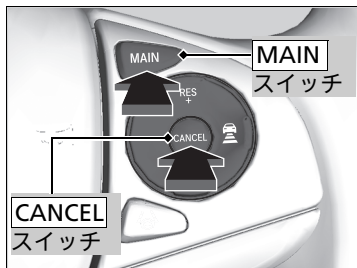
適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

解除するには



以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。

- **CANCEL** スイッチを押す
- **MAIN** スイッチを押す
 - ▶ マルチインフォメーションディスプレイ内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

■ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- フロントグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

❏解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

ACC を解除したあとも、**RES/+** スイッチを押すと解除前の設定で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

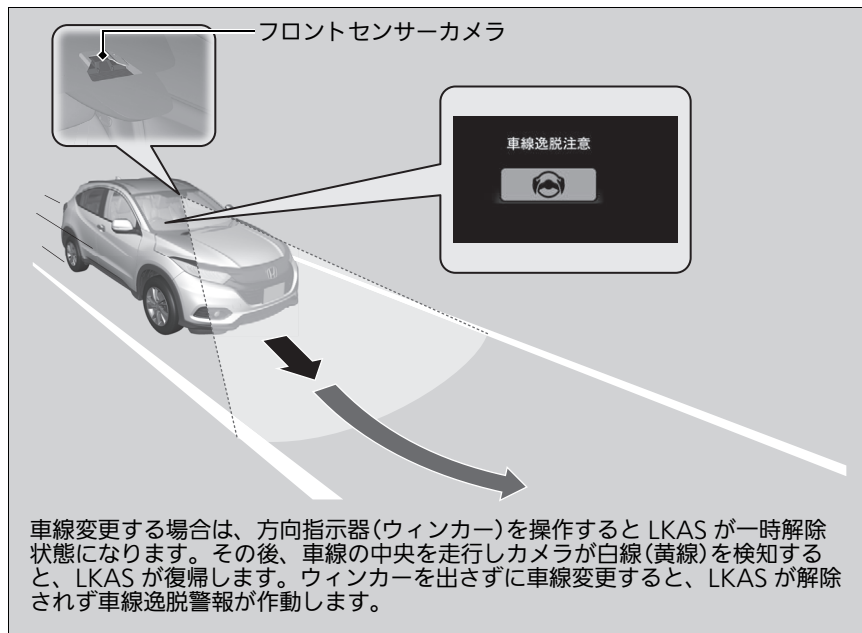
- **MAIN** スイッチを押して ACC を OFF した後
- 車速が 30km/h 未満のとき

設定速度の設定や復帰は、**MAIN** スイッチがオフの状態ではできません。

LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



※LKAS(車線維持支援システム)



警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

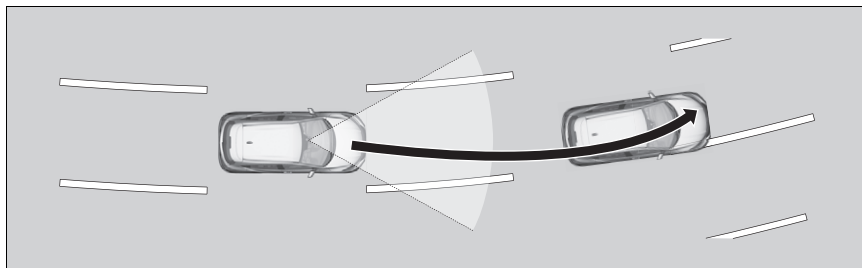
インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

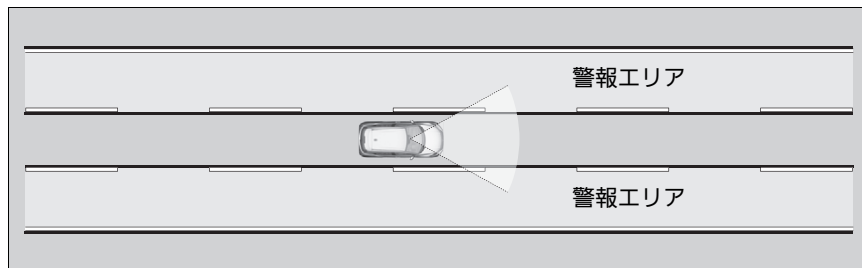
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線（黄線）に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



※LKAS（車線維持支援システム）

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ フロントセンサーカメラ P.277

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

▶ LKAS の条件と制限 P.257

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出していないとき

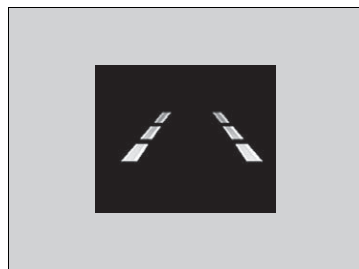
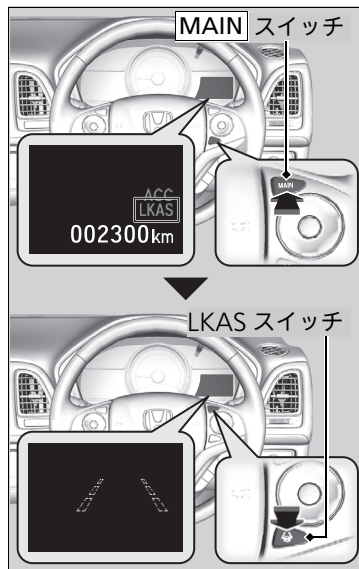
▣ LKAS を作動させるには

システムが作動しているときに、左右の白線(黄線)に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

▣ LKAS の条件と制限 P.257

■システムの作動方法



1. **MAIN** スイッチを押す

- ▶ LKASシステムがONになり、マルチインフォメーションディスプレイ内にLKAS 表示灯(グリーン)が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す

- ▶ LKASシステムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示(点線)が点灯します。

3. 車線の中央付近を走行する

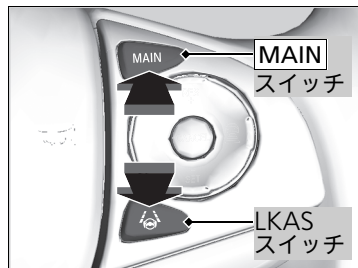
- ▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、LKAS が制御を開始します。

※LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

解除するには



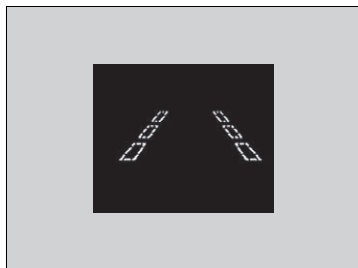
以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

- **MAIN** スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、パワーモードを OFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に ACC も解除されます。



■LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
 - ▶ ワイパーをOFFにすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
 - ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
 - ▶ 車速が60km/h以下になると、LKASは自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

オートワイパー装備車

- ワイパースイッチが AUTO のときにワイパーが連続作動した場合には、LKAS は自動解除されます。
ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。

㊦LKAS の一時解除

マルチインフォメーションディスプレイを使って自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

㊦ カスタマイズ機能 P.97

■LKAS が自動的に一時解除される時

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- 路外逸脱抑制機能が作動したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされる時

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線が表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき

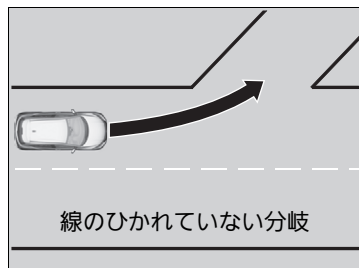


- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えていないとき

- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



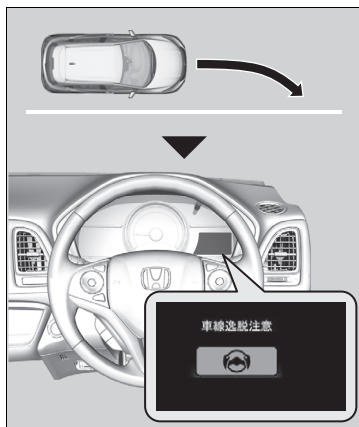
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄色線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

カスタマイズ機能 P.97

また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

路外逸脱抑制機能

警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱を検知した時に警告します。

車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントセンサーカメラ P.277



繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに路外逸脱抑制機能は復帰します。

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.263

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS(車線維持支援システム)を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。

カスタマイズ機能 P.97

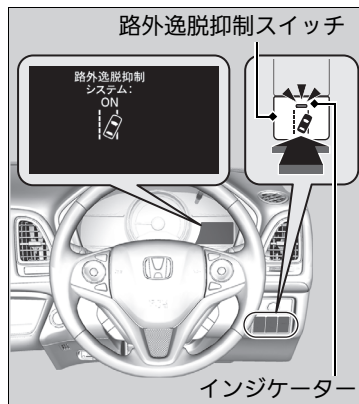


■ システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■ システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

- ▶ システムがONの時は、路外逸脱抑制スイッチのインジケータが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

☒ システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

☒ 警告灯 P.61

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行しているとき
- 車線幅が狭いとき

☒ システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使ってシステムの設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル及びブレーキ制御を行いません。

☒ カスタマイズ機能 P.97

路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

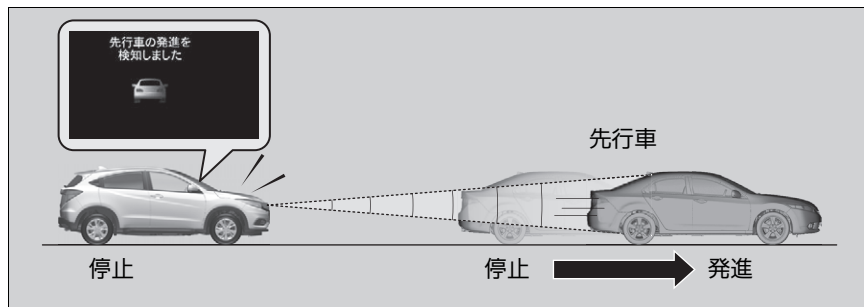
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■セレクトレバーが[D]、[S]の場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

⚠ 先行車発進お知らせ機能



先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能を OFF にすることができます。

❏ カスタマイズ機能 P.97

ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

❏ ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P.237

■セレクトレバーがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動しているまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

🔘 カスタマイズ機能 P.97

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。

早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

🔘 先行車発進お知らせ機能

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

🔘 レーダーセンサー P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

🔘 フロントセンサーカメラ P.277

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

表示される道路標識は以下の4つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■ 作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



⚠ 標識認識機能



警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するように設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

📺 フロントセンサーカメラ P.277

標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

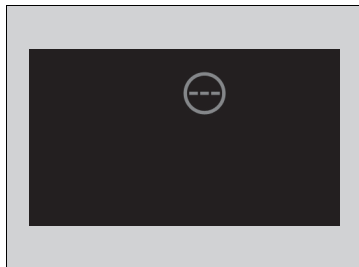
以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百～千数百 m)を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



標識認識機能

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラが高温です」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。窓ガラスが曇った場合、必要に応じて、デフロスターを使用してください
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、カメラ周辺の温度を下げてください

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません フロントウィンドウが汚れています」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後もメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

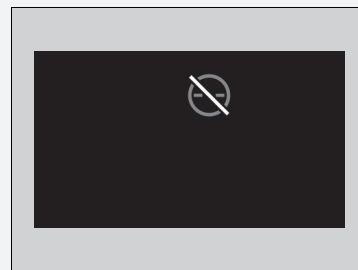
■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内等の暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイにが表示されます。

のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自転車から遠く離れた位置にある標識
- 自転車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。

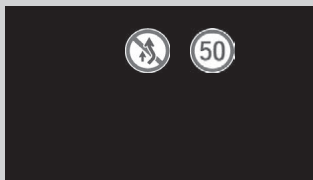
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終りなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

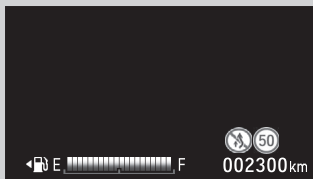
■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例



常駐表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

マルチインフォメーションディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。

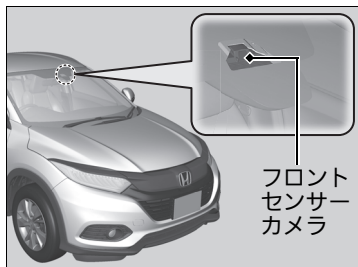
🔧 カスタマイズ機能 P.97

常駐表示モードの道路標識表示

常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。

フロントセンサーカメラ

ACC、LKAS(車線維持支援システム)、路外逸脱抑制機能、衝突軽減ブレーキ(CMBS)、誤発進抑制機能、歩行者事故低減ステアリング、先行車発進お知らせ機能、標識認識機能に使用するカメラを装備しています。



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

※フロントセンサーカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

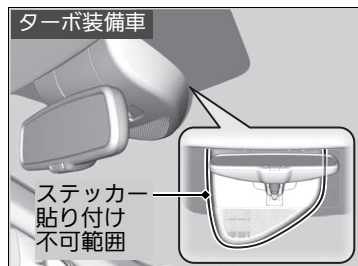
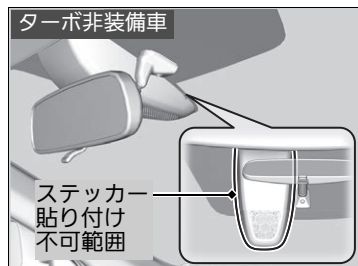
❏ 車内の清掃 P.330

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射してシステムが正常に作動しなくなる場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。次の場合はHonda 販売店にご相談ください。

- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。必要に応じてデフロスターを使用してください。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けしないでください。

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

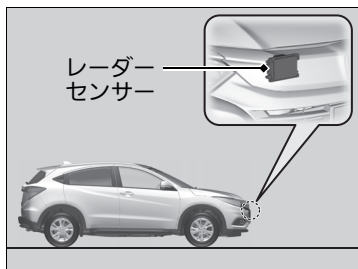
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません フロントウィンドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントグリル内に設置されています。

■レーダーセンサー

フロントグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントグリル周辺の修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ブレーキシステム

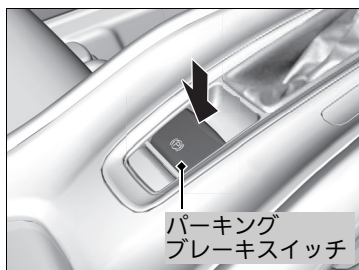
■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

- ▶ パーキングブレーキが作動すると、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が点灯します。

■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。

- ▶ パーキングブレーキが解除され、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯します。

※電子制御パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけたり、解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり、解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。

※ 12V バッテリーがあがったとき P.354

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

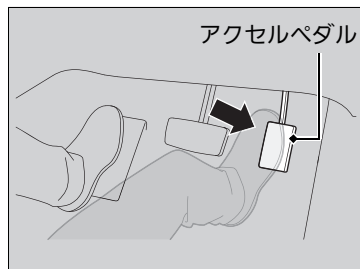
10分以上オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

- ▶ パーキングブレーキが解除され、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- エンジンがかかっているとき
- セレクトレバーが **P**、**N** 以外のとき

※電子制御パーキングブレーキ

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➡ 電子制御ブレーキアシスト P.286

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

➡ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.285

☒フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには

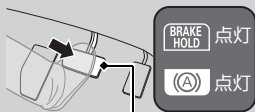


オートマチックブレーキ
ホールドスイッチ

シートベルトを着用し、パワーモードを ON モードにしてからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには

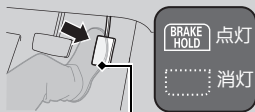


ブレーキペダル

セレクトレバーが **P** **R** 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

セレクトレバーが **P** **N** 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

⚠ オートマチックブレーキホールド

⚠ 警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はセレクトレバーを **P** にしてパーキングブレーキをかけてください。

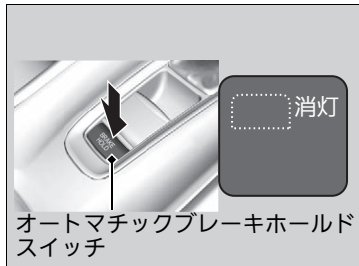
■ブレーキ保持機能が自動的に解除される時

- セレクトレバーが[P]もしくは[R]で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



機能が ON のときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

- ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中に OFF にしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

⚠️ オートマチックブレーキホールド



オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でエンジン停止が行えます。

▶ 駐停車操作 P.288

パワーモードを OFF にすると、システムは自動的に OFF になります。

自動洗濯機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

▶▶ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

**種類やサイズの異なるタイヤが混在している
と、ABS が正常に機能しないことがあります。**

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類の
タイヤを指定空気圧で使用してください。

**ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、シス
テムの異常が考えられます。**

通常のブレーキ操作には支障はありません
が、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてくださ
い。

**ABS は、制動距離を短くするためのものでは
ありません。**

ABS を装備していない車両と同様に、路面が
滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンド
ルの効きには限界がありますので、安全運転
に心がけてください。また、次のような場
合、ABS の装着されていない車両に比べ、制
動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェッ
クのためエンジンルームからモーター音が聞
こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

🔗 VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.216

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動の仕組み



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

※エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. セレクトレバーを **[P]** に入れる。
4. エンジンを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作



注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、セレクトレバーが **[P]** **[N]** 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で **[P]** **[N]** 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。

無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

▶▶ 駐車する

⚠ 注意

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに **P** に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。

輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リヤワイドカメラの取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

指定燃料について

■指定燃料

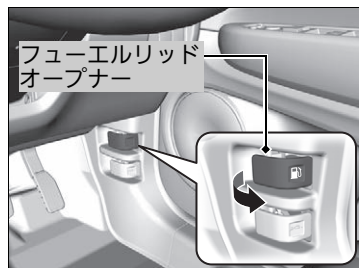
無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

ターボ非装備車 40 リットル

ターボ装備車 50 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジン进行停止させる。
3. 運転席足元のフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

☒指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

☒給油のしかた

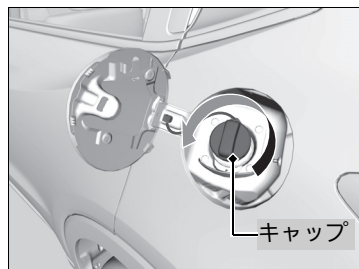
⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。

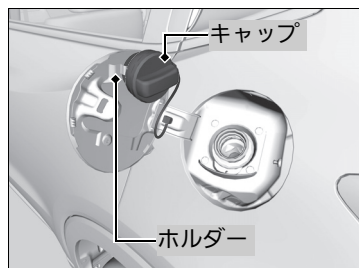
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

給油のしかた

警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。

▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた

⚠ 注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。

ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない

- エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る

タービンは毎分 10 万回転以上の高回転で回り、かつ 700 °C 以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

ターボ車について*

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。

❏ オイルモニターシステム* P.299

❏ 推奨エンジンオイル P.306

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動すると高水温警告灯が点滅または点灯することがありますが、機能的に問題はありません。

約 1 分間アイドリング運転を行うか、走行すると警告灯は消灯します。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に	
点検整備について	296
メンテナンスを安全に行うために	297
メンテナンスに関する注意事項	298
オイルモニターシステム*	
オイルモニターシステムの表示	299
エンジンルーム内のメンテナンス	
エンジンルーム内のメンテナンス項目	303
ボンネットを開ける	305
推奨エンジンオイル	306
ウィンドウォッシャー液の補給	308

電球の交換	309
ワイパーブレードラバーの点検と整備	316
タイヤの点検と整備	
タイヤの点検	320
タイヤとホイールの交換	322
タイヤのローテーション	323
冬期のタイヤ	325
Honda スマートキー	
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換	326
エアコンのお手入れ	
エアクリーンフィルター	328

清掃	
車内の清掃	330
車外の清掃	332
アクセサリーと改造	
アクセサリー	336
改造や部品交換について	336

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda販売店で点検を受けてください。点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Hondaが指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
▶ 指示されたとき以外は、エンジンをかけないでください。
▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

⚠ メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

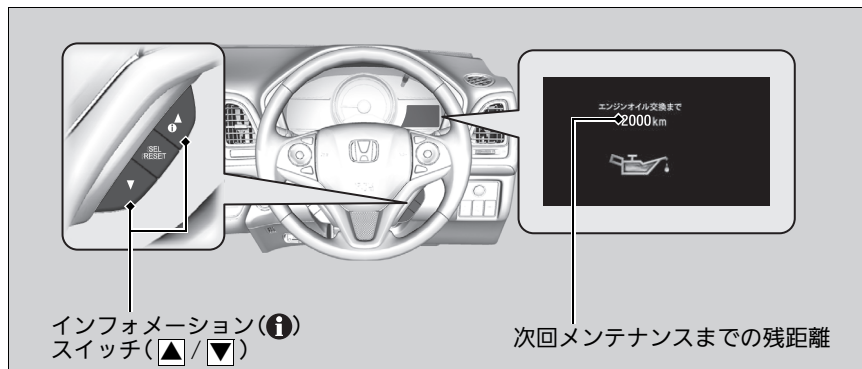
■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

オイルモニターシステム*

メンテナンスが必要な場合は、パワーモードをONモードにするたびにオイルモニターシステムのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。メッセージが表示されたときは、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルモニターシステムの表示



1. パワーモードをONモードにする。
2. マルチインフォメーションディスプレイにオイルメンテナンス画面が表示されるまで、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押す。

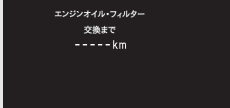
※オイルモニターシステムの表示

エンジンの運転状態とエンジンオイルの状態をもとに、次のメンテナンス時期までの残距離を計算しています。

走行条件によっては、表示された残距離より実際の走行距離は短くなる場合があります。

残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換から1年が経過していたら、メンテナンスを実施してください。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

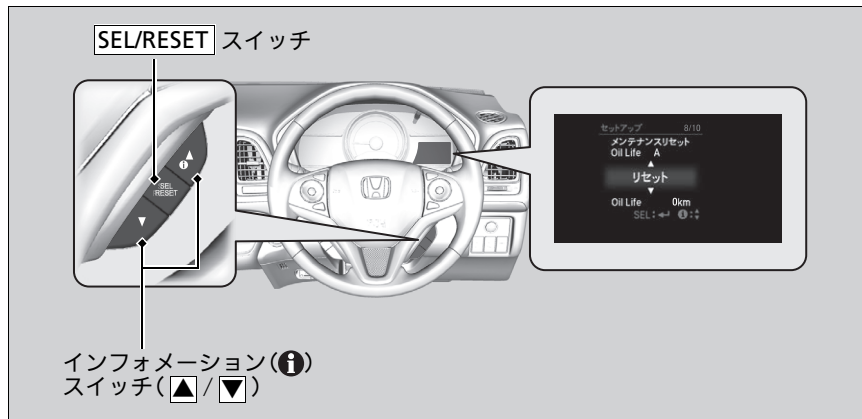
■ マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとオイルモニターシステム情報

メッセージ	オイルモニターシステム情報	情報
—	 	エンジンオイル交換後、リセット操作を行うと表示されます。走行状態に応じた適切な走行距離が計算されるまで継続します。
	 	メンテナンス時期までの走行距離が表示されます。
 	 	メンテナンス時期が近くなっています。

メッセージ	オイルモニターシステム情報	情報
エンジンオイルを交換してください  エンジンオイル・フィルターを交換してください 	エンジンオイル交換まで 0 km  エンジンオイル・フィルター交換まで 0 km 	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
エンジンオイル交換時期を過ぎています  エンジンオイル・フィルター交換時期を過ぎています 	エンジンオイル交換まで -10 km  エンジンオイル・フィルター交換まで -10 km 	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルモニターシステムをリセットしてください。

■リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルモニターシステムの表示をリセットします。



1. パワーモードを ON モードにする。
2. カスタマイズ機能の中から「メンテナンスリセット」を選択する。
■ カスタマイズ機能 P.97
3. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押して「リセット」を選択する。
4. リセットが選択された状態で **SEL/RESET** スイッチを押すとリセットされる。
5. マルチインフォメーションディスプレイにメンテナンスリセットが完了した文章が表示される。

※リセットのしかた

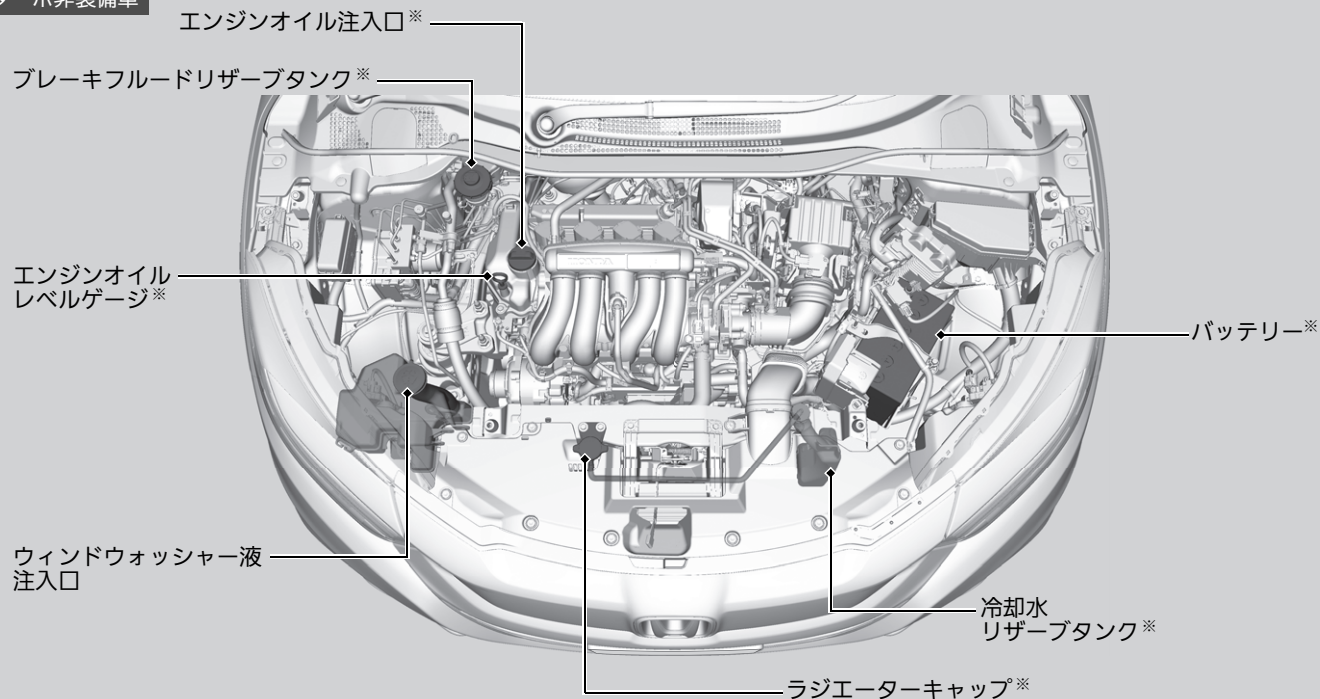
アドバイス

メンテナンス後にオイルモニターシステムをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目

ターボ非装備車



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ターボ装備車

ブレーキフルードリザーブタンク※

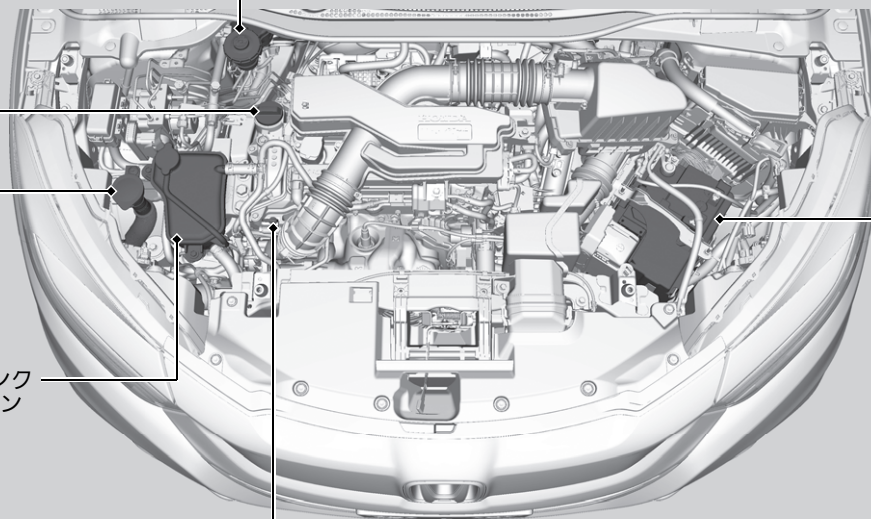
エンジンオイル
注入口※

ウィンドウォッ
シャー液注入口

エキスパンションタンク
キャップ※/エキスパ
ンションタンク※

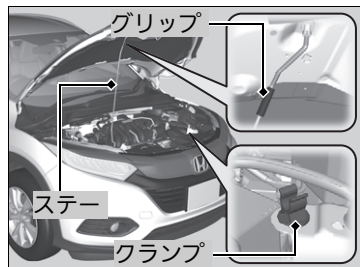
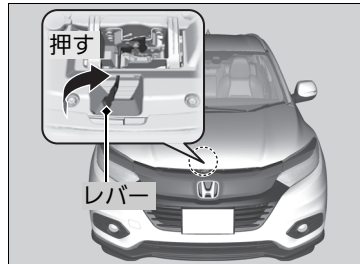
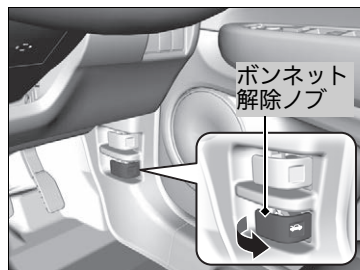
エンジンオイルレベルゲージ※

バッテリー※



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。

3. ボンネット中央のレバーを押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

※ボンネットを開ける



注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

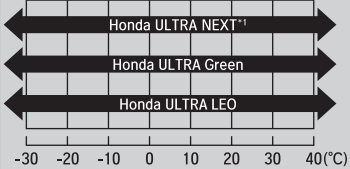
アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、種類と、(外気温に応じた)粘度について表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる可能性があります。

ターボ非装備車

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA NEXT*1 • Honda ULTRA Green • Honda ULTRA LEO	API SM 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイ サーティフィケーション)マークの 入ったエンジンオイル
 外気温	 外気温

※推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。

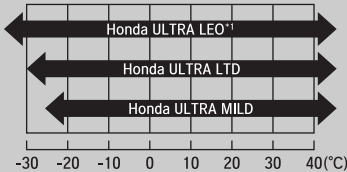
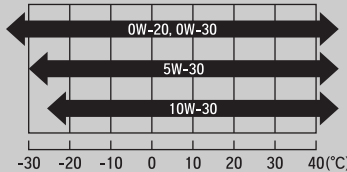
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークは下記のとおりです。



*1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

ターボ装備車

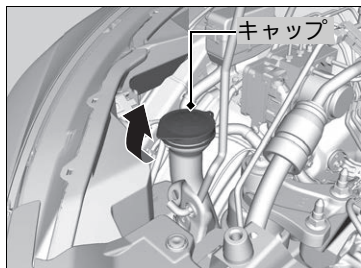
純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO*1 • Honda ULTRA LTD • Honda ULTRA MILD	API SM 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイ サーティフィケーション)マークの 入ったエンジンオイル
 外気温	 外気温

*1：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

ウィンドウォッシャー液の補給

ターボ非装備車

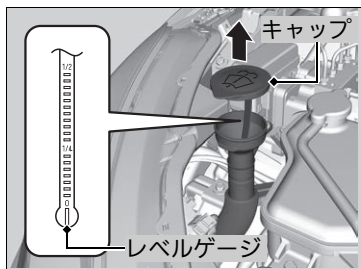
ウォッシャー液の量は、キャップを外して確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ターボ装備車

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

※ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

ウォッシャー液は必要に応じて水（軟水）で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ヘッドライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

アクセサリライト / 車幅灯電球

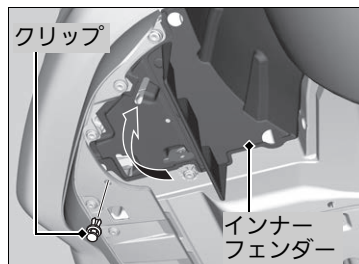
アクセサリライト / 車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

フォグライト電球*

電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

フォグライト：12V-35W

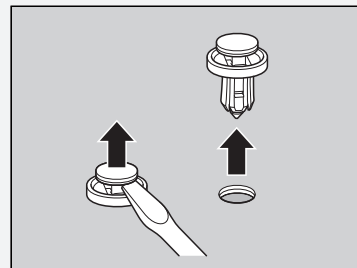


1. クリップを外し、インナーフェンダーを上へ押し込む。

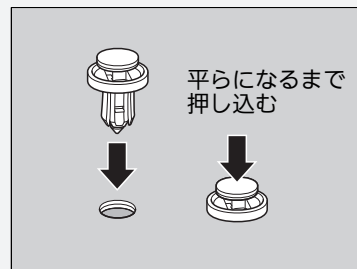
※フォグライト電球*

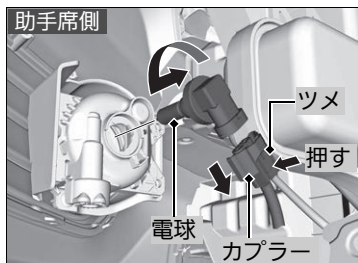
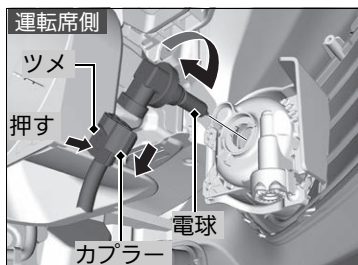
電球タイプ

クリップを外すときは、マイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。





LED タイプ

フォグライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

2. カプラーを外す。

▶ カプラーはツメを押しながら外します。

3. 古い電球を回して抜き取る。

4. 新しい電球を回して固定する。

5. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

※フォグライト電球*

電球タイプ

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱いときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

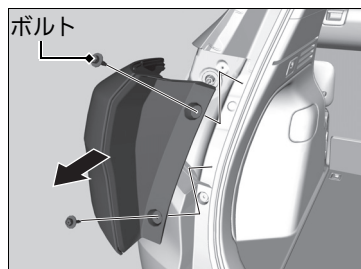
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

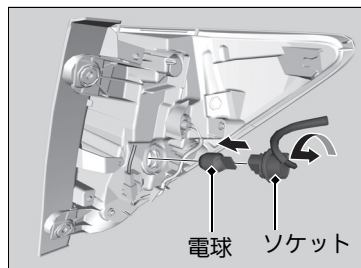
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 : 12V-21W(橙色)



1. ボルトを外す。
2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

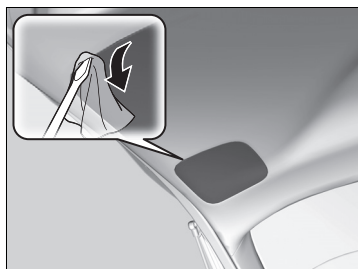
尾灯電球*

尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

後退灯電球

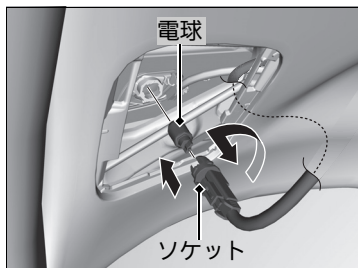
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯 : 12V-16W



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。

▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

■ マップランプ電球

マップランプはLED を使用しています。
点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

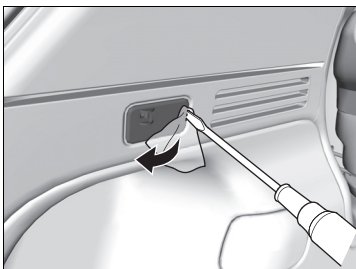
■ 室内灯電球

室内灯は LED を使用しています。
点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

■ カーゴスペース照明灯電球

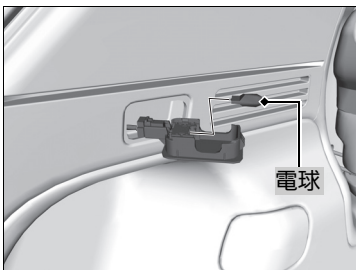
下記の電球をご使用ください。

カーゴスペース照明灯：12V-5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



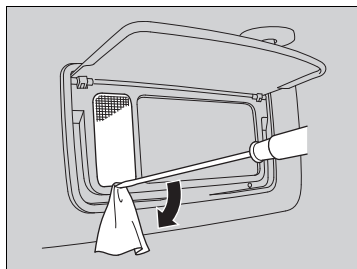
2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

■ バニティミラー照明灯電球*

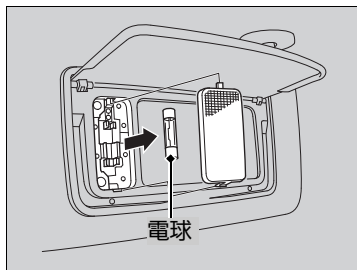
下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：12V-2W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。

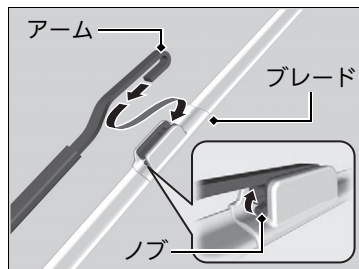
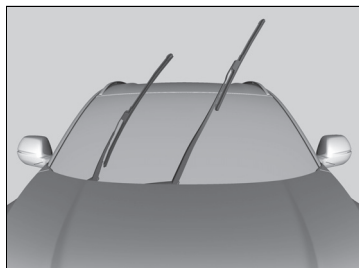
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検と整備

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。

2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

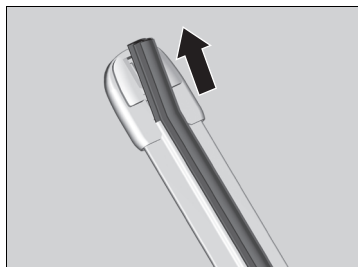
※フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

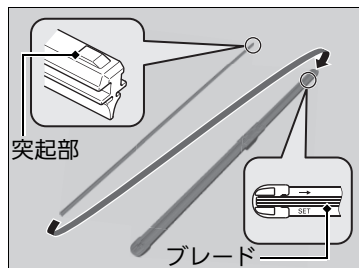
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

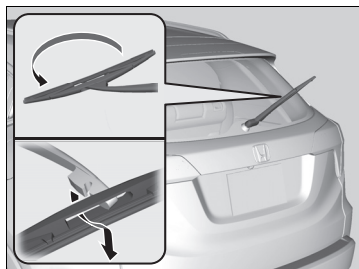


3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

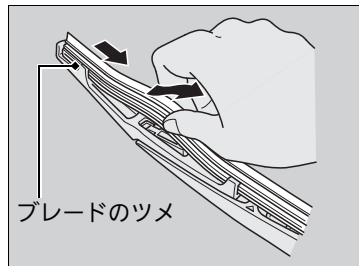


4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。
5. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

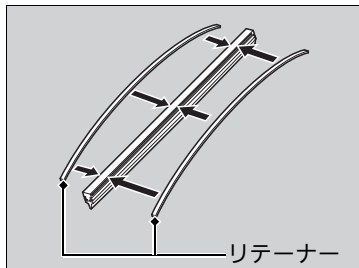
リヤワイパーブレードラバーの交換



1. ワイパーアームを起こす。
2. ワイパーブレードの底部を回転させ、アームから取り外す。



3. ラバーを引いて先端部をブレードのツメから外す。
4. ラバーをブレードから引き抜く。

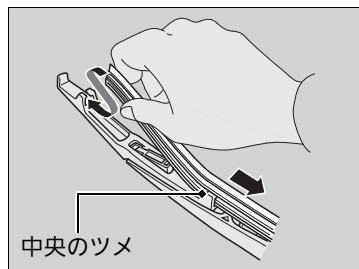


5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。

リヤワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



6. ブレード中央部のツメからラバーを挿入し、ブレード両端のツメにラバーを通す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
 - ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
 - ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

※タイヤの点検について



警告

**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってある
ラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベル
をご覧ください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

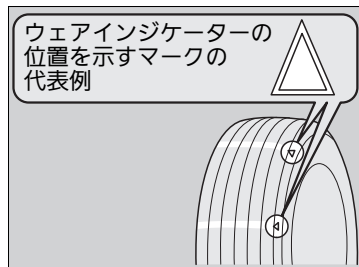
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

❏ 資料 P.380

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

❏ タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換



警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

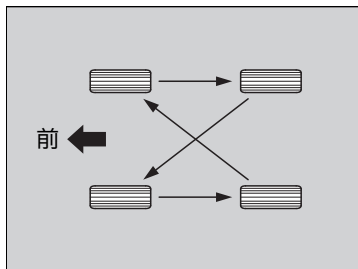
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。

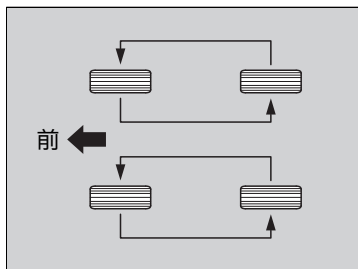
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合

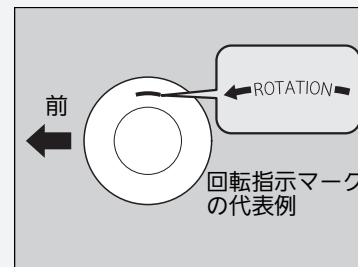


図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、**タイヤ回転指示マーク**があります。

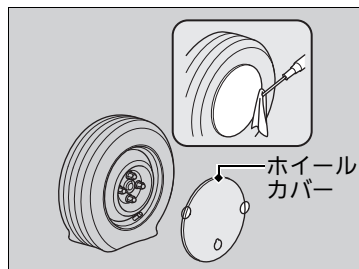
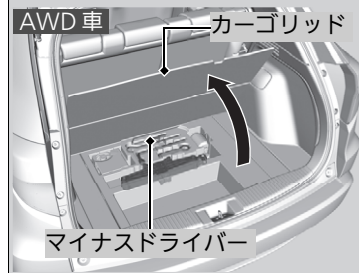
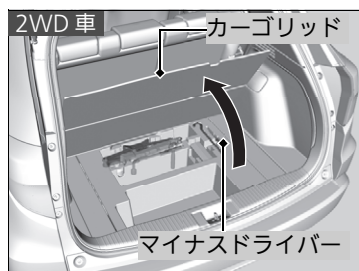
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク

108 N・m (11 kgf・m)

■ホイールカバー*の脱着方法



1. カーゴリッドを開けて、マイナスドライバーを取り出す。

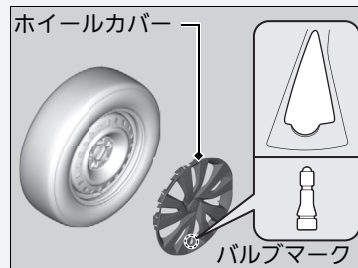
2. ホイールカバーの端にマイナスドライバーの先端を差し込み、タイヤ側にこじって取り外す。
 - ▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。
 - ▶ 場所を変えて2カ所繰り返すと外れやすくなります。

※ホイールカバー*の脱着方法



注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをさまないように十分注意する。



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：

- ・ 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- ・ 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：

- ・ Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- ・ タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ・ ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ・ ゆっくり走行する

225/50R18 タイヤ装備車

225/50R18 タイヤには、タイヤチェーンは装着できません。

チェーンを装着しなければならない場合は、四輪すべてをオプションの 215/55R17 タイヤに交換し、前輪にタイヤチェーンを装着してください。

タイヤチェーンを装着する場合は、上記タイヤチェーンのポイントを参照してください。

❖冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは、2WD 車、AWD 車ともに前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

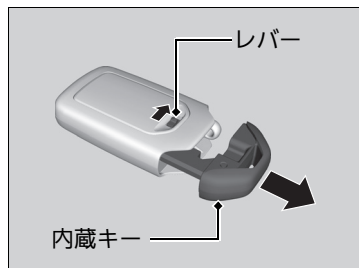
- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

※ 取り扱いについて

**Honda スマートキーをなくした場合は、
Honda 販売店へご連絡ください。**

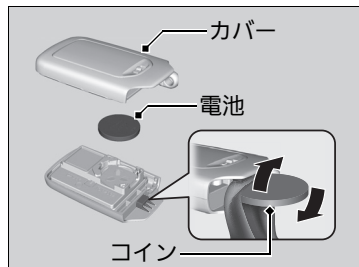
電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

電池交換のしかた



警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。

重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店で交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

エアークリーンフィルター

■エアークリーンフィルターの交換時期

エアークリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。

粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

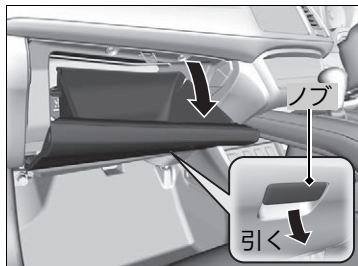
■エアークリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

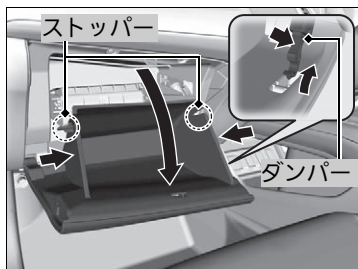
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉、粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

■ エアクリーンフィルターの交換

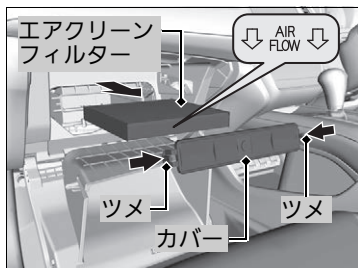


1. グローブボックスを開ける。



2. ダンパーを外す。

3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



4. 左右にあるツメを押しながら、カバーを外す。

5. エアクリーンフィルターを取り出す。

6. 新品と交換する。

▶ 「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。
ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

❏車内の清掃

室内に水をかけないでください。

室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

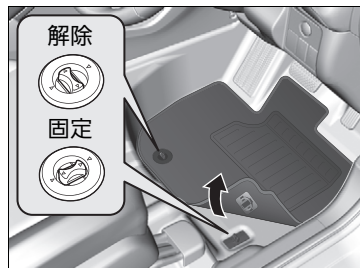
■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ スーパーUV カット / IR カットドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー（ドアガラス）の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

■ フロアマット*



運転席フロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

掃除のときなどにフロアマットを外すときは、フロアアンカーのノブを解除の位置に回します。取り付けるときは、ノブを固定の位置に回します。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

■ 本革のお手入れ*

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。

ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまふことがあります。

汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※ ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。

傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

UV カット膜や IR カット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

フロントセンサーカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

※ フロントセンサーカメラ P.277

※ フロアマット*

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。

後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- オートワイパー装備車は、ワイパースイッチを OFF にする

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- エンジンルームには水をかけない

▶▶ 車外の清掃

故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。

故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

※ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

※バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラス* について

前席ウィンドー（ドアガラス）にははっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

■アルミホイール* のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。洗車後は、水が乾かないうちに拭き取ってください。

※ガラスのお手入れ

はっ水ガラス装備車

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取り等を行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

※アルミホイール* のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。

専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使わない。

変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇のと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水 droplet が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■親水ミラー* のお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
 - ▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗淨後、十分な水で洗い流してください。
3. 5 ～ 9 時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

※親水ミラー* のお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグ*の作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクタは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。

それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。

装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※アクセサリーと改造



警告

**不正改造は、法律に触れることはもちろん、
思わぬ事故につながる可能性があります。**
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思
わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可
能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車
に最も適した Honda 純正部品をお使いくださ
い。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

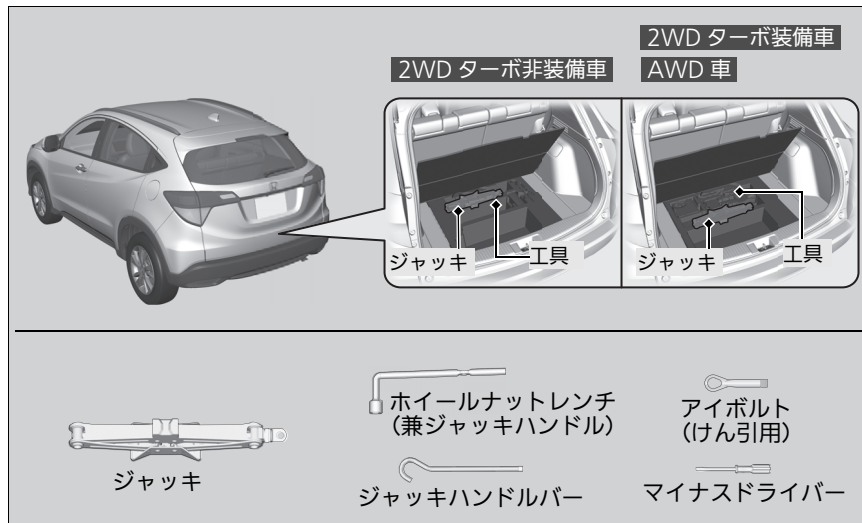
お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご
相談ください。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒	338	12V バッテリーがあがったとき	354
パンクしたとき		セレクトレバーが動かない	356
パンクしたタイヤの応急修理	339	オーバーヒート	357
ジャッキの取り扱い		警告灯の点灯 / 点滅	359
ジャッキのかけかた	349	ヒューズ	
エンジンが始動しない		ヒューズの設置場所	363
エンジン状態の確認	351	ヒューズの点検と交換	372
Honda スマートキーの電池が切れたとき	352	けん引	373
緊急時のエンジン停止方法	353	テールゲートが開かないとき	376

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

▶ 発炎筒 P.2

工具の種類

工具類はカーゴスペース内に収納されています。

発炎筒

警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

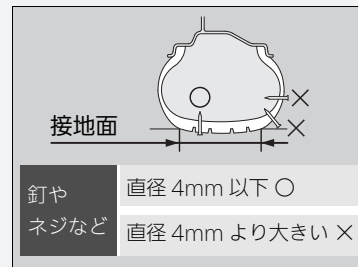
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. セレクトレバーを **[P]** に入れる。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

▶パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクするとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

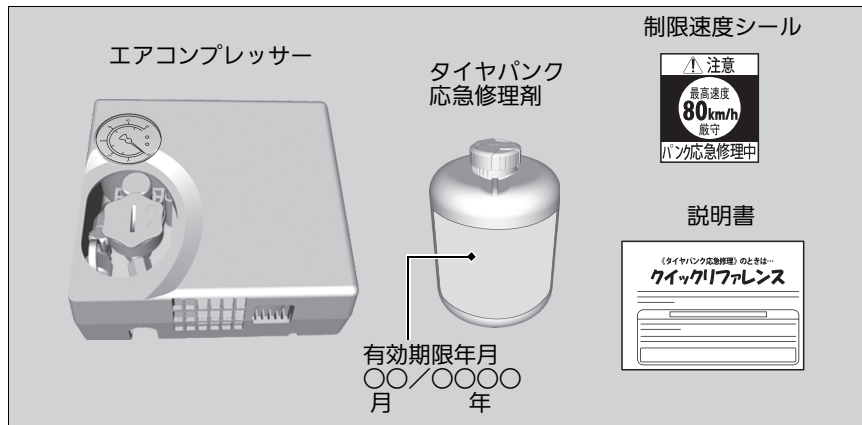


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

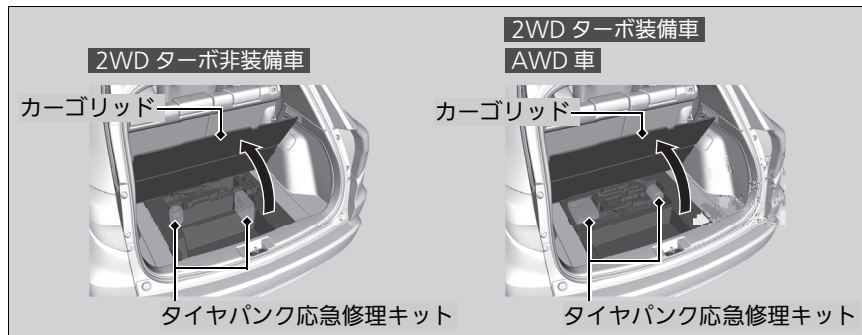
タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。

抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備



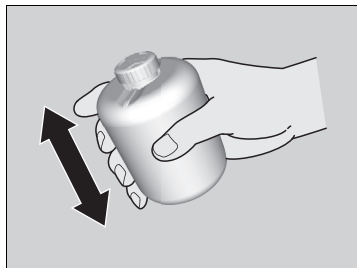
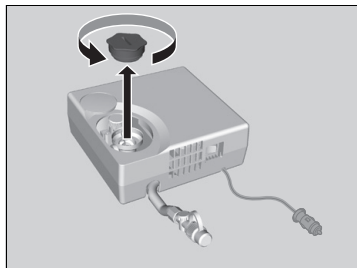
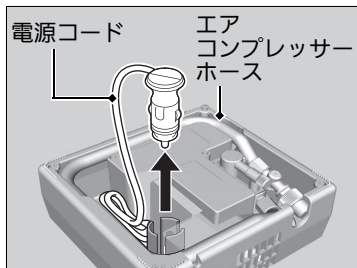
1. カーゴリッドをあけて、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
2. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。



☒タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

応急修理剤とエアの注入



1. エアコンプレッサーからエアコンプレッサーホースと電源コードを取り出す。

2. エアコンプレッサーキャップを外す。

3. 応急修理剤のボトルをよく振る。

応急修理剤とエアの注入



応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

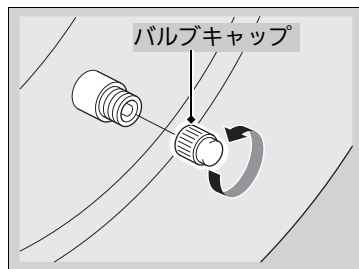
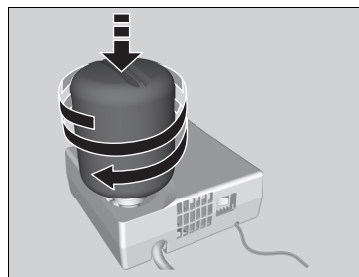
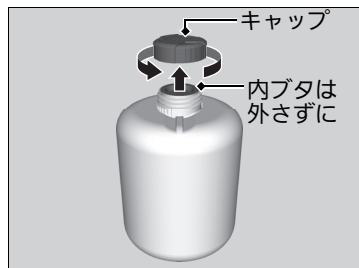
目に入ったり皮膚に付いた場合

- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



4. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。

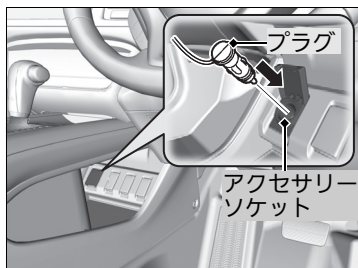
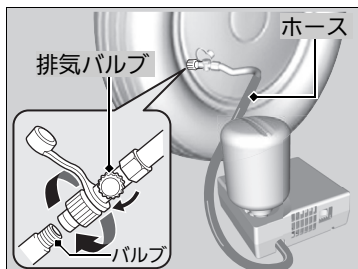
5. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルをエアコンプレッサーにねじ込む。
▶ ボトルがゆるまないようしっかりねじ込んでください。

6. バルブからバルブキャップを取り外す。

❏ 応急修理剤とエアの注入

注入が終わった空ボトルはエアコンプレッサーから取り外さないでください。

ボトルは取り外さずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。



7. エアコンプレッサーホースをバルブにねじ込む。

▶ 排気バルブが閉まっていること、エアコンプレッサースイッチがOFFであることを確認してください。

8. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

■ アクセサリソケット P.180

9. エンジンを開始する。

■ 一酸化炭素について P.59

■ 応急修理剤とエアの注入

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

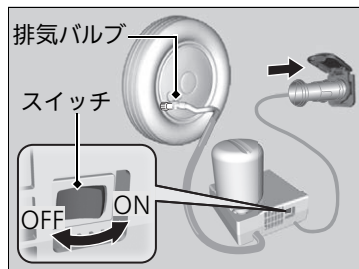
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。



10. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、空気圧を、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている空気圧まで高める。
11. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
 - ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
 - ▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
12. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットから外す。
13. エアコンプレッサーホースを取り外し、ホースキャップを取り付ける。
 - ▶ エアコンプレッサーホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
 - ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。
14. タイヤパンク応急修理キットをカーゴスペースに格納する。
 - ▶ ボトルはエアコンプレッサーから外さないでください。

※応急修理剤とエアの注入

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

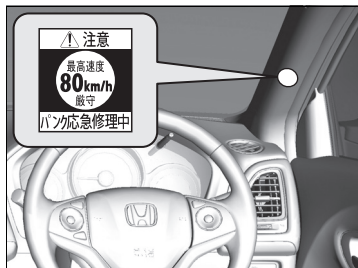
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。

点検走行

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

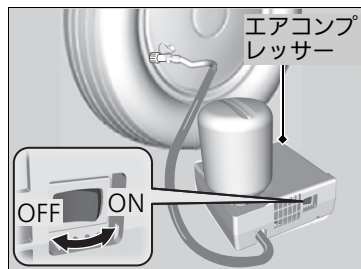
注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。

SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。

安全運転の妨げとなります。



4. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。

▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。

- 空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 未満の場合：

応急修理剤では修理はできません。

運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

- 空気圧が、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている空気圧の場合：

応急修理は完了です。

- 空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 以上、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている空気圧以下の場合：

エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。

Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 4 までを繰り返す。

▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

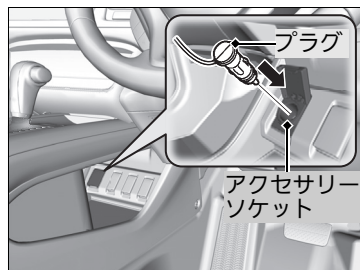
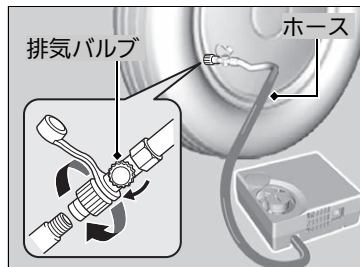
5. エアコンプレッサーなどをカーゴスペースに収納する。

点検走行

走行前に、空ボトルの取り付けられたエアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。
▶ 排気バルブが閉まっていることを確認してください。
5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリースOCKETに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
■ アクセサリースOCKET P.180
6. エンジンを開始する。
■ 一酸化炭素について P.59

■タイヤ空気圧の補充

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

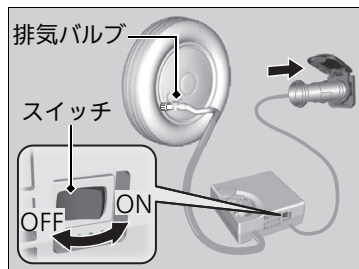
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。



7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、空気圧を、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている空気圧まで高める。
8. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
 - ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
 - ▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。
9. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットから外す。
10. エアコンプレッサーホースを外す。
11. エアコンプレッサーをカーゴスペースに収納する。

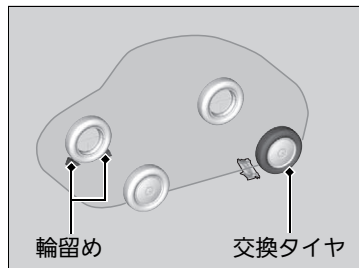
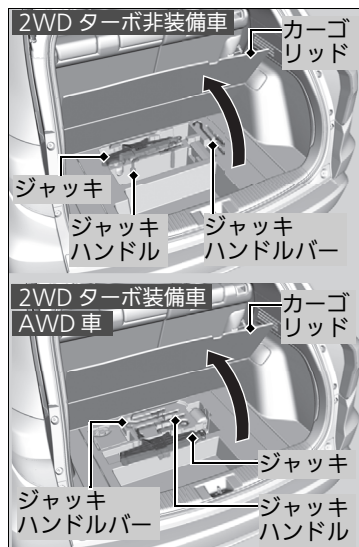
■タイヤ空気圧の補充

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

ジャッキのかけかた



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを **P** にする。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. カーゴリッドを開ける。
6. ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
7. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。

ジャッキのかけかた

警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

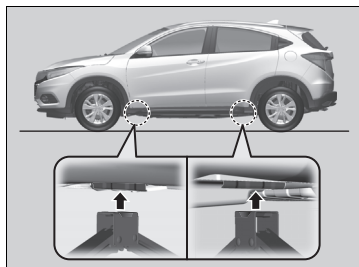
注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

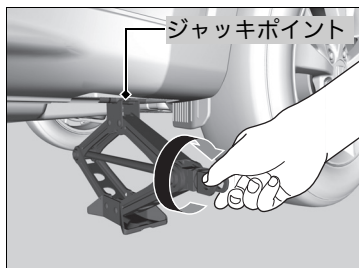
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にもものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

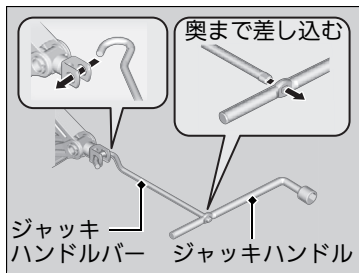


8. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



9. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分(矢印)の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



10. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

エンジンが始動しない

エンジン状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

❏エンジン状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

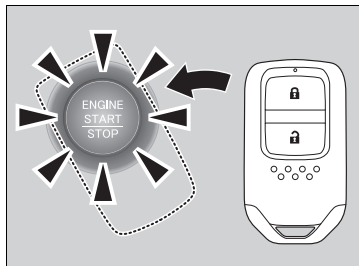
❏ ジャンプスタートの方法 P.354

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ スターターの回転が非常に遅い！ バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する 「キーでスイッチに触れて下さい」のメッセージが表示されているとき ❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.352 • エンジン始動の作動範囲を確認します。 ❏ ENGINE START/STOP スイッチ P.140 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ❏ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.352 室内灯などの明るさを確認する 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 ❏ヒューズの点検と交換 P.372
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	エンジン始動の手順を実行する もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ❏エンジンの始動 P.197 イモビライザーシステム表示灯を確認する イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ❏ イモビライザーシステム P.134 燃料の量を点検する 燃料が入っているか確認してください。 ❏燃料計 P.93 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ❏ヒューズの点検と交換 P.372

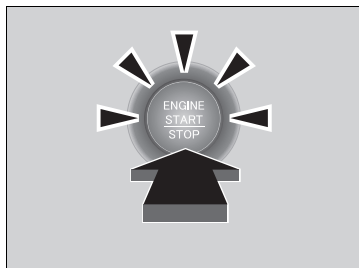
以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. **ENGINE START/STOP** を押す。
▶ 「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、**ENGINE START/STOP** が約 30 秒間点滅します。
2. **ENGINE START/STOP** が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ 「ピッ」とブザーが鳴り、**ENGINE START/STOP** が約 10 秒間点灯します。
3. **ENGINE START/STOP** が点灯している間に、ブレーキペダルを踏みながら、**ENGINE START/STOP** を押す。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリモードになります。



緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP ボタンは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。

エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- **ENGINE START/STOP** を約 2 秒間押す。
- **ENGINE START/STOP** を連続して 3 回押す。

このとき、ハンドルロックはされていません。

エンジンを停止すると、パワーモードはアクセサリモードになります。
パワーモードを OFF モードにするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください。

1. セレクトレバーを **P** に入れる。
2. ブレーキペダルを踏まずに **ENGINE START/STOP** を 2 回連続して押す。

⚠緊急時のエンジン停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に

ENGINE START/STOP を押さないでください。

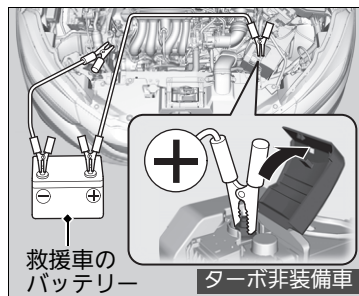
走行中に **ENGINE START/STOP** を押すとブザーが鳴ります。

12V バッテリーがあがったとき

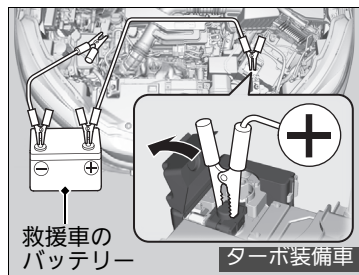
ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
 - ▶ 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
 - ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。



ジャンプスタートの方法

警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。

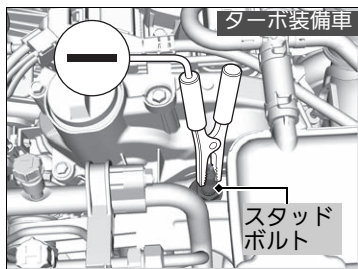
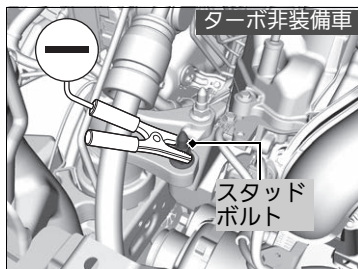
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。



5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

エンジン始動後の作業



警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

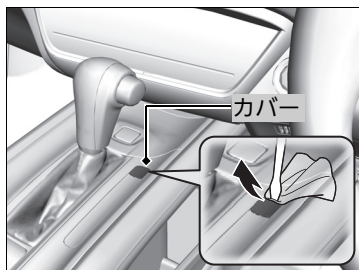
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

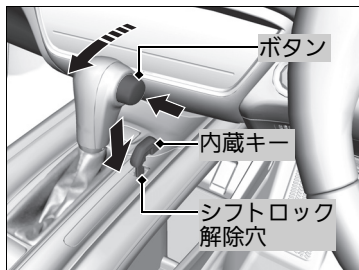
セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、**P**の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. 細いマイナスドライバーの先端に布を巻き、シフトロック解除穴のカバーを外す。
▶ マイナスドライバーの先端を、図のように切り欠きに入れて外します。



4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを**N**に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にする事

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]に入れます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままボンネットを開ける。

蒸気が出ている場合：エンジンを止め、蒸気が出なくなしてからボンネットを開ける。

■次にすること



ターボ非装備車

1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを止める。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを止めます。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

※オーバーヒートしたときの対処方法

ターボ非装備車



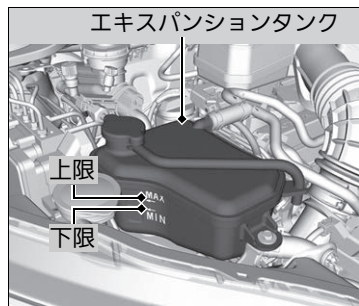
警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。



ターボ装備車

1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、エキスパンションタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

※オーバーヒートしたときの対処方法

ターボ装備車

⚠ 警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

エキスパンションタンクから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにエキスパンションタンクキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずエキスパンションタンクが十分に冷えてからキャップを外してください。

共通

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを止め、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
 - ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
 - ▶ 消灯した：運転を再開してください。
 - ▶ 10 秒以内に消灯しない：エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを止めな
いでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に
放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

※PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

※ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した



■点灯の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯します。

■点灯したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■電子制御パーキングブレーキ作動警告灯の点灯または、点滅と同時に点灯したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

❖電子制御パーキングブレーキ P.280

- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯と一緒に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。
 - ▶ 車両が動き出さないように、セレクトレバーを **P** にしてください。
- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

❖電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した

パーキングブレーキを使用すると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

電子制御パーキングブレーキ作動警告灯と一緒に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

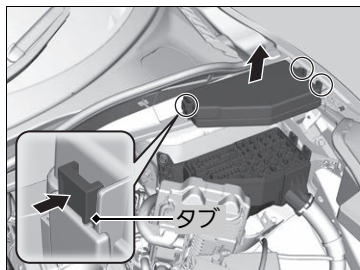
電子制御パーキングブレーキ作動警告灯と一緒に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



■ヒューズボックス A

エンジンルーム内の助手席側にあります。
タブを押して開けてください。

※エンジンルーム内のヒューズボックス

■ヒューズボックス A

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

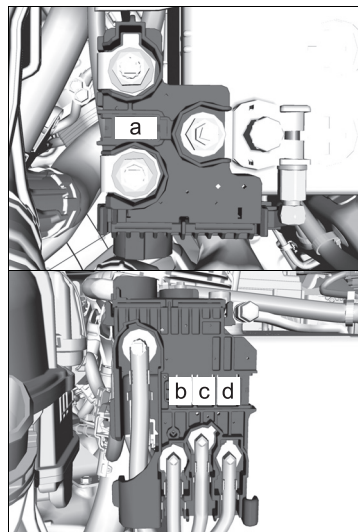
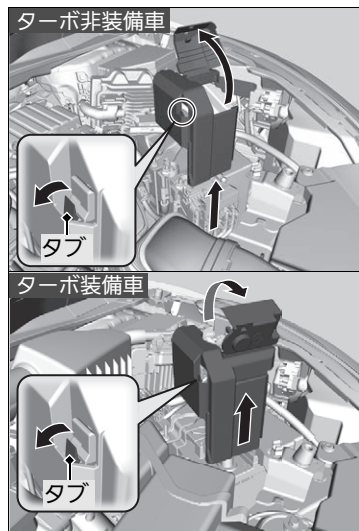
容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ワイパー	(30A)
2	—	—	—
3		制動灯メイン	30A
4		キャパシタ※1 — ※2	(30A)
5		ヘッドライトロー ビームメイン	20A
6		—	(20A)
7		インジェクター	(20A)
8		IGP	15A
9		イグニッションコ イル	15A
10		ドライブパイワイヤ — ※1	15A
11		VST2※2	(30A)
12		冷却ファン※1 — ※2	30A —
13		オートスターター	(30A)
14		MG クラッチ	7.5A
15		バッテリーセンサー※1 バックアップ(FI ECU)※2	(7.5A) 10A
16		フォグライト*	(10A)
17		EOP※1 TCU※2	(10A) (15A)
18		ホーン	10A

	表示	装備	容量
19		車幅灯	10A
20		—	(10A)※1 (7.5A)※2
21		バックアップ	10A
22		オーディオ※1 — ※2	(10A)
23		サブファン※1 — ※2	(30A) —
24		— ※1 VST2※2	(30A)
25		IGP2 サブ※1 VBACT※2	(7.5A) 10A
26		FI サブ	(7.5A)
27		左側ヘッドライト ロービーム	10A
28		右側ヘッドライト ロービーム	10A
29		オートスターター — ※1	(7.5A) —
30		バックアップ2(メイン)※2	(30A)
31		制動灯	10A
32		非常点滅表示灯	10A
33		アクセサリライト	(10A)

※1 : ターボ非装備車

※2 : ターボ装備車



■ヒューズボックス B

エンジンルーム内の助手席側に付いている、バッテリーの ⊕ 端子の隣にあります。

1. ⊕ 端子部分のフタを開ける。
2. タブを引いてカバーを取り外す。

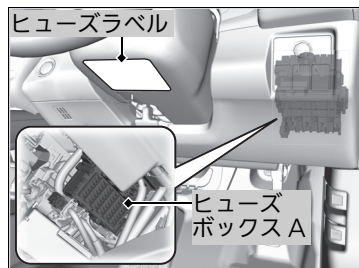
■各ヒューズの装備と容量

表示	装備	容量
a	バッテリーメイン	100A ^{※1} 125A ^{※2}
b	RB メイン 1	70A
c	RB メイン 2	80A
d	CAP メイン ^{※1} RFC ^{※2}	80A 50A

※1 : ターボ非装備車

※2 : ターボ装備車

■室内運転席側のヒューズボックス



■ヒューズボックス A

ハンドル右側のインストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

※室内運転席側のヒューズボックス

ヒューズボックス A

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

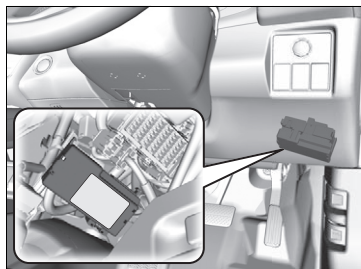
容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1 	ドアロック	20A
2 —	—	—
3 	Honda スマートキーシステム	(10A)
4 	左側ドアアンロック	10A
5 	右側ドアアンロック	10A
6 	—	(10A)
7 	—	(10A)
8 	運転席 パワーウィンドー	20A
9 	助手席 パワーウィンドー	20A
10 	助手席側 リヤパワーウィンドー	20A

表示	装備	容量
11 	運転席側 リヤパワーウィンドー	20A
12 	左側ドアロック	10A
13 	右側ドアロック	10A
14 	—	(10A)
15 	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
16 	—	(7.5A)
17 	—	(20A)
18 	—	(20A)
19 	シートヒーター*	(20A)
20 	助手席パワーシート* (前後スライド)	(20A)
21 	助手席パワーシート* (リクライニング)	(20A)
22 	ウォッシャー	15A
23 	リヤワイパー	(10A)
24 	エアコン	7.5A
25 	アクセサリライト	(7.5A)
26 	スターター	(7.5A)
27 	ABS/VSA	7.5A
28 	SRS エアバッグシステム	10A
29 	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
30 	オルタネータ	10A

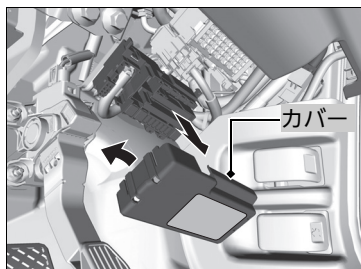
表示	装備	容量
31 	リレー	10A
32 	フューエルポンプ	15A
33 	—	(7.5A)
34 	メーター	7.5A
35 	ミッションソレノイド	7.5A
36 	アクセサリソケット (フロントコンソール)	20A
37 	ACC	(7.5A)
38 	—	(7.5A)
39 	オプション	10A
40 	リヤワイパー	10A
41 —	—	—
42 —	—	—
a 	運転席パワーシート* (リクライニング)	(20A)
b 	運転席パワーシート* (前後スライド)	(20A)

万
一
の
場
合
に
は



■ヒューズボックス B

室内のヒューズボックスAの下にあります。
カバーを開けてください。



※室内運転席側のヒューズボックス

ヒューズボックス B

ヒューズボックスのカバーに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とカバーの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

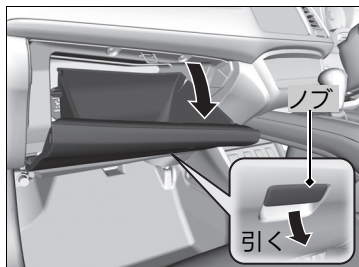
	表示	装備	容量
1		EPS	70A
		イグニッション(メイン)	30A
		ヒューズボックス(メイン 2)	50A
		ABS/VSA	40A
		ヒューズボックス(メイン)	30A
		ヒューズボックス(メイン 3)*	40A
		リヤデフロスター	30A
		電子制御パーキング ブレーキ	30A
		イグニッション(メイン)	30A
		ヒーターモーター	40A
2		電子制御パーキング ブレーキ	30A
		+B ABS/VSA	30A

	表示	装備	容量
3		運転席パワーシート* (メイン)	(40A)
4	—	—	—
5		AWD*	(20A)
6		フロントガラス熱線*	(10A)
7		—	(20A)
8		オプション*	(7.5A)
9		室内灯	7.5A
10		アクセサリソケット (センターコンソール ボックス後部)	(20A)
11	—	—	—
12	—	—	—
13		ヒータードリアミラー*	(10A)
14		—	(7.5A)
15	—	—	—

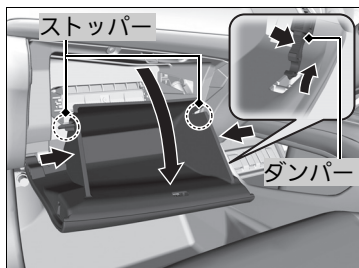
万
一
の
場
合
に
は

ターボ装備車

室内助手席側のヒューズボックス



1. グローブボックスを開ける。

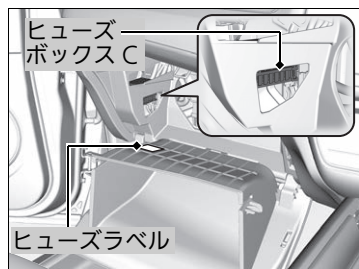


2. ダンパーを外す。

3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

室内助手席側のヒューズボックス

グローブボックスに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。ヒューズ番号とカバーの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

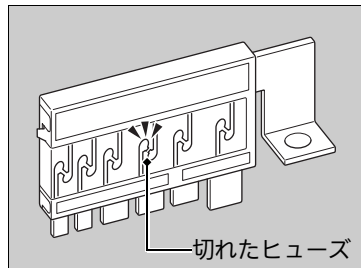
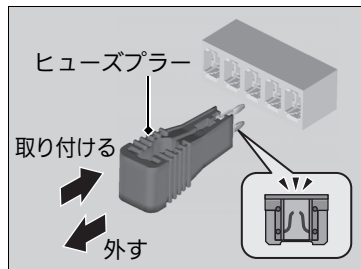
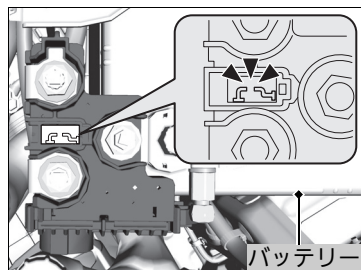


■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1 	フューエルポンプ	7.5A
2 	IG1 リレー2	7.5A
3 	EOP	(10A)
4 	DBW	7.5A
5 	アクセサリ	7.5A
6 	IG1 リレー1	7.5A
7 	バックアップ 2 メイン	15A

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. バッテリーの ⊕ 端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。
4. エンジンルーム内のヒューズボックスAのフタを取り外す。
5. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。
6. 室内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
7. 室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

※ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。

交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。

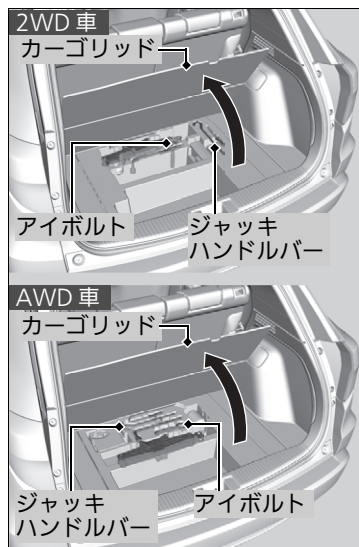
エンジンルーム内のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引は、専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、AWD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



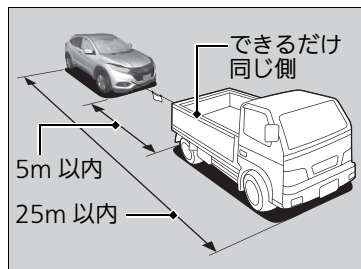
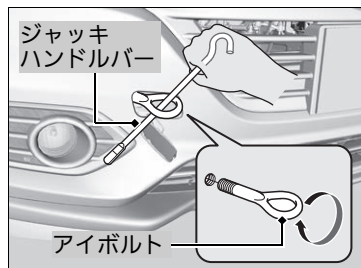
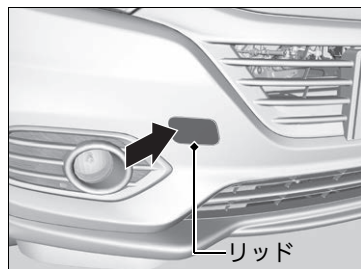
1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード(オイル)などが漏れていないことを確認する。
▶ 異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. カーゴリッドを開けて、ジャッキハンドルバーとアイボルトを取り出す。

※非常時のけん引

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD 車は四輪または前輪、AWD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。



3. リッドの左側を押し込んで外す。

4. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

5. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。

6. エンジンをかけてセレクトレバーを **[D]** にし、約 5 秒間保持する。

▶ エンジンが始動しないときは、パワーモードをアクセサリモードまたは ON モードにします。

※非常時のけん引

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

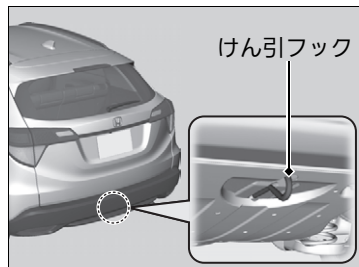
アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- トランスミッションが破損するおそれがある

7. セレクトレバーを **N** (ニュートラル) にする。
8. パーキングブレーキを解除する。
9. けん引する。
 - ▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。
 - ▶ 速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引してください。

■ やむをえず他車をけん引する場合



やむをえず他車のけん引を行う場合、リヤバンパー下にあるけん引フックにロープをかけてください。

☒ やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

けん引フック以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

自車より重い車のけん引は避けてください。

アイドリングストップシステムを OFF にしてください。

☒ アイドリングストップシステムの ON/OFF
P.212

テールゲートが開かないとき

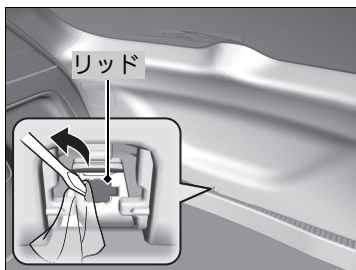
開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。

テールゲートのリッド



1. テールゲートのリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、取り外す。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開く。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

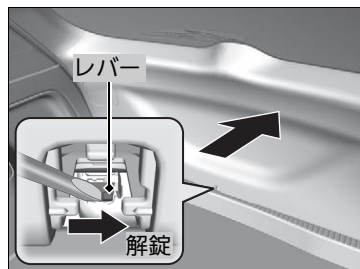
開かないときの対処方法

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。



3. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様 379



■仕様

名称	VEZEL
排気量	1,496cm ³
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	5名

■点火プラグ

NGK	DILZKAR7C11S ^{※1} ILZKAR8H8S ^{※2}
DENSO	DXE22HCR11S ^{※1}

※1 : ターボ非装備車

※2 : ターボ装備車

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル遊び	1-5mm
床板とのすき間	125mm以上 ^{※1、※3} 124mm以上 ^{※1、※4} 105.3mm以上 ^{※2} [約196N(20kgf)の力]
カーペットとのすき間 (参考値)	114mm以上 ^{※1、※3} 113mm以上 ^{※1、※4} 94mm以上 ^{※2} [約196N(20kgf)の力]

※1 : ターボ非装備車

※2 : ターボ装備車

※3 : 7速マニュアルシフトモード非装備車

※4 : 7速マニュアルシフトモード装備車

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	40L ^{※1} 50L ^{※2}

※1 : ターボ非装備車

※2 : ターボ装備車

■エアクリナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■バッテリー

容量 / タイプ	36AH(5)、45AH(20)/55B24L ^{※1、※3} 36AH(5)、47AH(20)/55B24L ^{※1、※3} 48AH(5)、60AH(20)/LN2-EFB ^{※2、※4}
----------	---

※1 : アイドリングストップ適合バッテリー

※2 : アイドリングストップ専用バッテリー

※3 : ターボ非装備車

※4 : ターボ装備車

■ウォッシャー液

タンク容量	2.0L ^{※1} 2.5L ^{※2}
-------	--

※1 : ターボ非装備車

※2 : ターボ装備車

■電球

ヘッドライト	ロービーム	LED
	ハイビーム	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯		LED
アクセサリライト / 車幅灯		LED
フォグライト*		LED ^{※1} 12V-35W ^{※2}
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯		LED
制動灯 / 尾灯		LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
尾灯*		LED
後退灯		12V-16W
ハイマウントストップランプ		LED
番号灯		LED
マップランプ		LED
室内灯		LED
カーゴスペース照明灯		12V-5W
パニティミラー照明灯*		12V-2W

※1 : 7速マニュアルシフトモード装備車

※2 : 7速マニュアルシフトモード非装備車

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4		
-----	-----------------------------------	--	--

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正	2WD 車	3.4L (交換時) ^{※1}
	ウルトラ		3.7L (交換時) ^{※2}
	HCF-2	AWD 車	3.9L (交換時)

※1 : ターボ非装備車

※2 : ターボ装備車

■デファレンシャルオイル AWD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF-II		
規定量	1.247L (交換時)		

■エンジンオイル

ターボ非装備車

推奨	• Honda ULTRA NEXT^{※1} • Honda ULTRA Green • Honda ULTRA LEO • API SM 級以上		
	0W-16、0W-20、5W-30		
規定量	オイル交換時		3.1L
	オイル、オイルフィルター 同時交換時		3.3L

※1 : 最も省燃費性に優れたオイルです。

ターボ装備車

推奨	• Honda ULTRA LEO^{※1} • Honda ULTRA LTD • Honda ULTRA MILD • API SM 級以上		
	0W-20、0W-30、5W-30、10W-30		
規定量	オイル交換時		3.2L
	オイル、オイルフィルター 同時交換時		3.5L

※1 : 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント		
規定濃度	50%		
規定量	3.63L (交換時：リザーブタンク 0.475L 含む) ^{※1}		
	5.77L (交換時：リザーブタンク 0.58L 含む) ^{※2}		

※1 : ターボ非装備車

※2 : ターボ装備車

■タイヤ

サイズ	215/60R16 95H ^{※1}		
	225/50R18 95V ^{※2}		
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪 210[2.1]/後輪 200[2.0] ^{※1}		
	前輪 230[2.3]/後輪 200[2.0] ^{※2、※3}		
	前輪 220[2.2]/後輪 210[2.1] ^{※2、※4}		
リムサイズ	16×7J ^{※1}		
	18×7 1/2J ^{※2}		

※1 : 7 速マニュアルシフトモード非装備車

※2 : 7 速マニュアルシフトモード装備車

※3 : ターボ非装備車

※4 : ターボ装備車

数字

12Vバッテリーがあがったとき	354
7速マニュアルシフトモード	206
シフトインジケーター/M(7速マニュアル シフトモード)表示灯	73, 205

A

A/C(エアコン)	184, 328
ABS(アンチロックブレーキシステム)	285
ABS警告灯	65, 285
ACC(アダプティブ・クルーズ・ コントロール)	237
ACC警告灯	67
ACC表示灯	75

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ)	221
CMBS警告灯	68, 69
CVT(無段変速オートマチックトランス ミッション)	203

E

ECONスイッチ	210
ECON表示灯	73
ENGINE START/STOPスイッチ	140
パワーモードの切り換えかた	140

EPS(電動パワーステアリング)システム 警告灯	66, 361
ETC車載器	別冊

H

HDMIジャック	表紙ウラ
Hondaインターナビシステム	別冊
Hondaスマートキー	118, 120
Hondaスマートキーシステム警告灯	64
緊急時のエンジン停止方法	353
電池交換のしかた	327

I

IRカットガラス	331
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシート	53

L

LKAS(車線維持支援システム)	250
LKAS警告灯	67
LKAS表示灯	75

M

M(7速マニュアルシフトモード) 表示灯	73, 205
MIST	147

P

PGM-FI警告灯	63, 360
-----------------	---------

R

REAL TIME AWD(オールホイール ドライビング)システム	219
AWDシステム警告灯	67

S

SEL/RESETスイッチ	92
SRSエアバッグ	37
エアバッグシステム警告灯	44, 65

U

USBジャック	表紙ウラ
---------------	------

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)	216
VSA OFF警告灯	65
VSA警告灯	65, 216

W

W(ワット)数	379
---------------	-----

ア

アームレスト	171
フロントシート	171
リヤシート	171
アイドリングストップシステム	211
アイドリングストップシステム警告灯	66
アイドリングストップ表示灯	74
アイボルト	338, 374
アクセサリ	336
アクセサリソケット	180
アクセサリライト	144
アクセサリライト/車幅灯	309
アジャイルハンドリングアシスト	218
アダプティブ・クルーズ・コントロール (ACC)	237
ACC警告灯	67
ACC表示灯	75
安全なドライブのために	25
安全に関する表示	21
安全のための確認事項	25
アンチロックブレーキシステム(ABS)	
ABS警告灯	65, 285
アンビエントメーター	5

イ

一酸化炭素の危険性	59
イモビライザーシステム	134
イモビライザーシステム表示灯	72

イルミネーションコントロール	150
インフォメーションスイッチ	91

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)	143
ウィンドウォッシャー	
ウィンドウォッシャー液の補給	308
ウィンドウォッシャースイッチ	147
ウィンドウの開閉	136
ウェアインジケーター	321
運転	
エンジンの始動	197
シフト操作	204, 208
ブレーキ操作	280

エ

エアクリナーエレメント	379
エアコン	184, 328
エアクリーンフィルター	328
オートエアコンの使いかた	185
窓の曇りや霜の取りかた	187
エアバッグ	37
SRSエアバッグ	37
エアバッグシステム警告灯	44, 65
エアバッグシステム故障診断記録装置	22
エアバッグのお手入れ	45
サイドエアバッグ	40
サイドカーテンエアバッグ	42

エキスパンションタンク	304, 358
エキスパンションタンクキャップ	304
エコアシストシステム	5
エマージェンシーストップシグナル	287
エンジンオイル	306
推奨エンジンオイル	306, 380
油圧警告灯	63, 359
エンジンの始動	197
12Vバッテリーがあがったとき	354
エンジンが始動しない	351
エンジンルーム内のメンテナンス	303
ウィンドウォッシャー液の補給	308
エンジンルーム内のメンテナンス項目	303
推奨エンジンオイル	306
ボンネットを開ける	305
冷却水の点検と補給	357
エンジン冷却水	380

オ

追越合図(パッシング)	144
オイルモニターシステム	299
応急修理剤(タイヤパンク)	339
オーディオ装置	193
オートエアコン	185
オートドアロック/ オートドアアンロック	131
カスタマイズ	98

オートマチックブレーキホールド	283
オートマチックブレーキホールドシステム	
表示灯	74
オートマチックブレーキホールド	
表示灯	74
オートリトラミラー	158
オートワイパー	148
オーバーヒート	357
オールホイールドライビング(AWD)	
システム	219
オドメーター	93
温度センサー	89

カ

カーゴスペース照明灯	174
電球の交換	315
カーゴフロアボックス	177
外気温表示	89
鍵(かぎ)	118
カスタマイズ機能	97
ガソリン	291, 379
下部取付金具	53

キ

キー

Hondaスマートキー	118, 120
Hondaスマートキーの電池が	
切れたとき	352

キー閉じ込み防止装置	127
キーナンバータグ	119
キーの種類と機能	118
キーレスエントリーシステム	126
キーレスエントリーでドアが開かない	19
後席ドアが開かない	18
電池交換のしかた	327
内蔵キー	119
キー閉じ込み防止装置	127
キーナンバータグ	119
キーレスエントリーシステム	126
キックダウン	203
給油	291
給油のしかた	291
指定燃料	291, 379
燃料計	93

ク

空気圧	380
空気圧測定器による点検	321
グラブレード	3
クリーブ現象	203
車の改造	336
グローブボックス	175

ケ

経過時間表示	91, 94
計器	60

警告灯	61
ABS警告灯	65, 285
ACC警告灯	67
AWDシステム警告灯	67
CMBS警告灯	68, 69
EPSシステム警告灯	66, 361
Hondaスマートキーシステム警告灯	64
LKAS警告灯	67
PGM-FI警告灯	63, 360
VSA OFF警告灯	65
VSA警告灯	65
アイドリングストップシステム警告灯	66
エアバッグシステム警告灯	44, 65
高水温警告灯	66
シートベルト非着用警告灯	28, 64
充電警告灯	63, 359
電子制御パーキングブレーキ作動	
警告灯	62
電子制御パーキングブレーキシステム	
警告灯	63, 362
トランスミッション警告灯	64
ブレーキ警告灯(レッド)	61, 360
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	61
油圧警告灯	63, 359
路外逸脱抑制機能警告灯	70
警告灯の点灯/点滅	359
けん引	373

コ

交換

アクセサリライト/車幅灯電球	309
カーゴスペース照明灯電球	315
後退灯電球	313
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	312
室内灯電球	315
制動灯/尾灯電球	312
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球	309
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球	311
ハイマウントストップランプ電球	314
パニティミラー照明灯電球	315
番号灯電球	314
尾灯電球	313
フォグライト電球	310
ヘッドライト電球	309
マップランプ電球	315
ワイパーブレードラバー	316, 318
工具	338
交差点案内表示	95
高水温警告灯	66
航続可能距離表示	91, 94
後退灯	313
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	312
コートフック	181

誤発進抑制機能	228
コンソールボックス センターコンソールボックス	175

サ

サービス診断記録装置について	22
サイドエアバッグ	40
サイドカーテンエアバッグ	42
サンバイザー	3

シ

シートの調節	160
アームレスト	171
フロントシート	160
ヘッドレスト	169
リヤシート	164
シートヒーター	182
シートベルト	27
アンカーポイント	36
シートベルトの着用	30
シートベルトの点検	36
シートベルト非着用警告灯	28, 64
シートベルトプリテンショナー	29
シートベルトリマインダー	28
妊娠中のかたのシートベルト 着用のしかた	35

時刻の設定	115
室内装備品	175
室内灯	172
指定燃料	291, 379
シフトインジケーター	73, 205
シフトインジケーター/M(7速マニュアル シフトモード)表示灯	73, 205
シフトスイッチ	207
シフト操作	204, 208
車外の清掃	332
車線維持支援システム(LKAS)	250
LKAS警告灯	67
LKAS表示灯	75
ジャッキ	338, 349
ジャッキハンドルバー	338
ジャッキハンドル (ホイールナットレンチ)	338
車内の清掃	330
充電警告灯	63, 359
瞬間燃費表示	91, 94
仕様	379
衝撃感知ドアロック解除システム	130
衝突軽減ブレーキ(CMBS)	221
ショルダーアンカー	32
親水ミラー	335

ス

スイッチ

ECONスイッチ	210
ENGINE START/STOPスイッチ	140
イルミネーションコントロール	150
オートマチックブレーキホールド スイッチ	283
セレクト/リセットノブ	92, 150
パーキングブレーキスイッチ	280
フォグライト	146
フロントガラス熱線スイッチ	151
方向指示器(ウィンカースイッチ)	143
ライトスイッチ	144
リヤデフロスタースイッチ	151
ワイパー/ウォッシャー	147
スーパーUVカットガラス	331
ステアリング	154
スピードメーター	88

セ

清掃	330
制動灯/尾灯	312
セキュリティシステム	134
イモビライザーシステム	134
セキュリティアラームシステム	134
セレクトポジション	204, 208
セレクトポジション 表示灯	73, 205, 209

セレクトレバー

セレクトレバーが動かない	356
セレクトレバーの操作	205, 209
先んず車発進お知らせ機能	266
センターコンソールボックス	175
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	309

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	311
-------------------------	-----

タ

ターボ車	294
タイヤ	320
ウェアインジケーター	321
指定空気圧	380
タイヤの点検	320
タイヤのローテーション	323
タイヤパンク応急修理キット	339
冬期のタイヤ	325
パンク	339
タコメーター	88

チ

チャイルドシート	46
ジュニアシート	57
乳児のチャイルドシート	47
幼児のチャイルドシート	48

チャイルドブルーフ	130
駐停車操作	288

テ

停止表示板入れ	183
低水温表示灯	71
データの開示について	22
テールゲートの開閉	132
テールゲートが開かないとき	376
ドア/テールゲート開閉警告	77
デフロスター	187
リヤデフロスター	151
電子制御パーキングブレーキ	280
電子制御パーキングブレーキ作動 警告灯	62
電子制御パーキングブレーキシステム 警告灯	63, 362
電子制御ブレーキアシスト	286
電池交換	327

ト

ドアの施錠と解錠	118
キー閉じ込み防止装置	127
キーナンバータグ	119
キーの種類と機能	118
キーレスエントリーシステム	126
キーレスエントリーでドアが開かない	19
後席ドアが開かない	18

車外でのドアの施錠/解錠.....	121	セレクトレバーが動かない.....	356	ハイマウントストップランプ.....	4, 314
車内での施錠/解錠.....	128	走行するとブザーが鳴る.....	19	ハザードスイッチ.....	表紙ウラ
衝撃感知ドアロック解除システム.....	130	ハイオクガソリンは使える？.....	20	発炎筒.....	338
チャイルドブルーフ.....	130	パンクした.....	339	パッシング.....	144
ドア/テールゲート開閉警告.....	77	ヒューズが切れた.....	363	発進補助ブレーキ機能.....	215
ドアミラー.....	156	ブレーキを踏むと音がする.....	20	バッテリー.....	
冬期のタイヤ.....	325	ブレーキを踏むと振動する.....	18	12Vバッテリーがあがったとき.....	354
時計.....	115	トランスミッション警告灯.....	64	充電警告灯.....	63, 359
時計の表示.....	89	トランスミッションフルード.....	380	容量.....	379
トップテザーストラップ.....	54	トリップメーター.....	93	バニティミラー.....	3
トップテザー取付金具.....	54	ドリンクホルダー.....	178	パワーウィンドーの開閉.....	136
トップテザー取付金具シンボル.....	54			パワーモード.....	
ドライバー.....	338			パワーモードオートオフ機能.....	141
ドライビングポジションシステム.....	152			パワーモード警告ブザー.....	141
トラブルシューティング.....				パワーモードの切り換えかた.....	140
アクセルペダルを踏んでもパーキング				パンク.....	339
ブレーキが自動で解除できない.....	19			番号灯.....	314
パーキングブレーキスイッチを押しても				ハンドル.....	154
パーキングブレーキが解除できない.....	19			ハンドル位置調整レバー.....	154
12Vバッテリーがあがった.....	354				
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る.....	19				
エンジンが始動しない.....	351				
オーバーヒートした.....	357				
キーレスエントリーでドアが開かない.....	19				
警告灯が点灯/点滅した.....	359				
けん引してもらいたい.....	373				
後席ドアが開かない.....	18				

ナ

内蔵キー.....	119
-----------	-----

ネ

燃料.....	291, 379
燃料計.....	93
燃料残量警告.....	77

ハ

排気ガスの危険性.....	59
ハイドロブレーニング現象.....	201
ハイビーム.....	144
ハイビーム表示灯.....	71

ヒ

ヒーテッドドアミラーアイコン.....	151
非常点滅表示灯スイッチ.....	表紙ウラ
尾灯.....	312, 313
ヒューズ.....	363
ヒューズの設置場所.....	363
ヒューズの点検と交換.....	372

標識認識機能.....	270
表示灯.....	71
ACC表示灯.....	75
ECON表示灯.....	73
LKAS表示灯.....	75
アイドリングストップシステムOFF 表示灯.....	74
アイドリングストップ表示灯.....	74
イモビライザーシステム表示灯.....	72
インフォメーション表示灯.....	75
オートマチックブレーキホールドシステム 表示灯.....	74
オートマチックブレーキホールド 表示灯.....	74
シフトインジケーター/M(7速マニュアル シフトモード)表示灯.....	73, 205
セキュリティアラームシステム作動 表示灯.....	72
セレクトポジション表示灯.....	73, 205, 209
低水温表示灯.....	71
ハイビーム表示灯.....	71
フォグライト点灯表示灯.....	71
方向指示器/非常点滅表示灯.....	71
ライト点灯表示灯.....	71

フ

ブースターケーブル.....	354
フォグライト.....	146, 310

ブザー

運転席ドアを開けるとブザーが鳴る.....	19
走行するとブザーが鳴る.....	19
フューエルリッドの開けかた.....	291
プリズムアンダーミラー.....	159
ブレーキ警告灯(レッド).....	61, 360
ブレーキシステム.....	280
ABS(アンチロックブレーキシステム) ...	285
アクセルペダルを踏んでもパーキング ブレーキが自動で解除できない.....	19
エマージェンシーストップシグナル.....	287
オートマチックブレーキホールド.....	283
電子制御パーキングブレーキ.....	280
電子制御ブレーキアシスト.....	286
パーキングブレーキスイッチを押しても パーキングブレーキが解除できない.....	19
フットブレーキ.....	282
ブレーキ警告灯(レッド).....	61, 360
ブレーキシステム警告灯(オレンジ).....	61
ブレーキを踏むと音がする.....	20
ブレーキを踏むと振動する.....	18
ブレーキシステム警告灯(オレンジ).....	61
ブレーキフルード.....	380
ブレーキ警告灯(レッド).....	61, 360
フロントガラス熱線スイッチ.....	151
フロントシート.....	160
アームレスト.....	171
ヘッドレスト.....	169
フロントセンサーカメラ.....	277

へ

平均車速表示.....	91, 94
平均燃費表示.....	91, 94
ヘッドライト.....	144, 335
追越合図(パッシング).....	144
電球の交換.....	309
ハイビーム.....	144
ハイビーム表示灯.....	71
ライト点灯表示灯.....	71
ロービーム.....	144
ヘッドライトオートオフ機能.....	145
ヘッドレスト.....	169
フロントシート.....	169
リヤシート.....	170

ホ

ホイールサイズ.....	380
ホイールナットレンチ (ジャッキハンドル).....	338
方向指示器(ウィンカースイッチ).....	143
方向指示器/非常点滅表示灯.....	71
ホーンスイッチ.....	1
歩行者事故低減ステアリング.....	230
ホンダセンシング.....	220

マ

マイナスイグニッション	338
マスタードアロックスイッチ	129
マップランプ	173
マップランプ電球	315
マルチインフォメーションディスプレイ	90
警告メッセージ	76

ミ

ミラー	155
自動式防眩ミラー	155
ドアミラー	156
パニティミラー	3
プリズムアンダーミラー	159
ルームミラー	155

メ

メーター	8, 88
スピードメーター	88
タコメーター	88
燃料計	93
マルチインフォメーション ディスプレイ	90

メンテナンス	295
Hondaスマートキー	326
エアコンのお手入れ	328
エンジンルーム内のメンテナンス	303
清掃	330
タイヤの点検と整備	320
メンテナンスに関する注意事項	298
メンテナンスを安全に行うために	297
ライト類の点検と整備	309
ワイパーブレードラバーの点検と整備	316

ユ

油圧警告灯	63, 359
有料道路自動料金支払いシステム(ETC) 車載器	別冊

ラ

ライトスイッチ	144
追越合図(パッシング)	144
ハイビーム	144
ハイビーム表示灯	71
フォグライト点灯表示灯	71
ライト点灯表示灯	71
ロービーム	144

ライト類の点検と整備	309
アクセサリライト/車幅灯電球	309
カーゴスペース照明灯電球	315
後退灯電球	313
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	312
室内灯電球	315
制動灯/尾灯電球	312
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 電球	309
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球	311
ハイマウントストップランプ電球	314
パニティミラー照明灯電球	315
番号灯電球	314
尾灯電球	313
フォグライト電球	310
ヘッドライト電球	309
マップランプ電球	315
ラジエーター	357

リ

リザーブタンク	357
リバース連動ドアミラー	157
リムサイズ	380
リヤシート	164
アームレスト	171
ヘッドレスト	170
リヤシェルフ	176
リヤデフロスタースイッチ	151
リヤワイドカメラシステム	290

ル

ルームミラー	155
--------------	-----

レ

レーダーセンサー	279
冷却水	357, 358, 380
オーバーヒート	357
高水温警告灯	66
低水温表示灯	71
補給	357, 358

ロ

ロービーム	144
路外逸脱抑制機能	260
路外逸脱抑制機能警告灯	70

ワ

ワイパー/ウォッシャー	147
ワイパーブレードドラバー	316

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <https://www.honda.co.jp>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。

ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。

QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様 相 談 セ ン タ ー
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010^{イフレイオ}

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離 ③ ご購入年月日 ④ 販売店名